

明治大学校歌

児玉花外
山田耕筰

作詞
作曲

一
白雲なびく駿河台
眉秀でたる若人が
撞くや時代の暁の鐘
文化の潮みちびきて
遂げし維新の榮になふ
明治その名ぞ吾等が母校
明治その名ぞ吾等が母校

二
權利自由の揺籃の
歴史は古く今もなほ
強き光に輝けり
独立自治の旗弱し
高き理想の道を行く
我等が健児の意氣をば知るや
我等が健児の意氣をば知るや
三

霊峰不二を仰ぎつつ
刻苦研鑽他念なき
我等に燃ゆる希望あり
いでや東亜の一角に
時代の夢を破るべく
正義の鐘を打ちて鳴らさむ
正義の鐘を打ちて鳴らさむ

第一應援歌 紫紺の歌

明治大学応援団
古賀政男

作詞
作曲

一、

光輝みつわれ等が
母校明治の名を
母血に勇めると
若き鋭い今こに

起てり土を蹴りて

闘志はもゆる神技の精華

無敵の明治明治明治
才明治明治われらが明治

二、

高らかにわれ等が
振う紫紺の旗風
雲は散り煙めく

若き日射は微笑みぬ

見よや眉上げて

勝利に進む拳の使命

無敵の明治明治明治
才明治明治われらが明治

三、

天を衝くわれ等が
意気は真紅の火と
向うとこ敵なくもえて

すでに陣頭正と

敵をうちどりと

制覇を果す歓喜の絵巻

無敵の明治明治明治
才明治明治われらが明治

明治大学雄弁部 部歌

一、

聖鐘聽くや駿台の
歴史が薫る縁の地
万感胸臆に抱きつつ
集いて来たる益荒男が
万が人の倖を得ん
おゝその名は駿台健児
吾等が雄弁部

二、

不二の峻嶺まで青雲を
心の幅は海に似て
一度起てば鮮血が
飛剣となつて闘わん
真理に生きる志の人
おゝその名は駿台健児
吾等が雄弁部

三、

日輪仰ぎ希望在り
実に博愛は月魄に在り
吾等は日頃慈しみ
進取の氣質培わん
自由の庇護者吾此処に
おゝその名は駿台健児
吾等が雄弁部

部長挨拶

明治大学雄辯部部長 小西徳應(政治経済学部教授)

IT時代におけるコミュニケーション

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。明治大学での先輩として、また雄辯部長として心より歓迎します。なお在学生の皆さんにはこれまで通り、人生の目標を定め、自分自身と社会の関係がどうあるべきかをしっかり考え、行動してくれることを期待しています。

皆さんも感じていることでしょうが、長く続いたコロナ禍が一応の終わりを見てアフターコロナ社会に入りつつある中で、日本も世界も様々な点で大きく変化してきています。身近な一例を挙げれば、話しを対面でするのか、リモートでやるのかに関するものです。コロナ禍の最中に想定された以上に、リモートが社会に入り込んできています。リモートでの会議、商談、報告はもちろん、皆さんに身近なところでは就職時の面接でも使われています。

そうした中で皆さんにいつておきたいことは、対面で実践するときも同じですが、リモートにおいて、むしろリモートであるからこそ一層、相手に自分の意思を明確に伝え、相手を確実に動かすことが大切だということです。さもなければ画面を通したイメージによる思い込み、外見的なことで判断されてしまいかねません。

では、そのような状況下では特別なスキルが必要なのでしょうか。そうした技術がないとは言いませんし、不要だとも思いません。しかし皆さんに認識していただきたいのは、ロジックやデータ、それらを支えている多様な知識と知恵、そしてそれらを話しことばや書きことばで表現できて初めて、人を動かすことができるということです。そうしたスキルを身につけることが皆さんの夢を実現する大きな手助けになると確信しています。

コロナ禍によって多くの知恵は伝承されなくなりましたし、大学のような通過者集団(学生)によって成り立っている組織では、知恵の伝承がほとんど有効になされていません。しかも伝承されていないだけでなく、親や祖父母からの知恵が伝承されるよりも、学業成績に直結する知識が優先されることが多くあります。そのため、日本社会でこれまで存在してきた「しきたり」や「作法」が伝承されず、何が大切なことなのか、必要なかはもちろん、その判断基準さえもさえわからなくなっています。個人的な満足を得た気になっていても、他者との関係構築ができず、最終的には社会性を欠いた人物になってしまう恐れがあります。

ぜひ、みずから手で自身の価値基準を作り上げ、雄辯部の仲間はもちろん、先輩や将来の後輩たちともしっかりコミュニケーションをとれる人物になってください。そのことが、あなた思想と知恵を確かなものにし、あなたを自己実現への道に導いてくれます。

OB 会長挨拶

明治大学雄辯部 OB 会会長 富水流孝二

雄弁の普遍性と OB 会の役割

2024 年度「駿台雄弁」の発行にあたり、OB 会を代表してご挨拶申し上げます。

新型コロナは、全世界をパンデミックに陥れ猛威をふるいましたが、昨年 5 月に感染症法の扱いが季節性インフルエンザと同等の 5 類に移行しました。皆さんに新しい出会いがもたらされ、新入部員勧誘も成功したことに、OB 会も大変喜んでいます。

さて、雄辯部の伝統的な口調練習の一つに、次のような例があります。

「そもそも雄弁の古き歴史をたずぬれば、古代ギリシャにおけるデモステネスの如きを追想することができるのであります。」

学生時代は、単なる口調練習として、深く考えることもありませんでしたが、古代ギリシャから引き継がれているものは哲学、オリンピック、ギリシャ芸術等限られています。この中に普遍性なるものとして、「雄弁」があることに、改めて感慨深い思いです。

なぜ雄弁に普遍性があるのか、改めて考えました。

それは人間社会の円滑化には、コミュニケーションが欠かせず、その主要な役割を担う言葉が必要不可欠であり、それらの言葉はより良い社会形成を目指して、民主主義を発展させてきました。民主主義の発展に「雄弁」が果たした役割は歴史上の有名な政治家の言葉が歴史の方向を変えていったことから裏付けされます。

雄辯部の OB 会も、皆さんと一緒に生涯「雄弁」と係わることで、主義・主張は違えども民主主義の発展に寄与したいと思っています。民主主義の健全性は、国民の政治に対する関心、理解と問題の分析等に帰属します。

OB 会の年度方針として僕は、生涯学習(レカレント)、学びなおし(リスキリング)を唱え、「そもそも雄弁とは何か」を絶えず問い続けていますが、実質的には人間性も同時進行に築き上げることが組織の強化につながると考えています。

人生全てわが師であり、常任幹事会、懇親会等あらゆる場面で現役の皆さんと係わりながら、先々の OB 会の発展の中核となる人材育成が OB 会の役割と考えています。

次の時代を作るのはいつの時代も青年であり、皆さんが自分自身の価値観で学生時代に培った雄弁道は、社会の中で様々な場面で発揮されるものと期待しています。

皆様と、同じ時代を生き、共に雄弁道を目指す OB 会のメンバーとして先々再会し、OB 会でも大いに活動頂けることを期待して。ご挨拶と致します。

2024 年 1 月 吉日

代表挨拶

高屋晃佑(政治経済学部2年)

初めに、駿台雄弁の発行に際しご支援賜りました卒部生の皆様、そして編集に携わったすべての現役部員の皆様に厚く御礼申し上げます。

我が明治大学雄辯部は創部134年と本学で最も長い歴史を持つサークルです。そんな歴史あるサークルの代表を務めることができ非常に光栄に思います。この134年という長い歴史の間、第二次世界大戦の戦禍や戦後盛んとなった学生運動、直近では新型コロナウイルスの感染拡大による活動の制限等、雄辯部の前には幾度となく困難が立ちはだかつてきました。

この度重なる困難を前にして、何故雄辯部は134年も続くサークルとなれたのでしょうか。私は雄辯部には自己変革の土壌があるからだと考えます。大学に入学し、大学生という身分を得るだけでは、我々には何の進歩もありません。各々が自らの持つ条件のもと、自身を問い直し、あるべき自分の姿を模索し、高めあっていく。このような過程を通して初めて人は成長することができるのではないのでしょうか。出身やルーツ、年齢や主義主張が異なる多様な部員が忌憚なく己の意見をぶつけ合い、弁論や企画を通して切磋琢磨しあう土壌が雄辯部にはあります。私は残りの代表任期を通して、部員により主体性を持たせ、真の議論空間を維持し、多様な活動を生み出していくことでこの土壌をより肥沃なものにしたいと考えています。

コロナ禍を経て、我々は再生の時を迎えています。ほんの数年前まで1期当たり10数名程度だった部員数は、今や総部員数130名を超えるほどの部勢となり、対面での活動が躊躇なくできる現状は、さらに肥沃な自己変革への土壌にするためにも最高の状態と言えるでしょう。部員全員が「自己実現」と「社会貢献」を志し「自己研鑽」と「社会実践」を積み重ねられる雄辯部を目指し、代表として職務を全うしていく覚悟であります。

眉秀でたる若人が 撞くや時代の暁の鐘

時代の暁の鐘を鳴らすのは、我々雄辯部員です。

目次

第0章	部長・OB 会長・代表挨拶	…P.1
第1章	2024 年度役職者挨拶	…P.5
第2章	明治大学雄辯部部則	…P.13
第3章	2023 年度活動記録	…P.25
第4章	2023 年度弁論大会原稿集	…P.33
第5章	2023 年度研究活動原稿集	…P.105
第6章	雄辯道	…P.147
第7章	部員紹介	…P.169
第8章	卒部の辞	…P.197
特別コラム		…P.214
編集後記		…P.215

第一章 ‘24 年度役職者挨拶

副代表挨拶

加藤正宗(法学部2年)

明治大学雄辯部副代表の加藤正宗です。

選出されて早半年、任期ももはや折り返しに至りました。思えば自らの微力を思い知らされる半年であるとともに、周囲の人々に助けられ続ける日々でもありました。

これまでの頂くばかりの日々から、頂いたものを少しでもお返しし、選挙における委任に応えられるよう、任期を全力で貫徹いたします。

至らぬところもあろうかと思いますが、今後とも雄辯部現役をよろしくお願い致します。

駿河台本部長挨拶

正躰幹人(情報コミュニケーション学部3年)

この度、駿河台本部長に就任しました132期正躰幹人と申します。

第4学年での就任になりますが、部の方向性に口を出すような元老になるようなことはなく、冷静なアドバイザーとして存在したいと考えています。また、駿河台部室の維持向上を第一に職務を全うする所存です。

和泉支部長挨拶

藤崎泰成(政治経済学部1年)

未だかつてない4名という立候補者数の選挙を経て10月より和泉支部長に就任いたしました、藤崎泰成です。130年余続いてきた雄辯部に一執行部員として貢献出来るのは大変名誉な事であり、身の引き締まる思いです。諸先輩方が積み上げてきた歴史を次代に受け継ぐだけでなく、私達現役が新たな歴史を刻む為にも支部長として円滑で充実した活動運営に尽力して参ります。どうぞよろしくお願い致します。

生田支部長挨拶

木村幹太(農学部 1 年)

生田支部は傾向的に毎年部員が少ないが、134期もその例に漏れませんでした。正直言って寂しいし、いつ行っても賑わっていた和泉の部室は羨ましかったです。しかしながら生田の先輩方は皆さん大変素晴らしい方々でしたし、生田にいたからこそ和泉や駿河台の同期や先輩方と積極的に交流しようと思えました。雄辯部のお陰で充実した一年間だったと思います。

だけでも、雄辯部の活動とキャンパスでの学問に悔いがなかったかといえばそんなことはなかったです。来年度はまた弁論大会に出たいし、興味ある分野の授業がようやく始まるので楽しみだし、新歓で沢山一年生を入部させるという目標があります。来年度は更に充実した日々を過ごせるよう、やるべきことはやるのだと自身の肝にしっかりと命じておきます。

会計監査挨拶

石井深優(政治経済学部 2 年)

この度会計監査に就任いたしました、石井深優です。

昨年度会計局長として活動してきました。そして今年度も会計監査として雄辯部に関わっていけることを嬉しく思います。部の財政を担い支えていく者の一人として、精一杯職務を遂行してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

弁論局長挨拶

渡邊小太郎(政治経済学部 2 年)

2023年8月より弁論局長に就任している渡邊小太郎です。

残った任期はあと半年。任期中に行われる弁論大会も残すところあと数回となりました。大会を重ねるごとに指導者としてはもちろん、弁論部員としての成長を感じることが出来るばかりです。後輩たちの自己実現と社会貢献のために残りの任期、全力を尽くして参ります。

企画局長挨拶

現職：久保田夏由(文学部1年)

この度、企画局長に就任いたしました久保田夏由です。

企画局を雄弁部員の多様なニーズに応える場所にしていきたいと思っています。

そして、楽しい企画を沢山開催していきたいです！

至らないところも多いと思いますが、精一杯頑張っ参りますので、応援のほどよろしくお願いいたします。

前職：新開千紘(農学部2年)

前企画局長の新開千紘です。本来載せる必要がない、前役職者の挨拶が載っているのは、駿台雄弁担当の好意によるものです。ここではそうなった経緯について述べさせていただきます。

企画局長の任期は2月から翌年の2月まででしたが、2月の選挙では信任者が出なかったため、3月からの2ヶ月間代理を立てる形で業務を行って参りました。結果、自分は選挙に出馬をし、信任された2年の5月から2月までの任期となりました。そして、この期間はちょうど、この駿台雄弁の製作期間から外れてしまいます。そんな状況において、今年の駿台雄弁の責任者の大河原優人に「9ヶ月以上も任期を全うしたのに何も残らないのはもったいない」と言っていただき、筆を取る機会をいただいた次第です。ただ、既に役職者でないものが、多くを語るべきではないでしょう。駿台雄弁担当と現企画局長の好意に改めて感謝の意を表すことで、挨拶と代えさせていただきます。

研究局長挨拶

瀬川大地(法学部1年)

このたび研究局長を拝命した瀬川大地です。

私が研究局長を選んだ理由は、何かを学ぶことが大好きなのと、運営能力があると思ったからです。

諸先輩方の意志を引き継ぎつつ、自分なりの研究局を作れたらと思います！

応援のほどよろしくお願い致します！

広報局長挨拶

河合舞音(法学部1年)

広報局長になりました、134期法学部1年河合舞音です。

このような名誉な役職をいただけたことに感謝しています。最低限の業務をこなすだけでなく常に向上心を持って職務を全うします。また、執行部員として誇れるような行動をしていきたいと思った次第です。1年間よろしくお願いします！

書記局長挨拶

高橋孝輔(法学部1年)

この度、書記局長に就任いたしました高橋孝輔です。

書記は情報を残して伝えるという重要な役割があると感じております。自分の記録した議事録が将来の部員たちの参考になるよう、一生懸命努めてまいります。

会計担当挨拶

清水丈(政治経済学部1年)

訳アリ会計局長の清水丈と申します。というのも、私は最初の信任選挙で不信任(得票率28.6%)という前人未到の記録を樹立し、オンラインの再選挙でようやく信任させて頂いたためです…。

会計局長は雄辯部の財政運営を支える屋台骨といっても過言ではありません。そんな要職がこの有様では部が骨組みもろとも崩落しそうだという声もありそうですが、正確な業務を徹底して参りますので、どうぞお手柔らかに、よろしくお願いします。

渉外担当挨拶

稲葉友春(法学部 1 年)

明治大学雄辯部渉外局長を拝命いたしました、稲葉友春と申します。

渉外局には外部との交渉の上で雄辯部の利益を最大化することが求められています。また、コロナ禍を経て界限全体が再び勢力を増す中で、依然として弊部は勢力を持ち続けることが求められ、また協議会議長にはそれら界限を取りまとめることが求められています。

先輩方が 134 年にわたり歴史を紡いできた我らが雄辯部を、この先 100 年以上にわたって名実ともに界限の盟主たらしめるために、弊部の利益を最大化するために、渉外局長、協議会議長として、そしていち雄辯部員として業務に全身全霊であたることを誓います。これから 1 年間、よろしくお願い申し上げます。

総務担当挨拶

肱元いろは(政治経済学部 1 年)

この度総務局長に就任いたしました、肱元いろはです。

総務局長の業務は部の円滑な運営に不可欠なものであると私は考えています。これから 1 年間、雄辯部の「縁の下の方持ち」として精一杯頑張っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

第二章

明治大学雄辯部部則

前文

第一編 総則

第一章 部の構成

第二章 部員

第二編 部会

第一章 部会の設置

第二章 総体部会

第三章 本支部会

第三編 執行機関

第一章 執行機関の組織

第二章 代表

第三章 活動審議会

第四編 会計

第五編 選挙

第六編 研究会

第七編 補則

附則 令和四年八月六日改正

前文

明治大学雄辯部は部員自らの良心と責任に於いて自由に発言できる場である。この団体は、学術系の活動をする組織である。それ以外の活動は部の活動とはなり得ない。

雄辯部員は常に己の幸福を追求し続けなくてはならない。そのような考えの下、常に自己の变革を至上の命題とすることを義務とする。

部に於いては、イデオロギーの共存・言論の自由を原則とし、部員の諸権利は自由・平等に最大限保障されるが、部内に於いて、上記に反する言論以外の行動をとる者・部内秩序を著しく乱した者は部員としての資格を失う。

従って、部員は雄辯部員である事を踏まえ、良心と責任を持った行動をすべきである。また、部を通じた部外活動によって部活動そのものが疎かになってはならない。

以上の原則を基に、以下の条文を設ける。

第一編 総則

第一章 部の構成

(部の名称)

第一条 本サークルは、明治大学雄辯部(以下「部」)と称する。

二 部の明治大学に対する届出名称は、雄辯部とする。

(部の所在)

第二条 部は、その本部を駿河台校地内(千代田区神田駿河台一の一)に置く。

(部の構成)

第三条 部は、明治大学学部生のみをもって構成し、明治大学人文・社会グループに所属する。

(部の活動理念、目的)

第四条 部は「自己実現と社会貢献」を活動理念とし、その達成を目的とする。

二 前項の実現に係る具体的な行動目標は、代表が提示する。

(部の主たる活動)

第五条 部は、前条の目的を達するため、次に掲げる活動を主として行う。

(一) 弁論

(二) 企画発表

(三) 研究

(四) 研究会

(五) その他必要と認められる活動

第二章 部員

(部員の定義)

第六条 部は、入部を希望し、入部手続を完了した者を部員とする。

二 入部手続とは、個人情報の登録及び部費の納入をいう。

三 入部手続によって得た個人情報の保管及び運用は、代表の責任においてこれを行う。

(部員の区別)

第七条 部員は、正部員、準部員及び執行部員に区別される。

二 正部員は、部会における発言権、議決権、選挙権を有する。

三 準部員は、部会における発言権を有する。

四 執行部員は、正部員であり、かつ公選役職に就いている者をいう。

(部員の資格移行)

第八条 部は、入学から一箇月以上が経過し、かつ入部から四箇月を経過していない者に対し、準部員の資格を与える。

二 部は、入部から四箇月が経過した準部員に対し、総体部会の承認をもって正部員の資格を与え、部章を交付する。

三 すべての正部員は、第四学年への進級をもって正部員の資格を停止され、準部員となる。ただし、執行部員は、この限りでない。

四 休学又は停学した者についての取り扱いは、執行部の判断と承認による。

五 特別の事情があるときは、総体部会の多数の賛成をもって資格移行についての期間を変更できる。ただし、その効力は、当該年度の部員にのみ適用される。

(休部)

第九条 休部を希望する部員は、その旨を代表又は各本支部長に申し出なければならない。

また、申出を受けた者は、執行部会議でその旨を報告しなければならない。

二 休部の解除を希望する部員は、その旨を代表又は各本支部長に申し出なければならない。また、申出を受けた者は、執行部会議でその旨を報告しなければならない。

三 休部の期間は、一年を限度とする。

(退部)

第十条 退部を希望する部員は、その旨を代表又は各本支部長に申し出なければならない。

申出を受けた者は、執行部会議にてその旨を報告しなければならない。

二 退部者が再入部を希望する場合は、再入部の認否及び再入部後の当該部員の処遇について総体部会で審議しなければならない。

第2章 明治大学雄辯部部則

(部籍失効)

第十一条 部員は、次に掲げるいずれかに該当するとき、部籍を失う。部籍失効者の再入部は、前条二項を準用する。

- (一) 正当な理由及び会計局への事前の申出なく、所定の部費を期日である当該年末日までに納めなかったとき。
- (二) 当該部員が死亡したとき。
- (三) 部が解散したとき。

(除名)

第十二条 部員は、次に掲げるいずれかに該当し、特別部会において特別多数の賛成のある場合に除名される。

- (一) 部則若しくは部内法又はその両方に違反したとき。
- (二) 部の名誉を著しく毀損したとき。
- (三) 部員の結束及び士気を著しく低下させたとき。
- (四) その他除名すべき正当の理由があるとき。

二 除名された者の再入部は、総体部会において特別多数の賛成のある場合を除いて認めない。

第二編 部会

第一章 部会の設置

第十三条 部は、部会として総体部会並びに本部会及び支部会(以下本支部会)を置く。

第二章 総体部会

(総体部会の地位、構成)

第十四条 総体部会は、部の意思決定機関であり、特別部会及び執行部会により構成される。

二 特別部会は、全正部員によって構成される。

三 執行部会は、全執行部員によって構成される。

(総体部会の運営)

第十五条 総体部会は、各構成員による発議及び過半数の出席をもって開会する。

二 総体部会の議事進行は、代表又は代表の指名した正部員が行う。

第十六条 総体部会は、公開とする。ただし、出席構成員の全会一致で議決したときは、秘密会を開くことができる。

二 総体部会は、各々その議事録を保存し、秘密会の記録の中で特に秘密を要すると認められるもの以外は公表し、かつ全部員に公開しなければならない。

三 総体部会における議事録は、会議名若しくは議事名、文責者名及び議決等決定事項が記載されなければならない。

四 出席構成員の三分の一以上の要求があれば、各構成員の表決を議事録に記載しなければならない。

(総体部会の議決)

第十七条 総体部会の議決権は、出席した構成員のみが平等に有し、次に掲げるいずれかを議決の方法とする。

(一) 全会一致

(二) 特別多数決

(三) 多数決

二 全会一致は、全議決権者の賛成をもって議決とする。

三 特別多数決は、議決権者の三分の二以上の賛成をもって議決とする。

四 多数決は、議決権者の過半数の賛成をもって議決とし、賛否同数となった場合は、再審議とする。ただし、急を要すると代表が判断した場合は、この限りでない。

第十八条 総体部会は、次に掲げる通りに議決する。

(一) 部の解散は、全会一致で議決する。

(二) 部の資金を要す議案は、特別多数決で議決する。

(三) その他の議案及び議題は、多数決で議決する。ただし、重要度が高いと代表が判断した議案及び議題についてはこの限りでない。

(議案の効力、特別部会の優越)

第十九条 議案は、特別部会若しくは執行部会又はその両方で可決された時から有効となる。

二 特別部会と執行部会の決定に相違のある場合は、特別部会の議決を総体部会の決定とする。

(欠席)

第二十条 総体部会を欠席する各構成員は、代表又は代表が指名した者に欠席の旨を委任状によって届け出なければならない。

二 総体部会を委任状の提出なく欠席した各構成員は、代表、副代表、本支部長の催告の下、閉会後より七日の間に欠席事由等の連絡のない場合、無断欠席をしたものと見做し、正部員の資格を半期の間停止される。

三 半期とは、前後期両納会の間の期間をいう。

(委任状)

第二十一条 委任状は、開会要件たる出席数にのみ加え、議決票数には加えない。

第三章 本支部会

(本支部会の地位、構成)

第二十二条 本支部会は、明治大学の地区毎の連絡・協議機関であり、駿河台本部会、和泉支部会及び生田支部会を置く。

二 駿河台本部会は、駿河台地区の全部員及び中野地区の第三学年以降の部員で構成される。

第2章 明治大学雄辯部部則

三 和泉支部会は、和泉地区の全部員及び中野地区の第一、第二学年の部員で構成される。

四 生田支部会は、生田地区の全部員で構成される。

(本支部会の運営)

第二十三条 本支部会の運営は各本支部の長(以下「本支部長」)が行う。

第三編 執行機関

第一章 執行機関の組織

第二十四条 部は、執行機関として次に掲げる役職及び局を置く。

- (一) 代表
- (二) 副代表
- (三) 駿河台本部長
- (四) 和泉支部長
- (五) 生田支部長
- (六) 会計監査
- (七) 弁論局
- (八) 企画局
- (九) 研究局
- (十) 広報局
- (十一) 書記局
- (十二) 会計局
- (十三) 渉外局
- (十四) 総務局

二 前項一号から六号及び七号から十四号の長(以下「局長」)は、すべて公選役職とし、その業務は、特別部会によって決定する。

三 公選役職者の任期は原則一期一年とする。

四 公選役職者の再選は、特別部会において特別多数の賛成のある場合を除いて認めない。

五 任期途中で各公選役職者に変更が生じた場合、新たに選出された者は、前任者の任期を引き継ぐ。ただし、特別部会において特別多数の賛成のある場合に限り、任期を当選から一箇年以内で変更することができる。

(局員)

第二十五条 各局は、総体部会の正部員承認において入局を表明した正部員によって構成される。

二 各局員は、各局長の業務の補佐を行う。

三 各局員は、代表及び各関連局長の承認によって所属している局を変更できる。

第二章 代表

(代表の地位、権能)

第二十六条 代表は、部の内外に対する職務執行のすべてを所管し、最終責任を負う役職である。

第二十七条 代表は他の公選役職を兼任することはできない。ただし、次に掲げる場合においては、他の公選役職業務を代行又は特定の正部員に委任することができる。

- (一) 当該業務を司る役職者が未定かつ緊急の業務の場合
- (二) 当該業務を司る役職者が不在かつ緊急の業務の場合
- (三) その他特別部会において特別多数によって承認された場合

二 前項一号の場合は、総体部会において、同二号の場合は、当該役職者の追認を得なければならない。追認がなされない場合、その業務は無効となり、代表は業務以前の状態へ回復又は事後処理をする義務を負う。

(代表の情報公開)

第二十八条 代表は、部員から要求のある場合は、業務内容及び業務によって知り得た情報を随時公開しなければならない。ただし、部員のプライバシーに関わる情報についてはこの限りでない。

第三章 活動審議会

(活動審議会の要件、活動)

第二十九条 活動審議会は、代表の主催によって部の活動内容を審議し、その根幹となる活動大綱(以下「大綱」)を決定する。

- 二 活動審議会は、前後期の授業開始までに開会し、それぞれ前期、後期の活動内容を審議する。
- 三 活動審議会は、執行部員及び二名以上の執行部員以外の者をもって構成員とする。
- 四 執行部員以外の者は、過半数が部員でなければならない。部外者の出席は執行部会による承認を必要とする。
- 五 活動審議会は、構成員全員の参加をもって開会する。委任状は会の定足数に含める。
- 六 活動審議会は、全会一致をもって決定とする。

(活動計画)

第三十条 活動審議会で決定された大綱の下、代表は、半期の業務内容及び詳細な日程を、他の公選役職者は、半期の業務内容及び運営計画を作成し、特別部会による承認を受けなければならない。

二 すべての公選役職者は、前項の業務内容及び運営計画に従って自らの職務を遂行し、特別部会において業務実績を報告しなければならない。

第四編 会計

(活動資金)

第三十一条 部の活動資金は、部費、寄付金、助成金及びその他諸収入によって構成される。

(会計年度)

第三十二条 部の会計年度は、四月一日から翌三月三十一日までとする。

(部費)

第三十三条 部費の金額は、総体部会で決定される。

(予算編成)

第三十四条 会計局長は、前年度三月までに予算案を総体部会に提出し、承認を得なければならない。

(会計監査)

第三十五条 会計状況の監査は、会計監査が行う。

二 会計監査と会計局長を兼任することはできない。

(決算)

第三十六条 会計局は、会計監査の監査を経て決算を総体部会に提出し、承認を得なければならない。

(会計状況の開示)

第三十七条 会計状況に関して部員から要求のある場合は、必要情報を公開しなければならない。

第五編 選挙

第三十八条 部は、公選の定めのある役職について選挙を行う。

(選挙管理人の地位)

第三十九条 公正な選挙実施のため、総体部会において選挙管理人を選出する。

二 選挙管理人が各公選役職に立候補している場合は、代表がその役職選挙においてのみ職務を代行する。

三 選挙管理人は、その公正性及び中立性担保のため、執行部会の原構成員とはならない。
ただし、爾後に構成員となることは妨げない。

(選挙管理人の職務)

第四十条 選挙管理人は選挙の公示、議事進行、投票の集計、選挙結果の公告を行う。

(選挙の成立要件)

第四十一条 選挙は、正部員の過半数の出席をもって成立する。委任状は、第二十一条を準用して扱う。

二 出席正部員の過半数の信任をもって当選とする。

三 単独立候補者が過半数の信任を得られなかった場合は、再選挙とする。

- 四 立候補者が二名以上かつ一度目の投票で過半数の信任を得た者がいない場合は、上位二名で再度投票を行う。二度目の投票でも決しなかった場合は、籤によって当選者を決定する。
- 五 選挙に際して、本部則にない検討事項が生じた場合は、代表と選挙管理人が協議を行い、選挙管理人が対処を決定する。

第六編 研究会

(研究会の設立)

第四十二条 部員は、部の活動理念実現のため、各人の希求の下、部内研究会を設置することができる。

(研究会の分類)

第四十三条 次に掲げるものを研究会という。

- (一) 非公認研究会
- (二) 準公認研究会
- (三) 公認研究会

- 二 非公認研究会は、総体部会の承認を必要とせず活動が出来る。ただし、部の名称及び活動資金を使用してはならない。
- 三 準公認研究会は、非公認研究会長が総体部会に昇格申請をし、承認を得たものであり、部の名称使用及び年二千円までの予算申請が認められる。
- 四 公認研究会は、準公認研究会のうち、総体部会の承認を得てから一年の期間が経過した後、総体部会に再度昇格申請をし、承認を得たものであり、部の名称使用及び予算申請が認められる。
- 五 公認・準公認研究会長は、年に一度、研究会の活動内容を総体部会において報告する義務を負う。

(研究会の改廃)

第四十四条 研究会は、総体部会において議決がある場合、会の再編成又は解散をしなければならない。

第七編 補則

(部長及び顧問の選出)

第四十五条 部長及び顧問は、OB会との協議の上、総体部会に於いて決定する。
ただし、部長は、本学専任教員より選出する。

(部則の改正)

- 第四十六条 本部則の改正は、執行部会の特別多数の賛成をもって発議し、特別部会の特別多数の賛成をもって承認する。
- 二 部則改正がなされた場合は、当該議決日より三十日の後に施行する。

第2章 明治大学雄辯部部則

三 部則執行の際に問題が生じた場合は、問題のある条文を凍結し、速やかに対応協議の場を設けなければならない。爾後、問題が解消されない場合、一箇月以内に部則の改正を行うか、凍結の解除をしなければならない。

(失職)

第四十七条 公選役職者が休学、重病、失踪、事故等で自らの意思表示ができず、かつ部の運営に支障が生じ、今後もその状況が予想される場合、総体部会の多数の承認により、職を失する。

(最高法規、規則の制定)

第四十八条 本部則は、部の最高法規であって、これに反する規則、議決及びその他行為の全部又は一部は、その効力を有しない。

二 総体部会は、本部則に反しない範囲で規則を制定することができる。

(部則の施行)

第四十九条 本部則は、平成二十五年一月二十日から施行する。

附則 令和四年八月六日改正

- 第一条 本部則は、令和四年九月一日から施行する。
- 第二条 この附則における新規則とは、本改正後の部則をいい、旧規則とは平成二十六年一月十日改正の部則をいう。
- 第三条 新規則は別段の定めのない限り、新規則施行前に生じた事項についても適用する。ただし、新規則十二条はこの限りでない。
- 第四条 旧規則に則り制定された部内法は、新規則に適合するよう、半期のうちに改正しなければならない。
- 第五条 前条の改正までの間は、社会通念に照らして常識的に認められる範囲内で文言を新規則に適合するよう読み替える。
- 第六条 新規則第十二条及び同第二十条の規定については同第四十六条二項及び本附則第一条の限りとせず、即日で施行する。

第三章 ‘23 年度活動記録

4月

1~6日

新歓(ブース)

8日

新歓 SPD・河野皓星(文3)

「学歴コンプレックスをぶち壊せ～データで考える明大生の成功法～」

就活企画

15日

新歓 SPD・藤川太暉(法4)

「自由・平等それって本当？～貴族制の可能性～」

哲学対話

17日

新歓 SPD・亀山司(法3)

「ガレソの何が問題か～現役法学部と考える私刑～」

哲学対話



26日

新歓講演会@萩生田光一

29日

土曜企画・山本蒼太郎(農2)

「『授かる』から『作る』へ～生命科学の発達と変わりゆく社会～」

5月

2~3日

新歓合宿@山中湖

6日

企画局長選挙

立候補者:新開千紘(農2)

当選者:新開千紘(農2)

結団式



13日

第一高等学校・東京大学弁論部主催

第17回東京大学五月祭記念弁論大会

山下玲奈(文2)『狂』



20日

土曜企画・橋爪美真(法2)

「講座・明治大学の歴史ーボアソナードの名のもとに」

哲学対話

27日

春期部内新人弁論大会

優勝:大村皐(政経1)

準優勝:洪彩熏(商3)

第三席:本間優莉佳(政経1)



6月

3日

國學院大學弁論部主催

第4回国學院大學学長杯争奪全国学生弁論大会

亀山司(法3)『密室の支配』

準優勝

木村荘太(文4)『慢心鉄を廃す』

審査員特別賞



10日

土曜企画・川嶋健吾(政経4)、木村荘太(文4)、藤川太暉(法4)

「雄辯部はどう役に立つ?—24卒が振り返る」

17日

土曜企画・植田陸(文2)

「エモいをぶっ壊す!」

和泉支部会 in BBQ DAYS 吉祥寺

24日

中央大学辞達学会主催

第45回全国学生新人弁論大会

大村皐(政経1)『冤枉』

第三席



7月

1日

前期納会



8日

法政大学弁論部主催

第48回春秋杯争奪全日本学生雄弁大会

渡邊小太郎(政経2)『不港不掘』

最優秀賞

第3章 2023年度活動記録

29日

土曜企画・企画局

「企画を作ろう」



8月

21日

代表・弁論局長選挙

立候補者

弁論局長:渡邊小太郎(政経2)

代表:高屋晃佑(政経2)、山本蒼太郎(農2)

当選者

弁論局長:渡邊小太郎(政経2)

代表:高屋晃佑(政経2)

26日

夏期部内演練

9月

2日

正部員昇格式

副代表選挙

立候補者:大河原優人(政経2)、加藤正宗(法2)、山本蒼太郎(農2)

当選者:加藤正宗(法2)

4~6日

夏合宿@大阪



9日

後期活動審議会

16日

秋期部内新弁

優勝:岩本光太郎(政経1)

準優勝:木村幹太(農1)

第三席:河合舞音(法1)、山下琢磨(政経2)



23日

後期業務承認

新歓反省会

前期決算・後期予算

30日

土曜企画・山本蒼太郎(農2)

「魔法少女史概論」

10月

7日

日本大学法秋雄弁会主催

第26回桜門杯争奪全日本学生弁論大会

洪彩熏(商3)『保守革命論』

優勝



14日

哲学対話

代表局会議

15日

中央大学辞達学会主催

第62回花井卓蔵杯争奪全日本雄弁大会

河合舞音(法1)『Butterfly Effect』

16日

国会見学 FW

防衛省見学

21日

和泉・生田支部長選挙

立候補者

和泉支部長:大村皐(政経1)、片貝千里

(政経1)、河合舞音(法

1)、藤崎泰成(政経1)

生田支部長:木村幹太(農1)

当選者

和泉支部長:藤崎泰成(政経1)

生田支部長:木村幹太(農1)



28日

拓殖大学雄弁会主催

第30回拓殖大学学長杯争奪全日本学生雄弁大会

岩本光太郎(政経1)『ぎょうこう』



11月

4日

新歓議案

5日

早稲田大学雄弁会主催

第46回大隈杯争奪雄弁大会

山下琢磨(政経2)『君たちはどう生きるか』

11日

土曜企画・玉田百々子(商2)

「家庭内の子どもの意思はどれだけ尊重されるべきか ～ヤングケアラーから考える～」

土曜企画・高見遼太郎(法4)

「三大幸福論から考える本当の幸せ」

第3章 2023年度活動記録

18日

OB総会

25日

哲学対話

土曜企画・大河原優人(政経2)

「自分たちの声って政治に届いてるの？
～民意を最大限反映するシステムを考
える～」



12月

2日

土曜企画・河合舞音(法1)

「セカイのかえ方講座 ～これが本当の
社会貢献だ！～」

代表局会議

3日

東京農業大学講演部主催

第2回東京農業大学長杯全日本農林水産学
生弁論大会

木村幹太(農1)『銀の匙』

9日

後期納会



10日

和泉生田合同支部会 in 浅草

17日

第一高等学校・東京大学弁論部主催

第42回東京大学総長杯争奪全国学生弁論
大会聴衆参加

23日

土曜企画・富田翔太(国日2)

「任天堂思想史～Switchを生んだイデ
オロジー対立～」

代表局企画

「寄り道発表会」



1月

13日

第4回弁論局長杯争奪部内雄辯大会

優勝:稲葉友春(法1)

準優勝:河合舞音(法1)

第三席:内藤脩平(総数1)



2月

3日

学習院大学輔仁会弁論部主催

令和5年度桜弁会杯争奪学生弁論大会

内藤脩平(総数1)『隠された強迫』

第三席

10日

2024年度前期役職者選挙

立候補者

駿河台本部長:正舂幹人(情コミ3)、大
河原優人(政経2)

会計監査:石井深優(政経2)

企画局長:久保田夏由(文1)

研究局長:瀬川大地(法1)

広報局長:河合舞音(法1)

書記局長:高橋孝輔(法1)

会計局長:清水丈(政経1)

渉外局長:稲葉友春(法1)

総務局長:大村皐(政経1)、肱元いろは
(政経1)

当選者

駿河台本部長:正舂幹人(情コミ3)

会計監査:石井深優(商2)

企画局長:久保田夏由(文1)

研究局長:瀬川大地(法1)

広報局長:河合舞音(法1)

書記局長:高橋孝輔(法1)

会計局長:当選者なし

渉外局長:稲葉友春(法1)

総務局長:肱元いろは(政経1)

11日

慶應義塾大学弁論部主催

第31回日吉杯争奪全国学生辯論大会

久保田夏由(文1)『あなたのそばに』

17日

全日本学生弁論大会実行委員会主催

第13回全日本学生弁論大会

稲葉友春(法1)『古都、再考』



18日

会計局長再選挙

立候補者:清水丈(政経1)

当選者:清水丈(政経1)

24日

弊部主催

第27回紫紺杯争奪全国学生雄弁大会

川嶋健吾(政経4)『吾、継承者たらん』

藤川太暉(法4)『〇〇の本質について』

優勝



第四章 弁論原稿

目次

第17回東京大学五月祭記念弁論大会 主催：第一高等学校・東京大学弁論部
山下玲奈(文2)「狂」

第4回国學院大學学長杯争奪全国学生弁論大会 主催：國學院大學辯論部
木村莊太(文4)「慢心鉄を廃す」
亀山司(法3)「密室の支配」

第45回全国学生新人弁論大会 主催：中央大学辞達学会
大村皐(政経1)「冤枉」

第48回春秋杯争奪全日本学生雄弁大会 主催：法政大学弁論部
渡邊小太郎(政経2)「不港不掘」

第26回桜門杯争奪全日本学生弁論大会 主催：日本大学法学部法秋雄弁会
洪彩熏(法3)「保守革命論」

第63回花井杯卓蔵杯争奪全日本雄弁大会 主催：中央大学辞達学会
河合舞音(法1)「Butterfly Effect」

第30回拓殖大学学長杯争奪全日本学生雄弁大会 主催：拓殖大学雄弁会
岩本光太郎(政経1)「ぎょうこう」

第46回大隈杯争奪雄弁大会 主催：早稲田大学雄弁会
山下琢磨(政経2)「君たちはどう生きるか」

第68回全国青年弁論大会 主催：日本弁論連盟
正躰幹人(情コミ3)「失われた価値を取り戻す」

第2回東京農業大学学長杯全日本農林水産学生弁論大会 主催：東京農業大学農友会講演部
木村幹太(農1)「銀の匙」

第40回土光杯全日本青年弁論大会 主催：フジサンケイグループ
正躰幹人(情コミ3)「GX達成に向けた資源国産化への道標」

令和5年度桜弁会杯争奪学生弁論大会 主催：学習院大学輔仁会弁論部
内藤脩平(総数1)「隠された強迫」

第31回日吉杯争奪全国学生辯論大会 主催：慶応義塾大学弁論部

久保田夏由(文1)「あなたのそばに」

第13回全日本学生弁論大会 主催：全日本学生弁論大会実行委員会

稲葉友春(法1)「古都、再考」

第27回紫紺杯争奪全国学生雄弁大会 主催：明治大学雄辯部

川嶋健吾(政経4)「吾、継承者たらん」

藤川太暉(法4)「〇〇の本質について」

第17回東京大学五月祭記念弁論大会 主催：第一高等学校・東京大学弁論部

山下玲奈(文2)「狂」

導入

私の高校生活の始まりは、それはそれはひどいものでした。心を許せる友達が一人もおらず、いつも教室の隅っこで、本ばかり読んでいました。孤独な学校生活と家との往復の日々に鬱々としていました。そんな私に、一人、話しかけてくれたクラスメイトがいたんです。「ねえ、その漫画好きなの?」。そこから、漫画という共通の趣味を持つ私たちは、高校生活の三年間を共に過ごす親友となりました。

やがて、春になり、それぞれの道を進み始めるため、私たちは異なる大学に進学しました。それでも、親友だから、きっと、心は通じ合っている、そう思っていました。でも、彼女はどんどん私から遠ざかってしまいました、そう、彼女は狂ってしまったのです!

彼女を狂わせてしまったもの、それは、ホストです。そう、人生を棒に振って、ホストに通い詰める「ホス狂」に変貌してしまったのです。彼女の話すことは、漫画の話や高校の思い出話から、いつの間にか、「ねえ、このホストの写真、めっちゃカッコよくない?」「ホストからもう10時間も返信が来ないの!」といったものに変化しました。かつてキャビンアテンダントになりたいと夢見ていた彼女は、夢を忘れ、大学に行かなくなり、風俗で働いています。今この時も、彼女は吉原にいるんです!こんなことがあっていいのでしょうか。

本弁論の目的は、ホストで人生を狂わせられる人を一人でも減らすことであります。

現状分析

ホストクラブとは、みなさんご存知の通り、ホストと呼ばれる男性従業員が主に女性客を接待するお店です。そして、ホストには指名という特徴的な制度があります。つまり、客は一人の推し、通称「担当」をきめ、その人に貢いでいくというシステムになります。

問題点

ではホストのどのような点が問題なのか、代表的なものを二つあげましょう。

第一に金額。まず、みなさんが居酒屋で飲む時を想像してみてください。例えば鳥貴族なら、ドリンク3杯と食べ物三品ほどあれば満足でしょう。これなら合計2160円になります。

次に同じ食事をホストクラブですると想像してみましょう。みなさん、ホストクラブの客、「姫」になったつもりで聞いてみてください。良いですか?店内に入ると、煌びやかな装飾、鳴り響く音楽に迎えられます。はい!ここで8000円のテーブルチャージが取られます。そこに、飲み放題分の3000円が加算されます。容姿端麗なホストに迎えられ、さあ、やっと担当のホストと会え…はい!ここで指名料が4000円取られます。いざ席について担当とお酒を

て、日々の生活に何かしらの苦痛を感じているというものがあります。

心理学者のカンティアンたちによって提唱された「自己治療仮説」というものがあります。これは、何かにハマってしまう原因は「快感の追求」ではなく「心理的苦痛の減少・緩和」である、というものです。ホストに置き換えて説明すると、ホストにハマる理由は、ホストに褒められて気持ちよくなりたい、というよりも、孤独感や寂しさ、日々のストレスなどを和らげるためにといったところです。

つまり、ホストクラブでは、ホストから甘い言葉をかけられ優しく扱われるため、現実の憂鬱が紛らわされるのです。そのため、好奇心から、ホスト行ってみよう…という軽い気持ちのままに、負の感情に付け入れられ、依存してしまうことが往々にしてあるのです。

しかし、負の感情のために、ホストにいくのが問題となるわけではありません。心の辛さをまぎらわすために何かに頼るのは人間だれしもあることで、お酒やタバコ、といった制限のあるものからソシャゲ、ファッション読書愚痴の話し合いまで、なんにでも言えることです。これは、度が過ぎない程度にみなさんやっていますよね。ですので、そういった意味で私はホストに行くことが悪いことだとは思いません。しかし、酒やタバコなどとは違う、ホストクラブにはこの誰にでもある弱みに付け込み搾取しつくす特有の構造があるのです。

それが、ホストクラブによる顧客の風俗斡旋とそれに伴う人間関係の制限にあります。お金が無くなった、欲しいものが買え

…しかし、飲み放題は姫の分だけ、だからホストの分の飲食代は自分が払わなければなりません。まあもうお金たくさん使ったし…コンビニに売っているような酎ハイを頼みましょう。はい！これがなんと1000円！もうこの時点で16000円になります。更に、サービス料がかかります。みなさん、サービス料は何パーセントだと思いますか？　これがなんと35%！これで2万1600円。トリキの10倍です。

第二に、ホストクラブには、客に多額の消費を促す構造があることです。その代表例としては、ラストソングと呼ばれるものがあります。これは、毎日一番売り上げたホストが、そのホストに一番貢いだ女性の横でカラオケを歌うシステムです。これにより、ラストソングを勝ち取った姫は、その日担当に一番尽くした「いい女」という位置を獲得します。

姫は、他の女性からの羨望と嫉妬の視線を勝ち取るための過剰な競争圧力にさらされるんです。そしてそのために数百万のシャンパンタワーが何本も建てられるんです…。

深刻性

ここまで聞いていただいて、皆さんこう思っているのではないでしょうか。

「でも、ホストにハマっちゃうのって、自分の責任なんじゃないの？」

私は決してそうは思いません。なぜならそこには人の弱みに付け込み搾取する構造があるからです。

ホストにハマる人たち共通の特徴とし

ないという時、普通は稼ぎます。でも担当に見てもらって、担当のためになるにはそれじゃ足りない。焦る客に、ホストクラブ側が持ちかけるのです「もっと彼のためになりたいなら、風俗とかで働いたら？」そう、ホストクラブがグルになって、風俗で働かせるのです。最初は彼のための副業。しかし1時間10000円という高給。

『これで次のホスト代は大丈夫』(安心)

しかし夜職は肉体的にも感情的にも辛い、ホストに行くために風俗を続けるなら、昼間の仕事や大学は言ってもらえない…。気が付けば副業は本業になり、人間関係はホストのみ。夜職の辛さをいやしてくれるのはホストだけ、しかしそのホストは、お金を貢がなければ振り向いてくれない…。

このように、姫はどんどん孤独という「負の感情」に陥り、それを解消するために、ホストにいく、という悪循環にハマるのです…。

解決策

ホストで人生を狂わされる人を一人でも減らすために、私から一つ提案がある！ホストを依存症として認めることです。依存症とは、日々の生活や健康、大切な人間関係や仕事などに悪影響を及ぼしているにも関わらず、特定の物質や行動をやめたくてもやめられない状態となっていることを指します。確かに、ホストのために風俗で働く、いや、働かされている彼女たちは、依存症であると言えるでしょう。

また、ワンネス財団という、依存症の回復を扱っている専門機関のサイトを見ると、人間関係の依存という分類の一つにホストが含まれています。ただ、治療をようするものであるという価値観は全く世の中に浸透していません。そう、ホストの問題はこんなに深刻であるにも関わらず、解決を望む声は非常に少ないのです。

しかし、依存症に効果的な治療法は多く存在します。ここでは、最近注目されているスマーブという治療方法を紹介します。これは、グループワークを通して依存症や回復方法について学んでいくものです。グループワークは、同じような当事者同士が集まって、20回にわたり「なぜ依存症になるのか」「再発を防ぐには」などを話し合っていきます。

そして、スマーブは、実際に薬物依存やアルコール依存などで実際に高い実績をあげています。

このスマーブに、ホストを含めることで、ホス狂は依存症であると認められ、家族や友人にホス狂を持つ、救いたいという人が、アプローチすることができるのです。そう、孤独に陥ったホス狂に、外との繋がりを作ることができるのです。

私は、ホストを潰したいわけではありません。酒やタバコは、確かに、依存してしまうと毒になってしましますが、嗜む程度であれば問題ないのは、みなさんご存知ですよね？

そう、私はホストにも、その程度であってほしいのです。ホストのために、人生を犠牲にしてはいけません！そう思っています。

結論

最後に、私はホストクラブの存在そのものを否定したいわけではありません。確かに、ホストクラブは日々の辛いことを発散させることができるでしょう。

しかし、ホストのために、あなたの人生を壊して欲しくない！

あなたの人生を生きてほしい！

一人でもホストで人生を狂わされる人が減ることを願って本弁論を終了させていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

第4回国學院大學学長杯争奪全国学生弁論大会 主催：國學院大學辯論部

木村莊太(文4)「慢心鉄を廃す」

【導入】

2410円。飲み会に行くよりも手軽な価格で、どこへでも行ける。そんな魔法のチケットがあることをご存知でしょうか。青春18きっぷ。12050円で合計5日間JRの普通列車が乗り放題。その費用、1日当たりたったの2410円。

新幹線なら一瞬の区間を、車窓を眺めながらのんびりと進んでゆく。それでいて金の無い学生でも手の届く価格帯。高2の夏に邂逅を果たして以来、私は鉄道を通じて全国各地を旅するようになりました。

さて、そんな青年が鉄道に興味を持つようになるのは時間の問題でした。世間的に言えば鉄オタとなるのでしょうか、鉄オタの関心って大体ある一点に集まっていくんですね。ローカル線です。在来線の旅を楽しむ私もその例に漏れず、年々数を減らしてゆくローカル線に興味を持つようになったのです。風情のある路線なのだから、なるべく残って欲しいなあ。そんな想いを抱いて。

【ローカル線の現実】

しかし、現実是非情です。人口減少やマイカーの普及に加えて、例のウィルスがやってきたことにより鉄道は全国的に大打撃。不採算路線の赤字をドル箱路線の収益で埋め合わせる、という従来のやり方は機能不全に。JR各社のほとんどは単独での維持が困難な路線を公表し、自治体に対してローカル線の見直しを積極的に求め始めています。見直しというと曖昧ですが、詰

まるところ人が全然乗ってない赤字路線をどうにかして切り離したい。そんな事業者の本音が、コロナ禍で噴出したというわけです。そして、昨年には国交省も地域の足を守るという目的でローカル線検討会を立ち上げ、国が主導する形で鉄道事業者と沿線自治体の協議を促進させようとしています。はっきりと明言こそしていませんが、あくまで目的は地域の足の維持。逆に言えば、地域の足として機能していないローカル線は、続々と淘汰されることでしょう。

悲しくはありますが、一度人が乗らなくなった路線を復活させるというのは、容易なことではありません。需要が減れば事業者は減便や値上げをせざるを得なくなり、利用者は更に離れてゆく。往々にしてローカル線はそんな負のスパイラルに陥るのです。であれば、無理に鉄道に固執せず地域に合った交通インフラが何なのか、これを模索するというのは、まったく道理に適っているのです。実に正論であります。調べれば調べるほど、鉄オタたる私も納得してしまいました。というわけで、私は鉄オタとしての想いとは折り合いを付けて、ローカル線……だけに限らない地域の足たる公共交通。この現実的な維持について、弁論で論じたく思います。

【検討会の問題点】

検討会が立ち上がったのなら大丈夫じゃないか。そう思われるかもしれませんが、さすが、崇高な理念とは裏腹に、その実践とはかけ離れた実態があるのです。国交省は

ローカル線に関する事業者自治体間の協議について「存続ありき」でも「廃止ありき」でもないとしています。しかし、候補となるのは鉄道の特性を活かしていない、つまり廃止が濃厚な路線だけです。仮に自治体が存続を望む場合は事業者の赤字をカバーできるほどの支出が求められます。ただ、それに応えられる自治体は多くありません。そういうわけで「JR との協議に応じれば廃止は免れ得ない」として、存続を望む自治体は議論のテーブルに立つことすら遠ざけてしまうのです。官民一体で地域の足を守るはずの場が、建設的な議論ができない構造に陥っている。これ勿体ないと思いませんか。

また、地域の足を守るという目的がローカル線見直しの建前として形骸化しているというのも問題です。既に進行しつつある人口減少・人口集中は、大量輸送を前提とする鉄道の存在をじわじわと揺るがすとされています。ともすれば、今はまだ大丈夫。そんな路線も、将来的には赤字ローカル線に転落してしまうかもしれないのです。協議になるようなローカル線が復活した。そんな事例は過去を振り返ってもほとんどありません。ローカル線になってからでは手遅れなのです。だというのに、現状ピックアップされるのは手遅れな路線だけ。ガンで言うならステージ4。病は悪化してからではなく、軽いうちから治す。これは地域の足の維持にも通ずる態度ではないでしょうか。

簡潔にまとめれば、現状の協議はローカル線の存廃をめぐる不毛な対立に終始し、地域の足を守るという本質に至れていないのです。自治体にも意地があるのでし

ょう。ですが、誰のためにもなっていない。そんな状況は打開せねばなりません。

【より早期の協議を】

では、何をすべきでしょうか。私は一点の打開案を提示します。為すべきは、協議対象の拡大。現在協議対象とされているのは、輸送密度 1000 人未満の路線です。これを 4000 人未満まで拡大するのです。

「いやいや輸送密度ってなんだよ」

説明します。輸送密度というのは「1 日 1km 当たりどれほどの人が路線を利用しているか」という数値で、これが少ないほど利用が低迷していることを表します。参考までに山手線の輸送密度はコロナ禍の 2020 年でも 72 万人。一方で現状の輸送密度 1000 人というのは相当に人が乗っていない、運行本数も数えるほどのローカル・オブ・ザ・ローカル線なのです。

【早期化の意義】

これを踏まえて、基準を拡大する意義をお話しましょう。大きく分けて二点です。

一つは余裕のあるうちからの協議を設けて、自治体の態度を和らげるというものです。輸送密度 2000~4000 人というのは、主に地方都市の郊外路線が該当します。これらは依然として赤字ですが、輸送密度 1000 人レベルと比べれば、十分に日常的な利用がある路線です。沿線自治体の協力が必要となることには変わりありません。ですが、事業者が即時廃止を求めるような路線でもないのです。これなら、自治体が廃止に怯えることもなくなるはずで、両者が前向きな姿勢で議論できる環境を整備する。協議の大前提として、重視されるべきではないでしょうか。

第4章 2023年度 弁論大会原稿集

もう一つは、より確実な効果が見込めるということです。一度乗車人員が少なくなりすぎてしまった路線を持ち直す。これはやはり難しいです。鉄道に限らず、まとまった人数の利用を想定している公共交通自体の宿命とも言えましょう。よく挙げられるバス転換についても、利用が伸び悩み、結局バスすらも廃止となってしまう。そんな事例は少なくありません。つまり、策を打つべきは早くに限るのです。公共交通の特性を発揮できる、十分に人のいる地域においてこそ、官民共同で地域の足を維持する意味は大きいのです。

幸い、こうした地域では列車の本数も人口も絶望的ではありません。どんな施策を打つにせよ、存廃が問題となるような路線に比べれば、その成功ハードルは極めて低いと言えます。どちらかと言えば予防的な策であるため、インパクトには欠けるかもしれませんが、使いやすい公共交通の存在は、街の住みやすさに大きく影響します。先ほど復活事例はないとお話しましたが、早期的な取り組みによって危機を回避できた自治体は存在しております。まだローカル線のような無理ゲー環境でないうちに、効果を出しやすい環境で、地道な努力を重ねる意義は決して小さくないのです。

【結び】

これからの社会変容によって、公共交通は岐路に立たされることでしょう。しかし、学生や高齢者にとって、公共交通は生活の要。車社会の中でも、何らかの形で守っていく必要があるのです。可能な限り残っていて欲しい。誰も乗らないローカル線の廃止が進まないというのは、こうした願

いが沿線にあるからだ、私は考えます。固執し過ぎてはなりません、鉄路を上手く活かすやり方。これを議論する意義は否定できません。

故に、我々は未来の話をせねばなりません。これからの鉄路を、公共交通を、守っていかねばなりません。

「まだ大丈夫」

「JR がなんとかしてくれる」

そんな慢心は捨て去るべきです。鉄道を廃止に迫りやるのは、そんな慢心なのですから。

第4回国學院大學学長杯争奪全国学生弁論大会 主催：國學院大學辯論部

亀山司(法3)「密室の支配」

【導入】

私、夢があるんです。弁護士になりたいという夢が。高校時代に模擬国連という活動を通して死刑存廃論に出会い、将来は人権を擁護する活動家弁護士になってやるんだと誓ったんです。でも、両親や周りからはこんなことを言われるんです。「弁護士より検察官の方が給料いいんじゃないの。君なら成績いいし検察官も目指せるんじゃないの」と。確かに検察官、いい仕事です。被告人の罪を立証し、国家正義のために尽くす仕事...ほんとうにそうなんでしょう。私は検察官自体を否定する気はありませんが、我が国の刑事司法制度に対しては批判的な立場です。

本弁論は、日本の刑事司法制度における未決拘禁者の人権について訴えるものである！

【現状分析】

現在日本の刑事司法は一般に精密司法であると称される。これは日本における刑事事件の有罪率が99%であることを意味し、検察官が、十分な証拠固めをして有罪の確信がある場合に限って、刑事裁判の公訴が提起されていることに起因する。ではその検察官は、どのようにして絶対に有罪だとの確信を得るのであろうか。端的に言って、被疑者の自白を得るのである。そして、その自白は、時として違法な方法により収集されている。

ここで一旦、刑事手続きの流れについて説明しておきたい。本弁論で問題となる刑

事手続きとして、逮捕による留置施設での拘束と、拘置所での勾留というものがある。まず、犯罪の疑いがかけられ、さらに、証拠の隠滅や逃亡のおそれがあると判断されると私たちは逮捕され、警察の管轄たる留置施設に入れられる。

逮捕により拘束される期間は最長で3日間である。その後、さらに身体拘束の必要性がある場合には、検察官の請求と裁判所の審査に基づき、最長で20日間の勾留が開始される。勾留は、逮捕の場合と異なり、法務省管轄の拘置所に入れられることとなる。...というのが、刑事訴訟法に基づく、被疑者の処遇である。

さて、話を戻すが、自白は取調べ手続きを通じて得られることになる。この取調べ手続き、もちろん黙秘を貫き通し、自白をしないことも可能である。...はずであるが、無実であるにも関わらず、司法警察職員の主張する犯罪事実をそのまま認めてしまうことがあるそうである。いったいどういうことなのか。

【問題性・深刻性】

無実にもかかわらず犯罪被疑者となってしまった方々の主張によれば、逮捕以降は多くの身体的・精神的苦痛を与えられ、自白をしてしまった方が楽になれるのではないかと考えるようになってしまうというのである。

具体的には、第一に逮捕から起訴されるまで、延々と取調べが続けられるということ。逮捕されてからは留置所と取調べを行

き来する毎日が続き、また時間に関しては夜9時を過ぎても取調べが続けられることもあることが、警察庁自身が認めている。

第二に、自白を引き出すために拷問のような取調べが行われているというのである。今から少し大きな声を出します。被疑者が飯を取りたいと言っても、「早く自白すれば、いくらでも食わせてやると言っているだろう!」「早く謝れ、謝らなければ死刑になるが、今白状したら刑も軽くなるように取り計らってやる」などとめっちゃくちゃなことを言って自白を促しているのである。こんなことが、被疑者と警察職員しかいない密室で行われているのである。

もちろん、こういった事態が批判され、取調べ室への監視カメラの導入が進んでいるものの、可視化されると取調べがやりにくいという警察庁からの反対が大きく、その導入は事件数全体のわずか3%にとどまっている。また、この取調べに弁護士が立ち会えないのも世界的に見ると異様である。

もちろん、犯罪を追及するために緻密な捜査が行われることは重要であるが、これを達成するために善良な市民の権利を侵害することがあってはならない。真実究明のための刑事司法制度と人権保障のバランスが担保されていなければならないのである。

【原因分析】

現在我が国の刑事司法制度、特に逮捕から起訴までの過程については、海外と比較すると、あまりにも問題のあるもので、国連をはじめとする人権機関から、被疑者に対する人権的配慮を拡大するように求められている。しかしながら、私はなにも、日

本の刑事司法を国際基準に合わせて、根本から全面改正すべきだと訴えたいわけではない。日本の精密司法にも、少なからずメリットは存在しており、日本が独自の刑事司法制度を運用すること自体は継続されるべきである。大まかな枠組みを維持しつつ、改善すべき点は改善していくというのが重要である。

これを前提として、私は、人権感覚と法感覚に照らして、特に問題であると考えるものが1点ある。それは、留置施設と拘置所の使い分けがなされていないことである。

弁論の序盤でも触れたことになるが、逮捕されてから3日間は警察の管轄下たる留置施設に入れられるのに対して、4日目以降は法務省管轄の拘置所に入れられる、というのが刑事訴訟法による建前である。

しかしながら、現状としては、勾留が開始された後も留置施設において生活を送ることが大半なのである。このような運用を根拠づけるのは「刑事施設収容法」というものであり、これによると、本来は拘置所に収容しなければいけない場合であっても、留置施設をその代用施設とすることができるというのである。

これはいわゆる代用監獄問題というものであり、いまや国際語として知られるほどの深刻な問題である。法務省は、拘置所の数が足りないことを理由に代用監獄制度を運用しているものの、将来的に増やす増やすといいながらもこれを実行しない姿勢をみると、留置施設に収容させた方が都合のいい、より積極的な理由があるのであろう。そう、警察の管轄たる留置施設に収容することで、取調べが容易になるのでは

る。本来であれば、取調べは任意であり、が、留置施設に収容させておけば、警察の好きなタイミングで取調べを開始でき、別件逮捕と併用して猛威を振るっているのである。

しかしながら、そもそも留置施設や拘置所において被疑者を拘束するのは、証拠隠滅や逃亡を防止することが目的であって、取調べのためにするのではない。取調べのために勾留をし、さらには取調室に近い留置施設を使用している現状に变革を与えることはできないのだろうか。

【解決策】

密室の支配を打破する方法は言ってしまうえば簡単で、代用監獄問題を廃止してしまえばよいのである。

法務省管轄の拘置所の数を増やして、拘置所に全被疑者を収容してしまえば、代用監獄問題とこれに起因する悪質な取調べの常態化はある程度解消するのである。しかしながら、問題の原因に対して、それを裏返したような安直な解決策じゃ弁論界隈のみなさんは納得されないでしょう。

そこで私が主張するのは、被疑者に対する非拘禁的措置の導入である！いいかえれば、勾留せずに被疑者を監視する方法の提案である。これは、証拠隠滅や逃亡を防止するための制度として、勾留に並んで、第2の選択肢として、GPSを用いて緩やかに被疑者を拘束するという方法である。イメージのしやすい例としてGPSによる拘束というものを上げたが、原則としては、GPSは用いず裁判所への定期的な出頭をもって被疑者の逃亡を阻止するというのが望ましい。

しかしながら、事件の規模や事情に応じ

被疑者はこれを拒否することも可能である。GPSを用いた監視をする、家族のもとでの監視を受けさせる、夜間外出禁止、空港や繁華街など特定地域への立ち入り禁止などの条件を必要に応じて要求していくということを想定する。立法や司法に幅広い選択肢を与え、事情に応じて人権制約の必要性を判断してもらう、というのが本解決策の肝であり、非常に有用な点である。

【結び】

この解決策を訴えるにあたっての、最大の懸念は、取調べにおける留置施設を重要視する警察庁からの反対である。また、一般国民の純粋な感情としても、被疑者＝犯罪者のイメージが強く、不安に思われるだろう。この点に対しては、法は取調べのための拘禁を認めていないのであって、正当性がない。

また、被疑者の非拘禁的措置は司法の判断によってなされ、被疑者の態度に応じて勾留の決定をすることもできるため、決して危険なものではない。と、主張し、権利闘争を行っていく必要がある。そして、この実現に向けて国民らを説得していくのは、近い将来のわたくしの使命であり、その第一歩としてこの場での弁論、質疑応答に望んでいるのであります。

ご清聴ありがとうございました。

第45回全国学生新人弁論大会 主催：中央大学辞達学会

大村皐(政経1)「冤枉」

狭く、暗く、地上から深く隔絶された空間。先が見えない、限りなく続く細長い廊下が不安を煽り、それに密接した小さな部屋は、平滑とした壁と頑丈な鉄格子によって囲まれている。59番。それがそこでの私の名前だった。上下グレーの緩いスウェットに身を収め、地上への切望を全て飲み込んでしまうような重い密室の部屋で、用を足している間さえも外からの視線に晒されなければならなかった。

2022年10月5日23時12分。私は実家のある、神奈川県川崎市で、実際には行っていない暴行の容疑をかけられ、逮捕されました。駆け付けた警察官は、現場の状況を一瞥するのみで、ほとんど確認もしないまま私を強く組み伏せ、取り押さえました。痛みに呻き、自らの無実を伝える間もなく、最寄りの警察署まで連行され、寝る間も与えられないまま行われた取り調べは7時間にも渡り、必死の主張も虚しく、私はそのまま、収監されることが決まったのです。

収監中の生活は想像以上に凄惨なものでした。毎日6時半に起床し、掃除。食事は1日3回摂ることが出来ましたが、どれも冷めていて味がなく、見た目も食感も嘔吐物のような物ばかりなので、お茶で誤魔化して必死に流し込まないといけません。入浴に至っては週に1度しか許されておらず、収監者達は清潔とは程遠い生活を強いられていたのです。時折通る看守から人格を否定する罵声を浴びさせられるのもとても

辛い出来事でした。「何か罪を犯したからここにいるのだろう」「犯罪者の言うことなど聞かなくてもよい」彼等には無実を訴える私の事情なんて全く関係ないようでした。

これは昨日見たドラマの話ではありません！明日あなたの身に降りかかるかもしれない現実の話です！収監者の人権を断固として主張し、同じように冤罪による勾留に苦しむ人の被害を、少しでも減らすことを目的として、本弁論を進めさせて頂きたいと思います。

そもそも留置場とは、被疑者の逃亡や、証拠隠滅防止を目的とした施設で、その収容期間は最長でも23日間です。そして、収監者の中にはもちろん私のように罪を犯していない人も含まれています。

令和4年度発行の警察白書によると、留置場に収監された人数は年間で述べ287万1309人であるのに対し、実際に送検されたのは80万7480人です。要するに、年間で200万人以上の人が罪を犯していないにも関わらず、留置所に収監されているのです。

このような現状にも関わらず、先程も述べたように、留置所内の環境はお世辞にも良いとは言えないのが現状です。実際にある警察関係者の方にお話を伺ったところ、警察は都道府県毎にマニュアルを作成して管理にあたっているようでした。しかし、警察署でそれを捻じ曲げて運用していることも問題として認識されているようです。

警察予算が少ないことは依然として課題であります。しかし、冷めた飯が、週に一度の入浴が果たして「最低限度の生活」という事ができるのでしょうか。7割近くも不起訴になる人がいる空間で運用者たる警察の事情に寄り添った管理を行うことが本当に正しいのでしょうか。

厳格な勾留のシステムは罪を犯した人を正しく裁くために不可欠なものではありません。しかし、被疑者の人権を無視した処遇は、憲法31条にも規定されている推定無罪の原則を蔑ろにした、重大な憲法違反と捉えることもできます。これは、国際人権規約にも明記されていて、国内外を問わず重視されている当然のルールなのです！

そして、本当に冤罪だった時には被疑者に取り返しのつかない傷を負わせる可能性もでてきます。学校や会社などは長期で休むと復帰が難しくなるケースもあり、私の場合だとたった5日間と言えど、受験期の貴重な期間を勉強せずに過ごさなければいけなかったことは、囚われていた期間のみに留まらない、精神的な苦痛にも繋がりました。

拘留期間が長引けば、それに伴って後遺症などを引き起こすこともあります。具体的には、拘禁反応や精神身体疾患を発症したり、女性の場合だと、拘禁性の無月経症を発症したりすることも考えられます。

もう一度繰り返しますが、これは決して他人事として流せる話ではありません。入学直後の新入生の皆さん、就活・卒業を控えた先輩方が明日この場にいないかもしれません。冤罪による逮捕はある程度仕方ないことであります。しかしながら、それが誰にでも起こり得る可能性のある事だ

からこそ、留置場内の環境を改善し、勾留後の被害によって苦しむ人を少しでも減らすことに尽力したいのです。

では、何故憲法の規定がありながらもこのような劣悪な環境下で苦しむ人が生まれてしまうのでしょうか。

それは、拘留施設の管理者が、拘置所、刑務所では法務省内の矯正局という部署の職員であるのに対し、留置場では収監先の警察署の職員、つまり、普段警察官として働いている人間であるからです。彼等は収監者を管理するプロではありません。行われる研修も留置場のシステムや、裁判に関する法律の知識ばかりで、被疑者への心理的なサポートは手薄になってしまっているのが現状です。

加えて、過去に警察学校のカリキュラムを考案していた経験を持つ方によると、科学的な知識を用いた検挙率の向上に勤めた結果、嘗て存在していた警察官への道徳教育が現在では行われなくなってしまうそうです。これらが留置所における収監者の管理体制 厳格化に繋がっていると言えるのではないのでしょうか。

そこで、これらを改善するために私から総括的な解決策を二つ提言させて頂きます。

一つ目は、留置所の管理体制の完全なマニュアル化です。収監者の管理に関するマニュアルは現状として存在するものの、警察署ごとにそれが自由に運用されているようでは、私のような被害者が後を絶たないでしょう。収監者の生活面の規定から留置担当者の挙動まで細かく制限を定め、従来行われていた道徳教育に則って人権に配

第4章 2023年度 弁論大会原稿集

慮した、適切な管理を行えるようにマニュアルを改訂します。

しかし、従来よりも人権に配慮したマニュアルを策定したところで、その運用が勝手になされてしまえば意味をなしません。そこで、二つ目の解決策を提示します。

二つ目は、留置所に対する定期的な監査の実施です。具体的には、月に1度、全国の警察署へ法務省の矯正局から視察のために職員を送ります。全国に設置されている警察署の数がおよそ1200件程度なのに対し、矯正局職員が2万4000人以上いることを考えると、これは十分に余裕を持って実現出来ることだと言えます。都道府県の警察署と法務省を連携させることで留置所を国家の統轄に加え、適切な管理体制を目指すのが目的です。

最後に、私が留置所の環境改善を訴える理由は自身の経験に拠るところが大きいのですが、現在もその規模を問わず、冤罪により苦しむ人は大勢いるのが現状です。今なお発生している冤罪と、その被害者の減少を心から祈ってこの弁論の結びとさせて頂きます。

ご清聴ありがとうございました。

第48回春秋杯争奪全日本学生雄弁大会 主催：法政大学弁論部

渡邊小太郎(政経2)「不港不掘」

「浅いんだよ！！！」

先日、インターン先の国会議員から私に向けて発せられた言葉です。いったい何が浅かったのでしょうか。私の理念や考えや浅かったのでしょうか。それとも、終夜演練によって浅くなった眠りのことでしょうか。答えを探るためのヒントは、私の昔話の中に隠されています。

時はさかのぼり、約一年前のことです。我がふるさと、北海道苫小牧市の高校に通っていた私は、学校終わりのルーティンがありました。それは、行きつけだった港近くの公園で、停泊しているタンカーやフェリー、そして“沖に停まっているコンテナ船”を眺めながら、海風に当たって涼むことです。苫小牧市は太平洋に面しており、北海道の“海の玄関口”として、発展してきた日本でも有数の港町です。特に、苫小牧西港は、世界初の内陸掘り込み式港湾として知られ、先人たちが、砂浜と原野を掘っては削って、新たな臨海工業地帯の開発を実現しました。

大好きな地元で気ままに自然を感じていた日々から約一年。地元の国会議員から聞いた言葉に私は驚愕しました。「日本の港は浅すぎる！」そう、冒頭の言葉は港の水深の問題を指した言葉なのです。苫小牧港は北海道の海の玄関口であるにもかかわらず、港が浅く、加えて横にも小さいため、船が次々と入ってくることはできません。私が苫小牧で眺めていた“沖に停まっているコンテナ船”というのは、実は荷物の積

み下ろし待ちで、ただ港が空くのを待っていただけだったのです。ただ、これは苫小牧港だけの問題ではありません。規模が大きいとされる名古屋港や神戸港なども、例外ではありません。日本の港は全国的に浅くて小さいのです！

この20年で、運送コストの削減や世界的な貿易量の増加により、コンテナ船の大型化が進んでいます。しかし、ほとんどの日本の港湾というのは、一昔前の基準で作られており、水深が、現在のコンテナ船の国際規格に対応できていません。唯一、横浜港だけは、その基準をクリアしていますが、日本で大きいとされている大阪港や神戸港も、国際規格から見ると、浅いというのが実情です。つまり、大型船が入ってこられる港というのがほとんどないのです。

では、港が浅いと何が問題なのでしょう。それは冒頭でもお話した“港湾の沖待ち問題”です。沖待ちというのは、コンテナ船が着岸できるスペースがないために、沖合で待機せざるを得ないことを指します。この沖待ちは、船舶の遅延や損失の発生の原因となり、これが続くと、大量のコンテナが海上に滞留していることとなり、荷物の品質の低下や、商品が納期通りに届かないといったトラブルも起こります。

ここで、博多港を例にとると、2018年は、年間で約800時間沖待ちが発生しており、待ち時間に10億円ものコストがかかっています。博多港は京浜・阪神と比べてもそんなに大きくなく、そんな中規模の港

でさえ、こんなにも損失があるのです。全国23の国際貿易港の被害総額を考えると、手放しではいられないのはお分かりになるかと思います。

また、港湾における荷物の遅延が発生すると、陸上のトラック輸送や貨物列車輸送にも遅延が波及してしまいます。海上輸送で遅れた分は、他の運送業者が埋め合わせをするしかなく、日本の物流全体が大きな損失を被ってしまうのです。

更に、水深の浅さは、海外の大型コンテナ船からの荷物を日本国内で積み替えることができず、国際規格に対応した海外の深い港を使う必要性を引き起こします。この荷物を積み替える役割を担う港のことを

「ハブ港」と呼びます。通常の港よりも数多くの港へ、航路を確保しているため、世界中から多くの船が立ち寄り、貨物の積み替えを主な目的として利用されています。

日本が利用しているハブ港は、主に釜山や上海をはじめとした、アジアのハブ港です。そして、そこでは、わざわざ日本向けに一回り小さなコンテナ船へ貨物を積み替え、輸送しています。現在、我が国の国際物流の99%は海上輸送が担っています。そのうち、海外のハブ港を経由しているのは、日米間の航路に限って見ても4割にも達しています。

こうした海外のハブ港に依存していることによっても深刻な問題が発生します。それは、安全保障上の問題です。ハブ港の混雑状況もありますが、海外での積み替え作業によって、日本に荷物が来るまで、数日から2週間のロスが生じるといいます。これは、横浜市港湾局の方にインタビューをして、直接聞いた話ですが、海外ハブ港へ

の依存によって、経済安全保障が脅かされることや、他国の政情不安で日本に荷物が来ないこともあったということです。政情不安というと、国家間の外交問題を想像する方が多いと思いますが、港湾労働者のストライキといった相対的に小さな政情不安でさえも、時に物流を揺るがすのです。

沖待ち問題と海外ハブ港依存の問題は“日本の港の浅さ”とその規模の小ささが問題である顕著な例であります。現在、コンテナ船の大型化によって国際規格として必要とされている港の水深というのは、18メートルから20メートルと言われています。例えば、水深18メートルの港では、国際規格のコンテナを約18000個積んだ船が入港できるのに対し、2メートル浅くなった水深16メートルの港では、コンテナを約8000個積んだ船しか入港できません。つまり、たった2メートルの水深の違いで、2倍以上も一隻で輸送できる量が変わってくるのです。

港湾とは、国民生活と産業活動を支える重要な物流の基盤です。港になじみのある方は少ないと思いますが、繰り返しにはなりますが、日本と海外を行き来するモノの大半が港を介しているわけです。見えないところから私たちの生活を支えてくれる海上輸送。この重要性は、この先も揺らぐことはないでしょう。だからこそ、今の小さな港、これを変えていく必要があるのではないのでしょうか。

そこで、わたくしは“掘削を中心とした港湾の再整備”の必要性を主張します。

港湾の掘削というのは、港の縦の小ささを克服するための施策です。内容はいたって単純。国際規格、いわゆる大型船舶を受

け入れられる規模にまで、港湾を深くするのは。これにより、今まで海外のハブ港に立ち寄らされていた大型コンテナ船が直接入港できるようになり、入港する船舶数の削減や、それによる沖待ちの解消が見込まれます。

ただし、海底を掘削するという都合上、どこでもできるとは限りません。候補地となる港湾を対象とした地質調査を行い、その段階で、問題なく掘削できるという港湾を選定し、環境に配慮した掘削を行います。

また、掘削によって、深くなった港にはこれまでより大きな船が入ってくるので、一隻当たりに必要な岸壁やクレーンもより必要ですから、必然的に横の拡大も行うこととなります。港の拡張というのは漁業者をはじめとした周辺の様々な産業の兼ね合いが必要だからこそ、事業者任せにはできません。国策として推進していくことにはこうした意図があります。

現在国土交通省が推進している貨物輸送網を拡大するという政策においてはAIやIoTを活用した「ソフト面」の物流改革が重視されているのが現状です。しかし、いくら最新技術を導入したとて、それを載せる「ハード」、つまり「設備面の拡充」が足りなければいずれ頭打ちとなってしまうでしょう。

アジアから南北アメリカにまたがる環太平洋経済圏に属している日本の地理的な利点を活かして国際的に強い港湾を取り戻していく意義も鑑みれば、コンテナ船の大型化や取り扱い貨物量の増大などに対応した深くて大きい港を早いうちから整備することは必要不可欠であると言えるのです。

わずか20年ほど前までは、日本の港湾は世界トップクラスの輝きを放っていました。しかし、かつての政府は港の数を増やすのみで、港湾開発において船舶大型化への設備対応に出遅れてしまい、今やその威光はついえかけています。繰り返しにはなりますが、物流というのは、私たちの暮らしを間接的に支えています。災害から、ライフラインを繋ぎ、命と財産を防護する重要な役割をも担っています。その生殺与奪の権を海外が握っている状況をどうにか変えたいのです。ここで諦めてはいけません。

海上物流の需要はこの20年間で変わっていません。むしろ増えてすらいいます。港の数ではなく、港の大きさを勝負する。ゆくゆくは、国際競争力のある港湾を日本に取り戻す。港町で育った私は、それを切に願う。

第26回桜門杯争奪全日本学生弁論大会 主催：日本大学法学部法秋雄弁会

洪彩熏(商3)「保守革命論」

現在、我々が住んでいるこの世界は、とても不安定で、一步先の未来も見えません。コロナ禍、ウクライナ侵攻などによる影響は言うまでもなく、アメリカと中国の対立は、もはや「新冷戦」ではなく、「新しい戦前」だと呼ばれるくらいの危機になっています。このような対立は、世界をもっと極端にしています。2013年、中国の「一帯一路」計画に対して、当時副大統領だった、アメリカのバイデンは、「アメリカの反対勢力にお金をかけるのは愚かなこと」だと言ったこともあります。世界は、明確に二つに分けられているのです。ここで、日本という国は、道に迷っています。

本論に入る前に、こういう疑問を持つ方がいらっしやると思います。

「お前は韓国人だろう！なぜ偉そうに日本のことを言っているのか！」

確かに、私は韓国人です。今のところはですね。ですが、私は日本という国が好きで、長期的には日本に帰化したいと思っています。ですが私は、自分が好きな日本という国が、不安定な未来を迎えるかもしれないということが、とても心配です。ここで私は、日本のために、日本はどうすべきでしょうか？という質問に答えたいと思います。

私が会った多くの日本人は、アメリカ側につくべきだと言いました。確かに、アメリカは日米同盟を結んでいる国家ですし、「普遍的価値を共有する」国ではありません

んか？それと違って、中国は沖縄と尖閣諸島を狙っている我々の敵ではありませんか？確かにそうかもしれません。ですが、これはそんなに簡単に結論付けられる問題ではありません。

まず多くの日本人は中国が日本の行くべき道ではないと思うでしょう。ウイグル地域の少数民族弾圧はもちろん、国家による監視、表現の自由の抑圧など、中国を完全な「ディストピア」だと言うひともいます。ですが、中国は同時に、「改革開放」政策を通じて、たった30年で目覚ましい経済成長を達成し、国民の「自発的な愛国心」で国民の団結を成し遂げた国でもあります。

では、アメリカはどうでしょう？アメリカは確かに、誰も否定できない世界最強の国であり、「世界の警察官」として世界で自由と民主主義という二つの価値を守っている国です。ですが、その裏側を見てみると、すでにアメリカの地域コミュニティは麻薬で崩壊し、公教育の不備による国民の「愚民化」が進んでいます。アメリカのカリフォルニア州の場合、泥棒が頻発し、そして刑務所不足のため、日本円にして約14万円以下の万引きは軽犯罪として扱われます。果たしてこれこそが、日本の行くべき道なんでしょうか？

アメリカと中国は、それぞれ「極端な個人主義国家」と「極端な集団主義国家」です。それぞれ、大きな利点と欠点があります。同時に、そのどちらも「正解」とは言

えません。つまり、アメリカの個人主義も中国の集団主義も日本のゆくべき道ではないのです。

日本の歴史は、「中庸」、つまり、中道を維持していました。日本は、外部の物事を受け入れると同時に、自分たちの文化を守ってきました。私は、この生き方を、これからも変える必要はないと思います。米中対立が激しくなったとしても、日本が歴史的に維持してきた「中庸」という価値を諦める必要はありません。むしろ、「中庸」という精神を維持するため、それを「第三の道」という日本のイデオロギーまで発展させていくべきではありませんか。

「第三の道」とは何でしょう？歴史的に、資本主義と共産主義の二元論から脱却して、新しい道を探そうとする試みは、多く存在していました。それを、新しい、三つ目のイデオロギーという意味で、「第三の位置」、あるいは「第三の道」と呼びます。第三の道には社会民主主義からファシズムに至るまで、色々な試みがありました。その全てが成功したわけではありませんが、二つの大きなイデオロギー、この場合にはアメリカと中国の間に、新しい「正解」を見つける努力は、存在するべきです。

ちなみに、アメリカの個人主義と中国の集団主義、日本はどちら寄りだと言えるでしょうか？ホフステッド指数という国民文化を測る指数があります。この指数では各国の集団主義と個人主義の強さも測っています。100点満点で、点数が高いほど個人主義が強いということになります。この指数でアメリカは91、中国は20点を記録しました。では、日本は個人主義的でしょう

か、集団主義的でしょうか？正解は、46点。世界平均の45点に近い数値でした。つまり、日本は集団主義と個人主義の間で、よくバランスを取っている国なんです。そのため、日本は「第三の道」の実現に適任なのです。

ここで、こう思う方がいるかもしれません。「そんなにいい考えがあったら、自分の国でやったらいいんじゃないか！」ですが、皆さん、本当に韓国という国についてよく知っていらっしゃいますか？前述のホフステッド指数で、韓国の点数は何点だと思いますか？答えは、中国よりも低い、18点です。数値のように、韓国は中国よりも強い共同体主義、いや、全体主義国家で、私の夢を叶える国には全然適していません！

また、ある人々はこう思うかもしれません。「既に日本はアメリカと中国の間で中庸を保っている。なぜ『第三の道』のような新たな概念が必要なんだろう？」確かに、今まではそうだったかもしれません。ですが、今は「新しい戦前」なのです。そして、確実ではない未来に備えるために、アメリカも、中国も、できるだけ多くの国々を自分の方に引き込もうとするはずです。日本も、その例外ではないはずです。ただのなりゆきでは、日本もただ他の国々のように流されるだけです。

だからこそ、私は主張します。私たちに必要なのは、「保守革命」であると！「保守革命」とは何か？それは、「今の生き方を守るための、社会の根本的な変革」です。なかなかピンと来ないと思います。では、「明治維新」を思い出してみてください。

明治維新の「維新」という単語は、実はとても古い言葉です。維新を英語に訳せば、Restoration、つまり、「昔へ戻る」という意味です。「尊王攘夷」という言葉も古代中国から来た単語であり、内閣制度が作られる前までは、昔にあった太政大臣など、古い役職が復活し、権力を握りました。明治維新の一番の動機は、私は「変化への恐れ」だったと思います。明治維新は、素早く変化する世界中で、「やられる前にやる」、いわゆる「先制的な改革」でした。それは、何よりも、「日本の生き方を守るため」でした。西欧諸国の植民地にならないため、彼らが日本を完全に変える前に、日本という国体を、日本人という精神を守るための改革。それが明治維新だったのです。明治維新を「革新」だと考えない日本人は、ほとんどいないのではないのでしょうか。

「保守革命」は「現代の明治維新」となるのです。

では、この「現代の明治維新」で私が成し遂げたい社会とは何でしょうか？私の理想社会は、お金持ちの人も、貧乏な人も、老いも若きも、男も女も、全ての人々が自分が社会の一員だという認識を持ちながらも、個人の個性を十分に発揮できる社会。北欧諸国のような「社会コーポラティズム国家」を理想としています。日本の例としては、1970年代の「安定成長期」を思い

に保てる経済体制を工夫しました。その結果、国家の経済への介入はなるべく控えるが、重要産業を少し「後押し」する体制を作り上げました。自由市場経済の柔軟性も、計画経済の産業安保も守れるこの考え

出して見てください。

そのような国家を作り上げるのに、日本はすでに素晴らしい基盤を持っていると思います。それは、日本固有の文化である

「和」と「迷惑」文化です。相手の領域を侵さず、社会共同体を尊重する考え方は、これからも大切に持ち続けるべきだと思います。私が掲げる保守革命、日本独自の「中庸」が実現する条件には、福祉国家のような政策や国民が、国家によって強制されることなく、自らの国に愛着を持つこと。つまり、自然と「自発的な愛国心」を抱くことが必要です。

その「自発的な愛国心」をどのように引き出すべきでしょうか？そのため、国家が国民の最低限の福利厚生を責任を持つ、いわゆる「セーフティーネット」政策の強化を提案します。これは既に日本でも行われているものですが、その効果を国民が身近に感じられるための見直しが必要だと思います。自分の人生に責任を持ってくれる政府を、その国家を支持しない理由はないはずではありませんか？

そして、1970年代の「安定成長期」を思い出してみましょう。いわゆる「護送船団方式」と呼ばれる体制があったんじゃないですか？私はこれを一層発展させたいと思います。ここで私は、ドイツを参考にしたいと思います。ナチス・ドイツの経済政策からの反省から、ドイツは統制経済を避けながら、国民の福祉と産業の安全を同時方を、「社会的市場経済」と呼びます。

今までの話を聞いて来た皆さんは、私が言っている「社会的市場経済」、そして「保守革命」が決して新しい概念ではないということが分かったと思います。日本は

すでに1960、70年代に素晴らしい前例を見せたことがあって、世界が「ジャパン・アズ・ナンバーワン」だと称えるほどの正解を見せたことがありました。中道を貫きつつ、変化する世界に合わせて、前に進んできた日本の道。それが「第三の道」で、それが保守革命の精神であります。

皆さん、「未来」を守るために、「今」に進みましょう！

ご清聴ありがとうございました。

第63回花井卓蔵杯争奪全日本雄弁大会 主催：中央大学辞達学会

河合舞音(法1)「Butterfly Effect」

<導入、自己言及>

「見苦しいんだよ」「あなたには成功しないでしょう」「性格悪そう」「クラスで浮くタイプだね」

これは、私が実際に SNS で言われた言葉です。

私は三年前まで、数万人のフォロワーを抱えるインフルエンサーでした。コンセプトの固定化、投稿の分析改善、毎日投稿…。あらゆる手を使い SNS でどう生き残っていくのか、日々考え続け、楽しいインフルエンサー時代を送っていました。

しかし SNS を本格的に始めてから少し経ったときの事です。見たことも、話したこともない人に深い傷を負わされました。これが自分の誹謗中傷との戦いの始まりでした。それからというもの、毎日のように、いつまた心ない言葉がかけられるのか怯えながら生活していました。その影響は私生活にも及びました。誹謗中傷への恐怖で食事が喉を通らなくなり、何も手につかず、毎晩泣きながら過ごしました。

そして私は、インフルエンサーを、やめました。

<現状分析>

ここ最近、誹謗中傷を取り扱ったニュースや、事件を多く耳にします。皆さんも毎日電車や家で SNS を見る時、心ない言葉が当たり前のように飛び交っている現状を、実際に見ているのではないのでしょうか。

総務省の調査によると、現在誹謗中傷の

相談件数は高止まりしています。そのうえ、投稿者と閲覧者が相互に意見交換できる双方向のメディアに移行した現代では、SNS 誹謗中傷への対策が急がれます。

実際、国側も SNS の誹謗中傷については問題視しています。2022 年、侮辱罪の法定刑が引き上げられました。この際、法制審議会においては、法定刑の引き上げの根拠として、SNS における誹謗中傷被害の深刻さがあげられました。

そこで本弁論では、私のように SNS 上で誹謗中傷によって傷つく人を減らすこと、ここにフォーカスしてお話していきたいと思います！

ところでみなさん、疑問に思ったでしょうか。心無い言葉によって傷つく人を減らしたいのであれば、ネット社会に限定することなく、まずは現実社会の仕組みづくりから始めるべきではないのか！と。

では、現実社会を考えてみましょう。通りすがりの他人から誹謗中傷された場合、110 番一本で警察官が駆けつけてきますよね。

加害者は羽交い締めになされ、最近法定刑が厳格化した侮辱罪によって裁かれるじゃないですか。

しかし、SNS 社会の場合はどうでしょうか。被害者自身が膨大な手間と時間をかける必要があるのです。

名誉棄損罪や侮辱罪で訴えるためには、まず被害者自身が情報収集をし、それをもって情報開示請求、弁護士相談、訴訟を一

人で行わなければなりません。

たった一件の投稿の削除のために訴訟を起こす場合、弁護士への相談費用は20万円前後も必要です。

裁判手続きを含めると膨大な金額と時間が必要なため、誰もが簡単に加害者を簡単に裁ける体制は整っているとは言えません。

今ここにいる皆さん、SNSを使っている人、いらっしゃいますか？おそらくここにいるほとんどの方がSNSを利用しているでしょう。

さらにこれをビジネスの一助として、さらにはSNSを主体として仕事をし、生計を立てている人も少なくないのです。

今すぐに、SNSをやめろって言ったら、皆さん困りますよね。

それくらい、我々にとってネットというのは必要不可欠な存在なのです。

にもかかわらず、現実社会と表裏一体のSNS社会。

投稿が半永久的に残り続けることや、匿名性からくる心理的不安、拡散の容易性など、SNS社会ならではの特性が多数存在します。

そのため、加害者を特定することが困難であることに加え、多くの人が誹謗中傷に関わる可能性がある以上、個人で訴えること、つまり刑法的解決で済ませることはできません。

ここ最近、誹謗中傷の相談件数は高止まりしていて、日本は世界から見ても過激なコメントが多いといわれる誹謗中傷大国です。

そのような誹謗中傷を削除する為に、私たちには運営側への通報という手段があり

ます。

しかし、現在の法制度では、このような通報に対し、運営が誠実に対応する義務はないのです。

仮に通報をしても、その投稿が削除されるかどうかは分かりません。開示請求が通るかどうかも分かりません！

このような治安の改善の見込みがなく、誹謗中傷が飛び交う空間で、どうして私たちは自由な言論を展開することができるのでしょうか！

そこで私はひとつの解決策を提案致します！

<解決策>

それは、SNS事業者に、苦情対応を義務付ける法律を策定するということです！

苦情対応とは、利用者から通報があった投稿について、その投稿が法律に違反するかどうかを精査し、その投稿が明らかに違法な内容であるならば、その投稿を削除する、又は投稿者のアカウントの削除などを行うことを指します。

まず「投稿を削除する」ということから説明します。この法律では、その様な苦情対応を行うため、違反投稿を精査する部署の整備や、苦情対応が適切に行われていることを証明する報告書の作成を義務付けます。また、対象となるのはTwitterなどの大規模なプラットフォームです。そして適切な苦情処理、報告書作成が行われなかった場合は多額の賠償金を科すのです！監査役として、各SNS事業者が提出した報告書を法務省人権擁護機関が確認します。現状、法務省の人権擁護機関は、独自の有害情報相談センターに寄せられた苦情を各SNS事業者に削除依頼として提出し、そ

の報告書をまとめています。故に、ノウハウがあり、円滑な連携が可能であるため、監査役に適していると考えます。そして、人権擁護機関が、事業者が義務を果たしていないと判断した場合には、検察に報告し、場合によっては起訴され、行政と司法がその業務内容を調査する枠組みを設けます。

この政策は、ドイツにおいて実際に施行されている SNS 対策法を参考にしたものです。ドイツでは、この SNS 対策法を施行する前と後で Twitter における削除率は1%から10%に引きあがりました。これは、この対策法が一定の効果を挙げていることを意味します。

日本とドイツ、社会の状況が違えども、この法律の有効性は明らかでしょう。

この10%という数字は、一見低いように思いませんか？本来ならばこの数字はもっと高く見積もられていました。それは、SNS 事業者が過度な料金を恐れ、違法性のない投稿までもむやみに削除してしまう、いわゆるオーバードロッキングの懸念があったからです。しかし、ドイツ司法省は、SNS 事業者が萎縮したとは言えないと結論づけています。つまり、懸念とは裏腹に、この数字は慎重な法律運営がなされていたことを意味します。

次に「投稿者のアカウントの削除」について説明します。私が提案する法律によって、投稿削除、つまりユーザーからの通報に誠実に対応する義務が生じます。しかし、投稿削除だけでは、誹謗中傷をする加害者への抑止力としては弱いと考えます。そこで、段階的なアクセス制限を行います。一度、対策法により投稿が削除された

場合、同時に注意喚起を行います。そして二度目の投稿削除が行われた場合には、該当アカウントの凍結を義務付けます。この際、該当するアカウント情報を10週間保管し、その期間に再度違反が見られなかった場合には、凍結を解除します。これは、加害者自身に自己反省の猶予を与え、更生してもらうことが狙いです。逆に、この期間内に新たなアカウントを作成し、再度対策法によって違法な投稿と判断された場合には、再発防止の観点から、その端末から新たなアカウント作成の禁止及び既存アカウントの永久凍結、いわゆる垢 BAN を義務付けます。この際、新たに第三者機関を設立し、前述した基準のもと SNS 事業者が段階的なアクセス制限を義務づけます。対策法と同様に、対応が適切に行われていない場合には起訴し、裁判によって罰金を科すことによって業務の円滑な運営を担保します。

<結び>

このように、SNS 事業者に対して苦情対応の義務化をすることにより、タイムライン中の誹謗中傷が大幅に減るだけでなく、抑止力として働くことで誹謗中傷それ自体も無くすることができます。そして、多くの人が SNS で臆することなく自己表現ができるようになります。さらに、誹謗中傷が足かせとならず、SNS のコンテンツ維持や多様性が守られます！

そしてなんといっても、誹謗中傷によって苦しむ人たちが救われることになるのです！

現在の、加害者を罰するために被害者が労力を使わなくてはならない現状を変え、不特定多数によって負わされた傷は、

どんな素晴らしいアフターケアでも完全に癒えることはありません。誹謗中傷が被害者に伝わらないように、さらに心無い言葉がSNSで安易に書き込まれることがないように、根本から解決していく必要があるのです！

多くの人が幸せになるために利用されるSNSがさらに盛んになっていくことを願ってこの弁論の結びとさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

第30回拓殖大学学長杯争奪全日本学生雄弁大会 主催:拓殖大学雄弁会

岩本光太郎(政経1)「ぎょうこう」

導入

「全校生徒につぐ、今すぐ体育館に集合しなさい。繰り返す、今すぐ体育館に集合しなさい。」

このアナウンスが鳴ったあの日のことはいまも私の記憶に鮮明に残っています。この放送が鳴ってから私はすぐに友人たちと話しながら体育館へ向かいました。一体この後何が告げられるのだろう。高校内での火事か、それとも不審者でも入ってきたのか。はたまたコロナによる全員下校の知らせでしょうか。しばらく歩いていき、体育館に着くと私を待っていたのはまさに想像を遥かに超えた事実だったのです！

「全校生徒の皆さんに伝えなければならぬことがあります。今日未明、我が高校の生徒の1人がお亡くなりになりました。」

頭が真っ白になりました。亡くなった生徒として伝えられたのは、私の中学の部活の後輩だったのです。これは後から聞いた話なのですが彼の死因は自殺であり、同級生との間でいじめ被害にあっていたといわれています。なぜ彼はいじめ被害によって自殺しなければならなかったのでしょうか…。

まだ高校生の彼には自殺をしなかったその先に数多の道があったかもしれない！私はこのような形で自殺してしまう被害者をもうみたくない！

本弁論の目的は、いじめ被害者にいじめから回避する道をつくることにあります！

現状分析

文部科学省の調査によると、令和4年度のいじめ認知件数は過去最多の68万2000件を記録しました。実際の調査をもとにするといじめの発生件数は認知件数を上回っています。

また、小中高生がいじめによって自殺を起こす、心身に重大な被害を負う、長期の欠席を余儀なくされるといった重大事態の発生は923件でした。この重大事態の発生件数も過去最多を記録しています。

もちろん国も対応を怠ってはいません。平成25年にもいじめ防止対策推進法を制定するなど、いじめ問題は国においても非常に問題視されています。

では、いじめに対し学校はどのように対処しているのでしょうか。学校は、いじめを発見した際に、加害者を特定し、そのいじめ行為をやめさせようとしします。具体的にはヒアリングなど証拠集めを行い、加害者を更生させようと指導します。いじめの根本を断つために加害者への対処を行う。全く間違った行為ではありません。

つまり、学校側の対応は加害者生徒の特定が焦点となっているのです。実際世間でも、いじめ加害者への厳罰を望みます。加害生徒の転校措置などを声高に主張する人などがその典型でしょう。

ですが、何か大切なことを見落としてはいないのでしょうか。一番初めにやるべきこと。何よりも、まずいじめ被害者に逃げ道を作ることが必要ではないのでしょうか！

1人でも死なせないことこそが重要ではないでしょうか。私の後輩だって、逃れるみちがあったら助かったかもしれないのです！

被害者がいじめから逃避する方法として一番にあげられるものは転校でしょう。

現状、いじめによる転校には学校と教育委員会の認可が必要なのです。

つまり、転校にはいじめ被害の客観的証拠が必要なのです。このことにより、いじめ被害者は転校を試みることもできずに、客観的な証拠が集まりいじめが認可されるまで、トラウマを背負いながらその環境での生活を強いられるのです。そのような環境での生活によって自ら命を絶ってしまうことが続いてよいのでしょうか！

原因分析

この凄惨たる状況を助長しているのは、学校と被害者の間に存在するいじめに対する認識の乖離にあります！

現在、いじめ防止対策推進法上では、いじめを「被害者児童が心身の苦痛を感じているもの」と定義しています。いじめかどうかを決めるのは、被害者自身です。

しかし、学校はいじめに対応するために客観的な証拠を必要とします。これでは、いじめの定義とその対応に食い違いが生じているではありませんか。対応の軸が被害者の主観に寄り添っていないからこそ、被害者は苦しみを理解してもらえず、選択肢を見失ってしまうのです。

どうして被害者の主観によって判断されるべきいじめを、学校が客観的に判断することができるのでしょうか。いや、できるわけがないのです。

いじめへの対応の誤りと、学校側のいじめ認識の誤り。この二つの誤りにより、いじめ被害者の逃げ道は閉ざされてしまっているのです。

解決策

そこで私はこの閉ざされてしまった逃げ道を開きうる、ある解決策を提示したいと思います！

その解決策は、いじめによる転校を容易にすることです！

現状の制度ではいじめによる転校には在学中の学校と教育委員会からの認可が必要です。しかし、いじめは人間関係の中からくる辛さそのものです。そして、その人間関係からくる辛さは被害者自身によって判断されるものなのです。

そこで、この転校をいじめ家族と被害者、転校先の学校間にて完結させます。いじめの認可に関わる校長の意見書などの提出などは行いません。転校の際に必要な在学証明書や教科用図書給与証明書の処理などは、引き続き学校や教育委員会が行います。

これにより、被害者自身のいじめの判断によって転校が可能になるのです。

ただ、これだけではいじめ被害者の救済には不十分です。被害者の中には、自分がいじめへの対処行動を取ることのできない生徒は少なくありません。面と向かっていじめ被害を打ち明けられなかったり、いじめが酷くなるのを恐れたり…。

果たして、そのような人は逃げ道にたどり着けないまま、悩み続けなければならないのでしょうか。

いや、そんなはずはない！ みなさんは

第4章 2023年度 弁論大会原稿集

彼らに手を差し伸べる方法を知っているはずです！

匿名性のいじめアンケート。回答したことがあるのではないのでしょうか。匿名性のアンケートは、いじめ告発の心理的ハードルを低下させます。

これによって、身動きの取れない生徒たちにも救いの手を差し伸べることができます。本人からの匿名 SOS はもちろんですが、普段はただ見ているしかない傍観者も動きやすくなるでしょう。そして、教師から転校という新たな選択肢を手にし、苦しみから逃れるための道を拓くことができるのです。

このように、改めた制度をしっかりといじめ被害者の救済に利用できるように、今あるアンケートを有効活用していくべきなのです。

締め

我々が人間という感情を持っている生き物である以上、人間関係の不和というものは避けられないものです。集団の中で生活している以上、いじめ被害者というのは絶対に生まれてしまいます。

いじめ被害者の判断によって簡単にいじめから逃れる道があれば彼らにこれから先の可能性を残すことにつながります！その道があることで救える命があるのなら絶対にやるべきなのです！

私は後輩のように息絶えていく若者を1人でも多く救いたい！

そして逃れた先で彼らへのぎょうこうがあることを私は心の底から願っています。

第46回大隈杯争奪雄弁大会 主催：早稲田大学雄弁会

山下琢磨(政経2)「君たちはどう生きるか」

【導入】

去年のある日、僕は映画『アベンジャーズ/エンドゲーム』を見ていました。この作品は、超大人気作品のアベンジャーズシリーズの完結作。興行収入はなんと、全世界第二位という大ヒットを記録しました。

しかし、この作品、かなり長いんです。その尺なんと3時間。他の映画と世界線が共通しているマーベル作品だからこそ、アベンジャーズ前作にはいなかったキャラクターが、何食わぬ顔でアイアンマンと共闘していたり、マイティ・ソーの武器がハンマーじゃなくなっていたり！

もう頭がついていかなかった。そして3時間の長丁場にも耐えきれない僕の集中力。僕は「アレ」に手を出してしまったのです。

それは、倍速視聴です。僕は『アベンジャーズ/エンドゲーム』を途中から倍速で視聴してしまったのです。まあ、面白かったんですけどね。

しかし、ここで僕の中にひとつのモヤモヤができました。それは「倍速視聴で見た自分は、この映画を見た。と言えるのか？」ということです。

僕は元々映画が好きでした。だから、映画を作り手が意図したように観られなかった、と歯がゆい気分になりました。映画のサブスクも広がり、好きなタイミングや視聴方法で、映画を見ることができるようになった昨今。好きな映画を好きなように見ているのに、生まれてくる釈然としない思

い。

しかし、自分で目的を持って映画を見れば、それもすっきりするのではないのでしょうか。そこで今日は、倍速視聴をしている人、そうでない人に疑問を投げかけ、私と同じような思いをしている人たちに指針を提示したいと思います！

【現状分析】

ところで、皆さんは倍速視聴についてどう思いますか？ 中には倍速視聴常習犯の方もいるのではないのでしょうか。

これは映像作品ではなく、授業の話なのですが、2022年、都の西北にあるあの有名な講堂が紺碧の空に映える某大学の商学部では、複数の授業動画を同時に視聴したことが不正に当たるとして、受講者100人ほどの単位を認定しないと話題になりました。そして、その中には、倍速といっても32倍速という驚きの速度で再生し、同時視聴をされていた方もいらっしゃったそうです。

学生たちの、時間を効率的に使おうという意識の高さ、そしてそれを実現させてくれる大学のシステム、この大学、やはり見上げるばかりです。

ご存じの通り、倍速視聴とは、動画や映像の再生速度を速くして視聴することです。倍速視聴をすることで、効率よく多くの作品を視聴することができます。そして、多くの人がこの倍速視聴を活用しているのです。

実際に、マーケティング機関である

SHIBUYA109 ラボによると、動画配信のサブスクに登録している19～25歳の若者のうち48.9%もの人が倍速視聴をしているのだそうです。

また、「動画の倍速視聴に関する調査」によると、20代は他の年代に比べ倍速視聴経験者の割合が高く、特に20代男性は54.5%と半数以上が動画を倍速で視聴したことがあるのだそうです。

この倍速視聴という新しい潮流に関してネット上では、賛成派と反対派の、二つの立場での熱い討論が日々交わされています。

映画配給会社OBの稲田豊史さんは彼の著書「映画を早送りで見える人たち」の中で、実際に倍速視聴している人の意見としては「内容の良し悪しに関わらず、普通の速さで見ると時間を浪費した気分になるから」「二時間も集中して観られないから」「視聴すべき作品が多く、時間がかかるから」などの理由を挙げています。

逆に反対派の意見としては、ダイヤモンドオンラインの記事によると「作り手の意図した表現が消えてしまうから」「芸術はそういうものではないから」などがあります。

また、俳優の堺雅人さんは、倍速でドラマを視聴している人が増えていることにショックを受け「倍速で観られてたまるか」という思いで早口で演じたこともあったと語っています。

これを取り上げた記事には2.4万件のリツイートと17万件のいいねが付き、大きな反響を呼びました。

これらをまとめると、賛成派が倍速視聴をする目的は「情報収集」、それに対して

反対派が元の速さでの視聴をする目的は

「鑑賞」といったところでしょうか。

しかし、この賛成派も反対派も、それぞれ気づかないうちに、とある価値観に縛られているのではないのでしょうか？

その価値観とは、賛成派は「タイムパフォーマンスの追求を第一とする価値観」、反対派は「作り手の意図や表現を味わうことを第一とする価値観」です。

【原因分析】

これらの価値観に縛られてしまっている人々は、なぜこのように縛られているのでしょうか？それぞれ説明していきます。

第一に、そもそも、現代社会はコンテンツ過多と言われていますよね。コンテンツとは、インターネットやテレビ、紙などのメディアを通して伝えられる情報です。現代社会ではコンテンツの数が莫大で、ひとりひとりが好きな作品と流行が分離しています。昔のように『ドリフの大爆笑』を見ていれば流行についていた時代とは違うのです。

そんな現代を象徴する言葉が「キメハラ」でしょう。この中で視聴した方も多いと思うのですが『鬼滅の刃』というテレビアニメ、大ヒットしましたよね？ 社会における鬼滅ブームがヒートアップすることで「鬼滅の刃まだ見てないの？」と押し付けてくる行為「キメハラ」が行われ、『鬼滅の刃』が「見なければいけない作品」になりました。

見たい作品とは別に見なければならない作品を見る。そのために効率よく映像作品を見ることが出来る視聴方法が必要不可欠になってしまいました。

つまり「倍速視聴による効率向上が第

一」という価値観に縛られている人たちは、元の速さで見ることで時間の無駄だと感じてしまうのです。

また、倍速視聴の原因は何も、コンテンツ過多ではありません。3、4年の先輩方が苦労していらっしゃる就活の面接などが顕著な例ですが、この現代、人とは違う自分、つまりは、個性を持つことが重視されます。

そのため、自分を他人と差別化する特定分野を求めて、より多くの映像コンテンツを見ようとする動きが生まれます。これにも原因の一端があるのでしょう。

一方で「元の速さ、作者の意図した形で見るのが第一」という価値観に縛られている人たちは、倍速視聴では「作り手の意図や演者の表現をないがしろにしてしまわないだろうか？」という疑念、あるいは「ないがしろにしてしまう」という確信を持っています。

アベンジャーズを倍速視聴し罪悪感を感じた僕のように、彼らは「映画とは総合芸術で、倍速視聴によって情報が欠けてしまった状態のものを享受するわけにはいかない」という考えを持っています。

だから元の速さで見ることにこだわってしまうのです。その結果、コミュニケーションのために大まかな構造さえ把握できればよい流行りの作品も、元の速さ以外で見ることに抵抗が生まれ、苦しんでいます。

【伝えたい価値】

でもちょっとまってください！ そもそも、映像は「芸術作品」と、「娯楽コンテンツ」の二つの側面を持つ存在なのです。それなのに一方の見方に固執し、倍速視聴に賛成か反対かと視聴方法について議論が

起こること自体おかしいんです。映像を情報収集と結論付け、倍速視聴でただただ消化するだけという見方をすることも、逆にずっと元の速さにこだわらなければならないという見方をすることも、どちらももつたないことです。

そこで重要になるのは、気づかないうちの呪縛から脱却することです。

これに必要なことは、「自分はこの作品に『情報収集』か『鑑賞』か、どちらを求めているのかを明確に自覚する」ということです。

目的を自分の中で割り切ることができれば「この作品を見たと言えるのか？」という自問自答に陥ることはなくなります。

また、視聴している途中で起きる目的の変化にも対応できるでしょう。情報収集で見ていたが、途中から面白いと感じて鑑賞目的で元の速度で見てみたり。その逆で、鑑賞のつもりで見ていたが、あまり面白く感じられず情報収集にシフトして倍速で見てみたり。もっと言うなら、倍速視聴で一度見た後に元の速さでもう一度見ることもいいかもしれません。

このような、小さなアプローチから始めることで、少しずつこの「縛り」から脱却することができます。

【締め】

今回は、映像作品の倍速視聴を主題として取り上げお話ししてきましたが、「目的を意識して行動しよう」というのはこれだけに限らない話だと思います。

現代社会の荒波の中で、自分の信念を貫き通すことは並大抵の人間ではできないことでしょう。

信念を貫き通すというのはそれもまた素晴らしいことではありますが、ふと、一度立ち止まって、対立する価値観から自らの価値観を顧みて、それはそれ、これはこれと線引きを行い、前を向いていく。

それが多くの人が、より幸せに生きるために必要なのではないのでしょうか？

話題になった宮崎駿監督の映画「君たちはどう生きるか」。あの作品もそのうち動画配信サイトで視聴できる日が来るかもしれません。

それをみなさんはどう視聴しますか？

君たちはどう生きるか？

君たちはどう見るか？

自分に合った視聴方法で、よりよい映像作品ライフを。

ご清聴ありがとうございました。

第68回全国青年弁論大会 主催：日本弁論連盟

正躰幹人(情コミ 3)「失われた価値を取り戻す」

私の大学生活はコロナ禍で始まりました。思い返せば、蔓延防止措置や緊急事態宣言が度々、発令されていました。

しかし、今ではそれさえ耳に懐かしい言葉に思えます。最近ではコロナそのものを意識することも減り、マスクをしていない人も増えてきています。現に、この会場でもマスクをしていない人がいますね。

今年の5月8日にコロナは感染症法上の分類がインフルエンザと同じ5類に移行しました。名実ともに「ウィズコロナ」から「アフターコロナ」へとシフトしたと言えましょう。しかし、どうでしょうか。コロナ禍以前の生活は戻ってきたのでしょうか？

私はコロナ前後での若者を取り巻く価値観や環境の変化を問題として捉えています。この変化は「断絶した世代」という言葉に象徴されています。これらの原因としてのキーワードは不要不急・自粛・オンラインです。この言葉によって失われたものの価値は計り知れないように思えます。

2020年4月から不要不急の名の下に学校がフルリモートになり、対人関係構築の機会が大きく失われました。現在の大学4年生は1年間、一度もキャンパスに行けなかったと言うような人もいました。更に、対面での食事や飲み会などが「不要不急だ！自粛しろ！」として約1年程度、機会が断絶しました。飲食店でアルバイトをしていた先輩はクビになった、とも語っていました。

このような時代に若者が失ったものは、生のコミュニケーションや実体験の機会とれます。コロナ禍の対応策として進んだ、リモート勤務や文書の電子化など、デジタルシフトによって、暮らしやすく便利な社会へと変革した部分もあります。

しかし「合理化として切り捨てられたもの」「不要不急として忘れられたもの」があります。そして、このデジタルシフトの中で、私が問題視するものは「若者の経験不足の深刻化」です。

ここで言う経験不足とは、様々あります。例えば、目的のない集合や雑談、アルバイトを含む就業経験、大人との会話、そして、現場での実習などです。このような経験不足の結果として知識不足、感受性の低下が引き起こされるのです。

これは大学生に限った話ではありません。京都大学の研究によると5~6歳でコロナ禍を経験した幼児はコロナ以前と比較すると平均4ヶ月程度、発達が遅れていたそうです。原因は社会性を身につける段階において保護者以外の大人や友達と触れ合う機会が減少したからとされています。

若者の経験不足は、オンラインによる代替で完結させるようになったことが一つの原因と考えられます。孤独であることを社会に要求され、部屋の中でキーボードを叩き、全てを知ったつもりになっています。

そして何より、全てをオンラインで完結することを可能にした社会的側面も存在します。

私の訴えたいことは、自粛だったから、オンラインでも、と言いつけを見つけていた過去には訣別し、やってみたいということには積極的に挑戦してみるべきということです。

確かに、一度経験したオンラインという選択肢が楽だから…という気持ちも、よく分かります。ですが、楽をしてもその先で得られるものはほとんどありません。

経験してみたいことを自発的に伝え、一歩を踏み出すことが大切です。一歩踏み出した先には必ず発見や学びがあります。例えば、根拠のない自信から踏み出し、失敗したとしても良い学びになるでしょう。失敗も重要な経験です。

私が、一歩踏み出して良かった経験は多くあります。例えば六大学野球の応援。それまで、興味はありませんでしたが、球場に行くと、同じ大学というだけで何世代も前のOBと話をし、盛り上がれました。

そして、倉庫や運送業でのアルバイトでは、文献ベースで見たドライバー不足という問題が実情を持って、まさに体感できました。当たり前前のサービスは多くの見えない人の労力から成り立っていることがよく分かりました。

また、この夏のインターンシップで様々な企業の社員の方とお話をしました。その中で、生き方の価値観や指針を発見しました。

教育機関では関わる大人が固定されていて、どうしても画一的な見方になってしまいます。外に出て、多種多様な大人とコミュニケーションをとることで、このような生き方もあるのだなと感じられ、視野を拡大できると考えます。

このように、一つの挑戦が連鎖的に反応し、多様な経験をもたらすのです。何か一つでも、思い切って外に出てみましょう。外に出ることで、発見があるでしょう。社会は想像以上に多くの人々によって支えられていることや、自分が想像以上に多くの人との関わりの中で育ってきたということです。

経験することで想像力を養うことができます。その想像力から、社会への共感性や公共的な道徳も学べると考えます。そして、外に出ることで、社会の中での自身のポジションや可能性も自ずと分かってきます。

つまり、他者を知ることで自己理解も促進されるのです。

世の中が、急激に移り変わる中で、受け身で待っていても自己成長は望めません。外には機会が満ち溢れています。大人も熱心に向き合えば、必ず応えてくれるでしょう。

そしてまさに、今、この瞬間、演台に立つて行うこの弁論も、私の挑戦です。

この弁論が誰かの一歩、踏み出すきっかけになることを期待して、弁論を終了させていただきます。御清聴ありがとうございます。

第2回東京農業大学長杯全日本農林水産学生弁論大会 主催：東京農業大学農友会講演部
木村幹太(農1)「銀の匙」

【導入】

「農家よりパワハラ企業で木枯らしてた方がマシだ」

私はこの間高校の同級生からそんなことを言われました。ちなみに、私は農家の息子です。そして、私の夢は実家を継ぎ大きくすることです。

しかし、小学校の頃将来の夢はと聞かれ農家と答えた私は「変わっているな」と言われ、つい先日も高校の同級生からこう言われました。

私の地元は山と畑に囲まれている田舎であつたのですが、周囲の人間との温度差になんだかなあと思い暮らしてきました。

しかしながら、そういった彼らの意見も仕方のないことかもしれません。家の周りには爺さん婆さんばかり。サラリーマンとして町に出た農家の息子たちは誰も帰ってこない。農地が荒れ、草がぼうぼうになっている光景はもはや見慣れたもの。日本の農業ってやばいよなと肌で感じつつ、ここまで生きてきました。

このままでは、遠くない未来。私たちが将来おいしい野菜を食べる機会も、知らず知らずのうちに農業から受けている恩恵もなくなってしまうかもしれません。

そんな未来にならないために、今を生きる私たちがこの問題に向き合うことが必要なのです。

本弁論の目的は、日本の農業が50年後100年後まで産業として続くための提言をすることにあります。

【前提】

農業。その生産物は我々の腹を満たし、健康で、文化的な、満ち足りた生活を実現してくれます。中央大学の学食がうまいのも、大根踊りが楽しいのも、全て農業のおかげです！

しかし、農業の意義はこれだけではありません。それは「農業の外部経済性」または「多面的機能」と呼ばれる概念です。まさに縁の下の力持ち。農地が存在することにより、国土の保全に効果があるのです。

具体例として、大雨の際堤防が決壊したとしましょう。この場合田畑は雨水を一時的に貯めることで洪水を防止・軽減することが可能です。

また、日本の豊富な水資源。これは日本の宝です。この全国規模の水インフラの末端を担っているのも農地です。

つまり、農業、そして農地そのものが存在すること。これらは我々がこの国で生きていくために必要不可欠な存在なのです。

【現状分析から導き出した問題性】

我々の安全、安心な生活を支えてくれている農業。しかし、それを揺るがすものが二つ。耕作放棄地の増加と、農業人口の高齢化です。

耕作放棄地。農水省の定義によれば「以前耕作していた土地で、過去一年以上作物を作付けせず、この数年の間に再び作付けする意思のない土地」とされています。

この耕作放棄地は年々増え続けています。平成の三十年間でほぼ四倍になりました。全国に40万ヘクタール以上。農地全

体の一割にも及びます。

また、農家の平均年齢は年々上昇しており、現在は約68歳といわれています。基幹的農業人口、つまり、農業に集中して取り組んでいる人のうち現在49歳以下の割合はたったの一割といわれています。更に高齢化は進み、30年後には農家の3分の1が85歳以上になるといいます。

実は、現在の農家数は100万強。結構多いと思いますよね。しかし、この数字は二十年前と比べて半減しています。加えて、今後の三十年間で農家の数はさらに八割減少すると予想されています。

【深刻性】

我が国の農業が抱える二つの問題。絶望的な土地の減少と、担い手の減少。行き着く先は日本の食料安全保障と、国土のさらなる脆弱化です。緊迫する国際情勢と、頻発する自然災害のさなかで、このような未来を迎えること。少なくとも、想像して楽しい未来ではありません。

この問題の原因はひとつ。“人手不足”ただそれだけです。

もちろん今でも新規就農者はいます。しかし、その多くが、定年後、趣味として農業を始めた人々で、減り続ける基幹的農業人口の埋め合わせには到底足りません。

結局、農業で生計を立てる意思のある、職業農家が必要なのです。

さて、そこで聴衆の皆さんに質問があります。

【原因分析】

農家って魅力的な職場でしょうか？皆さんは大学卒業後農家になろうと思いますか。思わない人が大半だろうことは容易にこと。もうひとつは、若い農業従事者を増

想像できます。キツイ汚い危険、いわゆる3Kの代名詞。今は農家の家に生まれても、農業高校を出ても農家になる人は一割もない時代です。

大学の就職課にポスターがあるでしょう。自然の中でのびのび自分のやりたいことを。田舎の集落へ貢献するために移住しよう。たしかに素晴らしいことです。

しかしながら、まず生活に必要なだけの収入を得ること。家族の食い扶持を稼ぐこと。これは必要不可欠です。これからすべてが始まるのです。そして、農業の持つマイナスイメージを払拭することにつなげていくことが大切なのではないのでしょうか。

また、私のこの問題意識について、先日実際にお会いして話を聞いたところ、農林水産省OBの方も、私の地元の農業経営者の方々も、現役の農業委員会の方々も、皆口を揃えてこう言いました。「儲からなければどうにもなんないねえ」農業関係者の中でもこのことは共通認識だったのです。

ではなぜ今の農業は儲からないのでしょうか。それは、一つ一つが小規模だからです。戦後の農家たちは、平均して1haほどの小規模な土地を耕していました。今では少しずつ改善はされていますが、全体で見ればまだまだ足りないのです。

【解決策】

私は五十年後。百年後。それよりもっと先の未来の日本人まで農業という産業を維持していきたい。農業の礎である農地を保全していきたい。

そのために必要なことは二つです。

ひとつは、現在の農家が規模拡大を進め、今よりも平均的に広い土地を利用するやし、次世代の担い手を確保すること。こ

れらを満たすことが重要なのです。

そこで私は二点の解決策を提案します。

一つ目は、農地バンクの更なる活用。二つ目は、法人化条件の緩和です。

まず、農地バンクについて。農家が減っている現状においては、一戸あたりの規模を大きくすることが必要です。そのためには、規模拡大・集約のためのハードルを下げる必要があります。そこで重要となるのが農地バンクです。農地バンクは農地を借りたい人と貸したい人を結びつける中間組織です。耕作放棄地、耕作地の両方を一括してウェブポータル上で管理しています。

素晴らしいシステムなのですが、問題があります。それは、登録されている農地が少ないことです。現時点では、農地全体の一割程度しか登録されておらず、情報の更新が不定期的な地区もあります。そう、これではシステムを活かしきれていないのです。

これは農地バンクに対する農地の登録が義務化されておらず、農地を持っている人が中々貸し出していないということが理由です。

そこで私は、全国の農業委員会に農地バンクへの農地の登録を徹底させることを主張します。

これにより収益を増やしたい農家と耕作放棄地予備軍とのマッチングをやすくすることで農地の保全と収益の改善両方に効果があるのです。

ただ、規模を広げるといったところで、限界があります。適正規模を超えとかがえって効率が悪くなってしまう場合もあります。例えば殆どの農家にとって10から大きく安定した稼げる経営基盤の農家を増や

20ヘクタールくらいが限度となります。

故に、農家の数が減少の一途をたどる現状を放置したまま本策を実行したところで効果は限定的となってしまいます。だからこそ、新たな人材を農業に呼び込まなければならぬ。しかし、個人農家の力にのみ頼ることは現実的とは言えないでしょう。

そこで必要となるのが、法人化条件の緩和です。これによって農業法人を増やし、経営発展の可能性を拡大します。

法人の農家、これを農地所有適格法人といいます。この要件として、いくつかの基準が設けられています。具体的に言うと、このうちの一つ。役員の過半数が常時農業に従事すること。この部分を3分の1とし、参入のハードルを下げることを提案します。

農家の法人化を行うと、補助金制度を利用しやすくなり、税制面でのメリットや、福利厚生の実施による雇用の安定化などを見込めます。また、資金面で安定した株式会社の参入も促されることで、現在の農業のもつ、稼げない、不安定、前時代的、といった負のイメージを払拭し、一就職先としての選択肢になり得るでしょう。

また、スマート農業、IoT、科学的根拠に基づいた環境制御、溶液栽培などの導入を通して今までになかった多様な農業の形を人々に提供するには、確固たる資金力と安定した経営基盤が必要となります。そのためにも、農家の法人化による経済的メリットを活用することが大切なのです。

農地バンクの充実と参入要件の緩和。これらの解決策によって、今よりも規模が大きい土壌を作ること。これによって新たな人

材を呼び込む体制を整えることで、将来的な日本農業の規模の維持が実現されます。

【結び】

私の演題である銀の匙。ヨーロッパにおいて銀製の食器は富の象徴です。これは「経済的に恵まれた人生を歩んでほしい」という願いを込めて親が子に渡すものです。

古くからの家制度が廃れ、家業としての性格のみでは成り立たなくなってしまった農業。この農業と人々をまず繋ぐものが、十分に生きていけるだけの収入だというのが本弁論における私の理念でした。

私を含めた、将来の農業の担い手たちにとって、私の弁論が意味のある贈り物となることを祈ってこの弁論の締めとさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

第40回土光杯全日本青年弁論大会 主催：フジサンケイグループ

正躰幹人(情コミ 3)「GX 達成に向けた資源国産化への道標」

昨今の世界では脱炭素化、グリーントランスフォーメーション、ESGなどが叫ばれ、従来のエネルギー構造は、大転換を迫られています。そのような中で日本が抱えているものの、顕在化しにくい課題が存在しています。それは再生可能エネルギー設備やEV、半導体など電子部品に必要なレアメタルの安定的な確保に関わる問題です。

日本では過去、レアメタル確保の問題は一度大きく取り上げられたことがあります。

2010年の尖閣諸島沖での海上保安庁と中国漁船の衝突事件による国交の悪化によって、中国からのレアメタルの輸出が全面的に停止されてしまった事件です。幸いにも日本は技術開発によるレアメタル使用量の低減、WTO提訴による輸出規制の撤廃など手を打つことができましたが、今回のレアメタル危機はこの時の話とは大きく異なります。

その理由は世界的なレアメタルの獲得競争の激化にあります。

EVシフトやバッテリー・電子機器の普及によってそれぞれ必要となるリチウムやコバルトなど需要が増大し、投資対象として扱われることから価格が乱高下しており、不安定な状態が続いています。太陽光パネルにおいてはガリウムやインジウムが、風車においてはネオジムやテルビウムなどのレアアースが生産に必要な不可欠です。

しかし、それらレアメタルの多くが中国に埋蔵しているという危険性を孕んでいます。また、現状のレアアース生産量では中国が世界シェアの70%以上を占めており、偏在性が強くなっています。

このような状況下で、アメリカでは「安全で信頼できる重要鉱物の供給に向けた連邦政府戦略」、EUでは「重要原材料法」、日本では「重要鉱物に係る安定供給確保を図るための取り組み方針」と様々な戦略を打ち出していますが、産出国である中国は「レアアース管理条例」を設けており、厳しい状況に置かれていると言わざるを得ません。

また、EVや風車に欠かせないモーターを作るためのネオジムというレアアースを分析すると、採掘は中国以外の国々でもされていますが、精錬の過程で環境負荷やコストなどの理由から一度中国に輸出し、中国で精錬された後に輸出されているのが現状です。これでは中国が供給を停止する懸念が残っており、サプライチェーンが途絶えてもおかしくありません。

更に、EVに多く使われているコバルトは石油より先に枯渇してしまうとも言われています。

上記のようなレアメタル問題に対する解決策として日本が打つべき施策は国内にレアメタル精錬所を建設することでプロセスに参入していくこと、及びレアメタルのリサイクルを推進することです。

解決策となる精錬所・精製所を日本国内

に建設する理由は2点あります。

1点目は中国を経由しないレアメタル精錬ルートを開拓することです。例として、日本では採掘せずとも精錬を担っている資源、銅があります。日本の銅の精錬量は世界シェア3位を誇っており、その技術はリサイクルにも役立っています。最先端の技術を活かすことでレアメタル精錬においても、今まで中国にて精錬していた国を日本に呼び込むことで、世界に新たなサプライチェーンを高品質で提供できるものと考えられます。

2点目の理由は日本における海底資源開発です。日本は世界6位の排他的経済水域の面積を誇り、その海底には多くの資源が眠っています。研究の進んでいる南鳥島沖では世界需要の数百年分ものレアアースが眠ると判明しています。しかし、現状で採掘が成功したとしても、精錬所がなければ中国に輸出して精錬を待つことになりかねません。先駆けて精錬所や精製所を建設しておくことで、海底から採掘されたレアアースを日本国産として精錬し、輸出できるようになるのです。加えて、精錬所ができることでレアアースのリサイクルも推進できます。

このように、国内にレアメタル精錬所・精製所を建設することでチャイナリスクを排除したルートを国際向けにも用意すること、国内外でのレアメタルのリサイクルの推進に貢献できること、海洋開発が成功した際に国産レアメタルへとステップアップできるのです。

日本はレアメタルの精錬所を作ることやリサイクルを推進することで資源循環を完成させ、サプライチェーンを強靱化するこ

とが可能と考えます。

国際的なサプライチェーンからチャイナリスクを排除すると同時に、資源を循環させることで持続可能な世界に貢献していけると考えます。

加えて、コストが問題視されていた都市鉱山問題もスケールメリットで解決の方向性に進ことが期待されます。

今後の日本は、資源的強国を目指していくべきです。石油・天然ガスと苦渋を強いられてきたこれまでから脱却する機会であると思えます。しかし、施策を誤ればレアメタルにおいても同様の依存による不安定な状況のままになる可能性もあります。

この構造の転換期に日本はどう動くのか、将来を左右する強い意思決定が求められます。

令和5年度桜弁会杯争奪学生弁論大会 主催：学習院大学輔仁会弁論部

内藤脩平(総数1)「隠された強迫」

いきなりですが、皆さん、「やるべき」だからやっていることと、「やりたい」のでやっていること、この区別ってつきますか？

「そんなのつくに決まっている」

そう思うかもしれません。でも、私は、その区別、ついてなかったんです。それに気づいたのは去年の5月頃に起きた、あることがきっかけでした。

大学に入学したての当時の私は、自分の内側からふつふつと湧き出てくる知的好奇心に満ち溢れていました。それゆえ、通学中の電車内では読書、暇さえあればTOEIC対策のために単語帳を開く、という日常をととてもとても楽しんでいました。これ、本当に、マジで心から「楽しい」「面白い」と思ってたんですよ。

しかし、そんな生活は、長くは続きませんでした。ある日、目を覚ますと、まるで世界にモヤがかかったように感じていたのです。それはたとえるなら、脳の歯車そのものがさびついたような感覚で、ほぼ全ての知的・精神的活動がろくにできないという感じでした。

何にも面白いと思えない、これじゃあ生きる意味も感じられないよ…という絶望感。

なぜこんな状態になってしまったのか？おそらく、大学生になったことによる急な環境の変化とそれによる睡眠不足が原因だろうとそのときは思い、とりあえず睡眠を

たくさんとって、サークル活動を減らして、ということをやりました。

当時の私は、何かを心から楽しい、面白いと思えていた、元の正常な状態に戻ろうとすることだけを考え、あらゆる手を打っていました。

しかしそんな中、私は、気づいてしまったんです。「～をやりたい」「やっていて楽しい」という感覚の正体が、実は、「～をやるべきだ」「やらないといけない」という強迫観念であったことに…。

「『やりたい』とか『やるべき』とか、抽象的すぎて、分からん！」

そう思っているかもしれません。ちなみに、ここで言っている「～をやるべき」というのは、将来社会人としてちゃんと生きていくために、時間を有効に、効率的に活用して、できる限り多くの情報をインプットするべきである、という観念のことです。

皆さん、こういうの、もう耳にタコができるほど聞いてきましたよね？そして「～をやりたい」というのは、そういう損得勘定抜きで、純粹に心から自分の好奇心にしたがってやる、他にやらないといけないことがあるのにも関わらずついついやってしまうくらい好き、そういう感情のことです。

さて、それで結局、私の気づきの正体はなんだったのか。

結論から言うと、それは、当時の自分は

「努力」というものに対して、あまりにも価値を置き過ぎていた、ということだったんです。

これはすなわち、「やるべき」という観念を、「やりたい」という感情のことだと思いついてしまうくらい、「努力」を盲目的に信じていた、とも言い換えられます。

「うん、なんとなくは分かった」

そう感じてもらえたのでしょうか？ とは言っても、なぜそんなことが起きたのか？ ここからは、そのメカニズムを説明していきます。

まず、皆さんもご存知のように、私たち人間は他の動物と比べて非常に社会的な生物です。

社会的な生物であるというのはつまり、わたしたちが人間社会で生きていくためには、他人との高度な関わり合いをもっていかねばならない、ということです。だから、私たちは、社会に適応して生きていくために様々なことを幼少期から「すべき」ものだとして洗脳され、すり込まれます。

その「すべき」ものとは、例えば、「毎日を有意義に過ごすべきだ」「時は金なり」「努力してこそ成功する」「効率よく情報をインプットするべき」といった価値観に代表されるものです。

さて、ここから先、人間の精神のからくりを説明するために、精神を「頭」と「心」に分解して考えることにします。

まず「頭」は理性をつかさどる、コンピュータのような働き、つまり情報処理を行う場所、一方「心」の方は、感情・欲求・感覚・(そして)直感が生み出される場所、と定義しています。

そして、人間以外の動物は基本的に

「心」の部分のみで構成されており、そこに進化の過程で「頭」の部分がどんどん発達してきて、人間というものが誕生した、というわけです。

ん〜、なるほど。なおこのモデル、すなわち、人間の精神を「頭」と「心」に分けたモデル、においては「すべき」という義務は理性をつかさどる「頭」側が発し、一方で、「したい」という気持ちは、感情をつかさどる「心」側が発する、そういう関係性になっています。

人間はこの「頭」による理性の働きのおかげで、他人との高度な協力関係を構築したり、物事を計画的に、そして効率的に進めたりすることができるようになりました。

しかし、ここで問題が発生します。人間はあまりに社会的な生物であるがゆえに、「頭」が発する「すべき」という観念を、大自然由来の「心」が発した「したい」という感情であると思いついてしまうことがあるのです。

それは、人間があまりにも理性に重きを置きすぎてきた、理性に対する信頼度が高すぎた、と言い換えることができるでしょう。

そしてその結果、「頭」による一方的なコントロールが続き、「心」が発する声は無視し続けられ、そんな「頭」の長期的な独裁にたまりかねた「心」が、全面的なストライキを決行する。

もはや「頭」の強権的指令には一切応じない。この状態がまさに、「何も面白いと思えない、楽しいと思えない」という感覚として、当時の私に現れていたのです。

ちなみにこのことは、かの有名な文豪、夏目漱石も体験しており、このように当時の心境を述べています。

「私はこの世に生まれた以上何かしなければならん、といって何をして好いか少しも見当がつかない。私はちょうど霧の中に閉じこめられた孤独の人間のように立ち竦んでしまったのです。」

漱石は若い頃から、その内面に「自分が何をしたいのか分からない」という「空虚さ」を抱えていました。そして33歳で英国留学をした際、慣れぬ異国の地で、彼の「空虚さ」は解消するどころか日々増幅するばかりで、とうとう漱石は、ついに強度の神経衰弱、冒頭で述べた私のような状態になってしまったのです。

さて、ここまで、私の個人的経験から出発し、「『やるべき』という観念を、『やりたい』という感情と誤認識する、この問題について考えてきました。

ところで、聴衆の皆さん。

「いやー、自分には、関係のない話だ」

ひょっとして、そんなふうに思ったりしませんか？ いえいえ、これが、関係大ありなんですよ！

皆さん、次のように感じたこと、一度や二度は、あるんじゃないですか？

「何をしたいのか分からない」

「生きる意味が感じられない」

こういう悩みこそがまさに、先ほどまで私が説明してきた、「やるべき」という観念と、「やりたい」という感情を誤認識す

ることから生まれているのではないか？

そう！ 私はこの弁論で、その誤認識・思い込みのせいで「心」が発する「やりたい」という気持ちを見失ってしまった、そのあなたを救いたいのです！

でも一体、どうすれば、救われるのか？ その誤認識が問題の原因になっているのであれば、まずは、問題の根源が社会からの抑圧であったことを知ったうえで、自己との対話を通して、その誤認識に気づくところから始めないといけません

自己との対話を通して、「頭」が発する「やるべき」という強迫観念と、「心」が発する「やりたい」という気持ち、の違いに気づくことができたならば、以前のように「心」を抑圧することがなくなり先の悩みから解放されるだけでなく、人間的・精神的に成熟できるのではないか？

この経験が、人生における重要な覚醒の契機の一つになるのではないか？ そういう希望をわたしはこの場で皆さんに伝えたい！

実際、私はこの気づきによって、心から純粋にやりたいことに気づくことができましたし、冒頭で述べたモヤモヤした状態から抜け出すことができました。

そしてさらに、先ほど紹介した夏目漱石も、この経験を通して、あの「空虚さ」から脱出することができたといえます。

ちなみに漱石はこの成熟プロセスのことを「他人本位」から「自己本位」への覚醒、と表現しており、これは言い換えると「主体」を自分に取り戻した、ということでもあります。

さて、私はこの弁論で、「本当の自分」「本当の主体性」というものの存在を、皆

さんに示したいんです！

巷では、「自分探し」なんて時間の無駄である、「本当の自分」なんてどこにもありはしない、そんな乱暴な議論があちこちでなされています。

でも先ほど述べたように、人間の精神には「頭」だけでなく、「心」の部分も存在しています。

「心」を備えたわれわれ人間には、内面的な苦悩や問いがどうしても湧き起こってくるはずです。

生まれ育ってくる中でいやおう無しに曇らされてしまい、「頭」でっかちで神経症的にならざるを得ないわれわれの感覚や認識というものを、「心」を中心に回復させることができた時、人は「本当の自分」になったという内的感覚を抱くようになるのではないのでしょうか。

そしてこの感覚というのは、まるで生まれ直したかのような新鮮さと喜びに満ちたものなのではないのでしょうか。

ぜひ、対話を通した自己の見つめ直しを、自分の「第二の誕生」の機会として捉えてほしい！

ご清聴ありがとうございました。

第31回日吉杯争奪全国学生辯論大会 主催：慶応義塾大学弁論部

久保田夏由(文1)「あなたのそばに」

【導入】

私は羊を数えていました。数えても、数えても終わらない。「眠れない」。

共通テスト1週間前の夜の事です。いつもは横になったらすぐに寝られるんです。なんで今日は寝られないんだ？勉強しすぎて頭が冴えているのか、と初めは深刻に考えていませんでした。けれども、眠れない日が続き、共通テスト本番が近づくにつれて、段々と焦ってきました。このまま、寝られなかったら、それで失敗したら、どうしよう。

浪人していた私は、もう後がなく、精神的に追い詰められてきました。不眠を解決するため、家族や友人に相談し様々なことをしました。勉強を休んでみたり、ツボを押してみたり。でも、寝られない。そんな私は、藁をもすがる想いである場所を訪れました。

カウンセリングルームです。

効果は観面。「寝なくてはいけない」という強迫観念を和らげ、不眠を解消してくれました。ネットで不眠を検索しても「早く寝ようと意識することをやめる」という解決策が出てきます。でも、カウンセリングは訳が違ったのです。対話によって不眠以外の悩みも洗い出し、それらの共通点を見つけ、認知行動療法で的確に対処していく。専門家のすごさを感じました。

そんな体験をした私は、もったいないと思うのです。精神的な悩みがあっても専門家を活用しないこの現状が。精神的な悩み

がある人には心の専門家を活用して欲しい。

本弁論の目的は、精神的な悩みのつらさを軽減する手段として、心の専門家活用という選択肢を増やしてもらうことです。

【現状分析】

突然ですが、みなさん、腰が痛いなど思ったらどうしますか？例えば、湿布をはる。

それでも治らなかったら？整骨院に行くでしょう。それでも治らないほど、重症なら病院に行く。こんな対処の流れではないでしょうか。

では、もし精神的な悩みがある場合はどうですか？自分でメンタルヘルスの方法を調べる。もしくは、周囲の人に相談する。それでも解決できなかったら、精神科医に行く。まとめると、身体ならば自助、次に整骨院、そして最後に病院。心ならば、自助や周囲の人への相談、そして精神病院。

さて、心の問題では、一つ段階を飛ばしていることにお気づきでしょうか。病院に出向き、医療にアクセスをするひとつ前の段階、整骨院にあたるものがないのです。

心の場合、整骨院のような中間地点にあるものとしてカウンセリングが挙げられます。

しかし、カウンセリング自体よく分からない人が多いのではないのでしょうか。そもそもカウンセリングとはなんなのでしょうか？

カウンセリングとは、心の専門家であるカウンセラーが、傾聴と話し合いによって

精神的な悩みの解決を促すものです。カウンセリングにおける傾聴と話し合いには、「対話」、「アセスメント」、「心理療法」という三つの段階があります。そして、症状の重さによってどの段階まで使うかが決まります。

一つ目の段階である「対話」とは、その名の通り話すことですが、ただのお喋りではありません。カウンセリングを受ける人であるクライアントが自分自身で解決の方向性を見出すため、技術を持ったカウンセラーが話を引き出し、問題を整理していきます。

ここで、解決できなかったら、アセスメントという段階に入ります。ここでは、患者の特性を明らかにします。面接・心理検査・周囲の人への聞き取りにより、患者が自身の特性を知ること、問題の自己処理をしやすくなるのです。

それでも、クライアント自身で解決ができなかったら、心理療法に繋がります。心理療法とは、考え方の枠組みを変える治療です。対話やアセスメントで明らかになった悩み・クライアントの特性から見合う心理療法を選択します。といっても、イメージが湧かないと思うので、例として私が受けた、心理療法の一種の認知行動療法を挙げてみます。

この方法では、身体・情緒・行動・思考という四つの枠に分け、行動・思考という変えやすい部分からアプローチしていきます。1年前の私のように眠れない人には、「眠れなくても大して支障はない」と考えを変えたり、「早めにお風呂に入る」など行動を変えることによって、眠りにつきやすい身体や情緒にするのです。「対話」

「アセスメント」「心理療法」という三つの段階でクライアントに寄り添い、精神的な悩みのつらさを軽減するのがカウンセリングです。

ただ、ここまで聞いている皆さんの中には、カウンセリングで何をするのかは分かったけど、本当に効果があるのだろうかと不審に思っている人もいるでしょう。

一般的な精神疾患。例えば、うつ病や不安障害において、心理療法の一種である認知行動療法の効果は、科学的に証明されています。実際、イギリスでは政府がカウンセラー育成のために363億円を出資しました。イギリス政府がこの判断を下した根拠となる調査によると、一般的な精神疾患患者に認知行動療法を行うと、2人に1人が改善するという結果が得られました。

このことから分かるように、カウンセリングは心の不調を対処する手段として有効です。

皆さんの中には、ここでまた新たな疑問が浮かんできた人もいるかもしれません。

心の不調を解決するって、精神科医もやってるけど、精神科医とカウンセラーは何が違うんだ？ と。

まず大きな違いとして、主に精神科医は精神医学に基づき薬物療法を、カウンセラーは臨床心理学に基づき心理療法を行います。そもそも学問が違うので、専門分野及び得意分野が異なるのです。

薬物療法は、投薬することによって症状を和らげる治療です。一方で、心理療法とは、先ほど認知行動療法を例に挙げたように、対話によって考え方の枠組みを変える治療です。

また、方法だけでなく、クライアントに

対する接し方という根本的な部分が異なっています。精神科医は症状をみているのに対し、カウンセラーは個人をみているのです。どういうことかという点、精神科医は、症状をみて病名を診断します。そして、病名にあった薬を処方します。中心に、病気があるのです。一方で、カウンセラーはクライアントの生い立ちや特性をみて悩みの原因を洗い出します。そして、クライアントにあった治療法を考えます。いつも中心にクライアント本人がいます。

このように、性質が異なっている精神科医とカウンセラーは、担う役割も異なります。症状が軽度の場合、つまり心の不調にはカウンセリングを用いることが多いです。

しかし、近年、カウンセリングの重要性は高まっています。日本人の5人に1人が一生のうちに何らかの精神疾患にかかると言われているからです。

うつ病をはじめとした精神疾患は、重症化すると自殺に繋がる深刻な病です。しかし、初期段階は自覚症状が薄いのです。ちょっとした心の不調を放置していると、後々取り返しのつかないことになるかもしれません。

だからこそ、少しでも不安を感じたり、心の調子が悪そうだと感じたら、すぐにカウンセリングを受けることに越したことはないのです。精神的な悩みのつらさを軽減するためにも、重症化防止のためにもカウンセリングが必要なのです。

ここまで重要性をお話させていただいた、カウンセリングですが、現在利用率が低いという問題があります。

現在日本では、20代から60代におけるカウンセリング利用率はたったの6%です。

ではなぜ、利用率が低いのでしょうか。実際に明治大学文学部心理社会学科の教授であるカウンセラー数人にヒアリングを行ったところ、主要な原因が三つあると分かりました。

一つ目は、カウンセリングの内容や効果があまり知られていないということです。

先ほどお話ししたような、カウンセリングの効用や、カウンセラーと精神科医との違いが知られていないことで、心の不調を感じても、カウンセリングを受けるという選択肢が出てこないのです。

二つ目は、カウンセリングへアクセスがしにくいということです。

カウンセリングとはどこで受けられるのか、というと学校や企業、また、厚生労働省が運営している精神福祉保健センターで、受けることができます。しかし、そのような機関が充実しているわけではありません。

企業規模が小さくなると、メンタルヘルスに取り組んでいない企業が多くなるのです。厚生労働省の調査によると、従業員が30人未満の企業では取り組んでいない割合が60%を超えています。

このように企業でカウンセリングを受けられない場合、精神福祉保健センターを活用することができますが、これも数が限られています。精神福祉保健センターは、全国で69、都内で三つしかありません。そのため、カウンセリングを受けたくても、受診できる機関が身近にない人がいる事が実情です。

三つ目は、周囲の目が気になるということです。

カウンセラーには秘密厳守の規則がありますが、周囲に相談内容をばらされるのではないかという不安や、カウンセリングに通っていることを知られ「病んでいる人」と思われたくないという気持ちから、カウンセリングを利用しづらい人もいます。

これらの原因を解決すれば、カウンセリングの利用率を向上できるはずです。

私は、この原因を解決し、みなさんにカウンセリングをもっと活用して欲しいのです！カウンセリングが心の不調を改善する選択肢になって欲しい！

【解決策】

そこで、二つの解決策を提示します。

一つ目は、全国の学校や企業で実施する健康診断にカウンセリングを組み込むことです。

これは、早期発見によって心の不調の重症化を防ぐことが目的です。実際に受診することで、カウンセリングでは何をするのか、どんな効果があるのか、理解してもらうことができます。

そして、心の不調を感じた際に、解決の選択肢としてカウンセリングを思い出してもらうという効果もあります。

この政策では、最終的に健康診断を受ける人全員にカウンセリングを受けてもらうことを目標としています。

しかし、初めから全員にカウンセリングを提供すると、カウンセラーの供給が不足することが見込まれます。そのため、初めは選択制にして、希望者だけにカウンセリングを行います。カウンセラーの育成が進み、供給が十分に増えれば、年代ごとに段

階的に選択制から全員がカウンセリングを受ける仕組みに変えていきます。

心の健康を推進している厚生労働省に対策機関を設け、担い手となってもらうことで、大規模な実施を可能にします。

心の相談に行きたくても誰に相談すれば良いか分からない。自分の心理状態は診療してもらうべきか分からない。そういった層の人々に手を差し伸べることが重要だと考えます。

現在、政府も心の健康を重視しており、2015年には心理職として初めて、国家資格である公認心理士を設立しました。

また、2021年からは精神疾患や心の不調に悩む人を支える「心のサポーター」の養成を始め、2033年度末までに100万人の確保を目指しています。

現在の日本と同様に、カウンセラーの育成をし、カウンセリングの利用者を増やした国があります。それは、イギリスです。

先ほども述べましたが、イギリスはカウンセラーを育成し、カウンセリングを受けられる機会を増やしました。その結果、2008年から2012年にかけて、カウンセリングを受ける人数が、4万人から60万人と、約15倍増えているのです。

カウンセラーの需要を増やしている日本も、その需要を活用する、つまり身体だけでなく心の不調にも専門家を頼ろうと国民に意識させることができれば、カウンセリング利用率が上がるはずです。そして、精神的なつらさの軽減、心の不調の重症化防止を促すことができます。

二つ目の解決策は、オンライン上でカウンセリングができるアプリの導入を促すことです。

第4章 2023年度 弁論大会原稿集

一つ目の解決策によって、心が不調なときには専門家に頼ろうという意識になっても、やはり、カウンセリングにアクセスしにくい、人目が気になるという理由から、利用を思いとどまってしまう人もいます。そんな人を減らすためにアプリを活用します。

オンライン上でカウンセリングができれば、好きな場所から相談ができ、アクセスがしやすくなります。また、人目を気にせずに相談することができます。

すでに厚生労働省の支援によりオンラインカウンセリングアプリを運営している「あなたのいばしょ」という NPO 法人があります。

しかし、このアプリは虐待・自殺・精神疾患等の重度な心の不調な人を対象としています。これだと、軽度の心の不調の人は気軽に相談することができません。

そこで、些細な心の不調を抱く人を対象とした新たなアプリを厚生労働省に運営してもらいます。

また、一つ目の解決策である健康診断時に、このアプリの導入を促します。

これは、患者自身がカウンセリングに行こうとする際の障壁を取り除くことに繋がります。従来よりもカウンセリングが活用しやすくなり、心の不調解決の選択肢にしてもらいたいのです。

【終わりに】

ここまで聞いた皆さん、心の専門家を活用しないなんてもったいないと思いませんか？

日々の生活で悩みなんてつきものです。心が不調なときなんて幾度もあるでしょう。しかし、放っておいたら長引くかもし

れない。重症化することもある。早期に発見するにこしたことはないのです。

精神的な悩みを抱えたら、カウンセリングを活用して欲しい。カウンセリングに行くという選択肢が身近に、あなたのそばにある世の中になることを願って。

ご清聴ありがとうございました。

第13回全日本学生弁論大会 主催：全日本学生弁論大会実行委員会

稲葉友春(法1)「古都、再考」

みなさん！突然ですが質問です。日本の首都とはどこでしょうか？

(東京という声が大きいかと思われますが、)794年の平安京成立より、1868年の東京奠都(てんと)まで、日本の都は、山城国平安京であると定められていましたし、1868年の東京奠都は明確に日本の都を東京に移す、というわけではなかったとされています。したがって、現在名目上首都とされている東京ではなく京都を、「日本の都である」と言い張ることも可能です。

皆さんも中高生時代の修学旅行で京都へ行ったという方は多いと思いますし、海外から来る旅行者の訪問先の定番になるなど、京都は知名度も高く、日本の歴史、文化の発展と共にあった(古き良き)都市であります。また私も、関西に生まれ、幼少期を京都で過ごした身として、そんな京都を日本の都と仰ぐことには誇らしさを感じます。

しかし現在、そんな京都は危機に瀕しています！日本の歴史、文化の発展と共にあったその都市は、さまざまな問題によって今や風前の灯火なのであります。

本弁論の目的は、京都が抱える根本的な問題を考え、かつて都と呼ばれた華やかな都市の再興を目指すことであります！

『現状分析・問題性』

では、そんな京都が抱える問題とは一体何であるのでしょうか？

それは、京都市がすでに財政破綻寸前であるということです。

令和元年に京都府が示した資料によると、市債に対する将来負担比率が191.9%となっており、これは全国で最も高い数値になっています。また、京都市が示した資料によると、市債残高は1兆5767億円にまで達しています。これは京都市よりも市内総生産を上回る神戸市の市債残高を300億円上回っており、いずれにしても日本のいち地方都市として財政面で極めて危機的な状況にあると言えます。

京都は清水寺や金閣寺、八坂神社や京都御所など歴史ある文化財を有しており、毎年国内外から多くの観光客が訪れ、極めて知名度が高いです。また、「大阪の食い倒れ、京の着倒れ」という言葉に表されるように、伝統的に「西陣織」をはじめとした「絹織物」が盛んです。それらの多くが国の重要文化財に指定されており、その数は全国で二番目をほこります。

対外面では、京都市はフランスのパリ市やルネッサンスの中心地であったイタリアのフィレンツェ市などと友情盟約(ゆうじょうめいやく)や姉妹都市協定を結んでいますし、文化面においては海外にある三つの都市とパートナーシップ協定を結んでいます。ですから対外的にも日本の歴史の深さとその文化を代表する都市と見なされていると言えます。

そのような都市が財政破綻したともなれば、日本の国際的な評価に悪影響を及ぼすでしょう。

ここで、実際に財政破綻に至ってしまう

た事例を見ていきましょう。北海道の夕張市です。この町は炭鉱業に頼り切って発展しましたが、炭鉱業が下火になり失政を繰り返して財政破綻をしました。その結果、あらゆる公共事業と社会福祉の削減、住民税の高騰、人口の大幅な減少や、公共病院の閉鎖など、散々たる結果を招くこととなりました。

このように、財政破綻をきたせば公共事業、社会福祉の削減や人口の減少を免れることはできず、それが京都市ともなれば先ほど申し上げた通り対外評価、その他文化面、経済面でも、夕張市に比べて圧倒的に日本の損失となるでしょう。

『原因分析』

ではなぜ、財政問題が発生してしまったのでしょうか。

それは、公共事業の失敗によって発生した多額の債務と人的資源の流出であると考えられます。

京都市が発表している「本市の財政状況が非常に厳しい状況に至った要因」というそのまんまやないかいみたいな資料によりますと、都市整備事業と地下鉄の建設で多額の公債を発行したとあります。そしてその後、採算が取れなくなった地下鉄に対し、財政健全化をしないまま市債を発行して継続的に多額の財政支援をしました。それにより、元々大きな借金をしたのにもかかわらずさらに維持費で借金をしたことで地下鉄は未だに赤字を垂れ流したまま走ることとなり、京都市の財政に癒えることのない傷を産んでいるのです。

また人的資源の流出ですが、京都市内には大学が多く存在し、学生が多く居住しているにもかかわらずそれに見合った雇用先

がそれほど存在せず、卒業後に学生が東京や大阪の企業に就職し、京都を離れてしまうことから発生していると考えられます。実際、同志社大学のhpに記載されている本社 所在地区 別の就職状況 一覧を見ても、京都への就職が大阪への就職の4分の1ほどとなっています。また、京都市は令和4年に人口が12000人減少しており、これは全国の市町村で最も大きい減少幅となっています。いずれにせよこれらの事象により、国民にとって京都という街が働き、生活を営むには魅力に欠けていることが示されています。

つまり昔した大きな借金と継続した借金の返済をするアテがないから破産しそうだし、学生ばかりでしかも卒業後は街を出ていくもんだから税収が入らず懐が寒いということです。

『解決策』

ここまで散々絶望的な現状とその原因をご説明致しましたが、結局私が何を目指しているかということ、1300年以上日本の歴史と発展と共にあった都が財政破綻がしかけている絶望的な状況を打ち砕き、再び華やかな都を取り戻すことであります。では、それを目指す上での三つの政策を提示させていただきます！

まず一つ目に、産業の振興を目指して東九条地域、深草・竹田地域、西陣地域の三つの地域に産業別の経済・産業特区を設置することです。

東九条地域は京都駅から徒歩数分圏内であり、深草、竹田地域は、名神高速道路、国道一号線の出口に当たるなど、交通の便が極めて良いにも関わらず長らく開発されてきませんでした。これらの地域において

第4章 2023年度 弁論大会原稿集

主に特定の産業で新たに起業する事業者に対して固定資産税の減免措置をはじめとした特例措置を行います。先ほど申し上げました通り、京都には大学が多く存在していて、学生がたくさん住んでいます。ですから、この措置を一定期間講じることにより、近年盛んとなっている学生起業の支援となり、当該地域が日本のベンチャー企業を牽引するオフィス街となることでしょう。同様に西陣地域においては、革新的な試みを行う伝統産業の継承者に対して、助成金または固定資産税の減免などを行います。ここで産み出された革新的な製品は、国際的なファッションブランドなどのように世界に対して日本が誇るブランド品として売り込めることが期待できるでしょう。

これらの政策により、伝統産業、新産業の両面で京都が世界に冠たる地場産業を確立することが期待でき、また税収増加も見込まれるでしょう。

二つ目は、税収増加を目指して、著名な観光地となっている道路の周辺を観光地区と定め、該当地区にて観光業を行う事業者に対する料金制度改革を行うことです。京都市では宿泊施設に対して宿泊税という形で課税がなされていました。この結果、令和元年度には42億円の収入があったと京都市から発表されています。この宿泊税の税率を上げ、また飲食店等のサービス業において、外国語対応が必要となった場合「外国語対応料」を料金に上乗せすることを義務化します。京都市の観光資源の多くは寺社仏閣等の不動産ですから、観光地区の指定による増税をしたとしても、事業者の地区外への移転は考えにくいですし、外国語対応料による結果的な税収増加が期待

できます。この施策により、将来的にも京都市の主要産業であり続けるであろう観光業と、一般的に収入の高い外国人観光客からしっかりとお金を回収し、市民のための政策に活用できます。

最後に、これまで申し上げた経済特区と市内各所を結ぶ高架の路面電車の竣工を提案します。現在、京都市内の移動はほぼバスに便り切りの状態が続いています。

かつて、京都市には路面電車が存在し、これが京都市内の主要な観光地や住宅街を結んで走っていましたが、時代が進むとともに自動車への依存が進み、廃止されました。そして、かつて路面電車を使っていた市民たちは、バスに殺到しました。その結果、バスなどの大量の車両が、高速道路の存在しない京都市中心部に溢れ、渋滞問題や環境問題を引き起こしています。このような状態では、ヒトとモノ、双方の流動性が著しく下がりますし、環境面でも京都を住みづらい都市にしています。

そこで、京都市内の各所を結ぶ「主要なバス路線」を順次路面電車に置き換え、そのレールと駅は既存の主要な大通りの直上に敷設します。

環境に悪く、渋滞の原因となっているバスから、輸送量が多く、環境にやさしい路面電車への転換により京都の交通事情の大幅な改善が期待できます。

経済特区の設置、観光地の料金制度改革、道路を圧迫する公共交通機関の変革政策を行うことにより、京都は豊かな文化をもち、人とモノが力強く巡る都市に生まれ変わるでしょう。

『締め』

繰り返しになりますが、私が目指すのは、かつて日本の華やかな都であった都市、京都の「再興」です。

かつて、応仁の乱で京都は一度没落し、京都のみならず日本に対しても歴史的・文化的な影を落としました。そして、21世紀に入り、世界情勢が目まぐるしく変化し、日本の地方都市が衰退する中で、京都は今まさに戦の渦中なのであります！

ですから、ここで策を労せずしては、再び没落してしまい、これからの日本に対しても悪影響を及ぼすでしょう。

今日私が申し上げた京都の再考が、京都再興の一助にならんことを願い、本弁論を終了させていただきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました！

第27回紫紺杯争奪全国学生雄弁大会 主催：明治大学雄辯部

川嶋健吾(政経4)「吾、継承者たらん」

「紫紺杯で最終学年が弁論する意味とは？」

まず私はこの点をはっきりさせておきたい。現役の中で最も弁論部に在籍していた者は何を語れるのか？去り行く者がどんな言葉を残せるのか？その回答こそが、この紫紺杯なのだ。

そんな紫紺杯で当の私は何を語れるのか。それを考えるため、自分の大学生活とはなんだったのかを振り返った。「弁論部の4年間」を聴衆がイメージしやすいように、少し自分語りすることを許してほしい。

元々、真面目な話をして切磋琢磨できる友や追うべき背中を求めて、岩手県の非進学校からはるばる東京は明治大学へやってきた。そして実際の大学生活で最も自分に影響を与えたのは、偉大な先輩方との出会いと、後輩たちと一緒に様々な問題に取り組んだことだった。

ものすごい読書量を誇る先輩、夢をかなえるために異常なバイタリティを発揮する先輩、物事の本質を見破るのが上手い先輩、組織内での立ち回りが上手い先輩…そんな先輩方と同じレベルにまで至れなくても、その全員から少しずつ良さを取り入れていって、今に至る。

自分は大した人間ではないが、それでも自分を必要としてくれる後輩は確かにいて、その後輩が何かに取り組む時できる限り自分も協力を惜しまないようにした。

先輩の背中を追いかけ、そして自らも背

中を見せられる先輩になろうと思うことができたから、この弁論部で成長することができた。

私は最初公認・非公認含めたサークル、さらに外部の社会人団体まで広げて自分が成長できる環境を探していたが、結局は雄辯部に行きついた。

弁論部以外の組織は、誰かが啓蒙して外面的な知識や技術の習得することに重きをおいているものがほとんどで、より根幹に至る個人の価値観、理念を公平な議論空間のもと検証しようとし、誰に言われるでもなく自主的に各々が自分の選んだ道を極めようとしているのは弁論部員だけだった。

そんな弁論部だからこそ毎年起こる問題がある。それは、部のために懸命に仕事をしていた人間ほど、後々挫折して虚無感に囚われることだ。最悪の場合、耐えきれなくなって部を立ち去ってしまう。

弁論部では、本気で自分の役割に取り組む人間が多いからこそ、様々な対立が起きるし、疲れる。これは弁論部の良さの裏返しであって、このように困難が訪れることは避けられない。

このような事態になる原因は先ほど述べた弁論部の文化の他に、精神の拠り所がなく自分という存在が不安定になることが大きい。

何か精神的支柱や頼り無しで、何かに取り組み続けられる人間などほぼいない。弁論部内での役割を全力で果たすという心意気それ自体は立派なものだが、なんの問題

なしにやり遂げることなどほぼ不可能なこととは聴衆のみなさんも知っていることだと思う。部内や界限内の多くの人間が自らの理念のもと全力を尽くしているからこそ、お互いの衝突は避けられない。

弁論部はカルト宗教でもなければ、人気取りの信者ビジネスを行っているわけでもない。弁論部員たちは簡単に誰かを盲信などしないし、自分を保つプライドを持ち合わせている。

しかしだからこそ、常にその精神には負荷がかかり続ける。

ただの有志の集まりに過ぎないのに、内部で様々な問題は起きるし、人間政治は多いし、役職に就いて仕事していても何かもらえないわけではない。

実際自分も何十回雄辯部を辞めたくなったかわからない。でも、それなりに問題に対処してきたから今この場所に立っている。

自分が弁論部に4年間いて、この不安定な状態に対して有効な心構えを一つだけ見つけることができた。でもこれは、絶対にみんなが適用できるというものではないし、もしかしたらもっと良い方法があるのかもしれない。入賞なんてこの際どうでもいいから、私が見つけたこのたった一つを、これから多くの困難にぶつかるだろう後輩たちに伝えておくことに意味はあると思うんだ。

苦しみばかりのこの弁論部で、私がしてきたのは、自分が弁論部の確固たる系譜の中の存在であり、先輩でもあり後輩でもあることを常に意識していくことだ。

精神の拠り所にするには、まずその拠り所ができるだけ安定している必要がある。

弁論部、もしくはこの弁論界限というものが100年以上も受け継がれてきた歴史をもっていることは、十分信用に値すると思う。組織もそうだし、その文化まで維持しながらこんなにも続いていることには驚嘆せざるを得ないし、どこでも見られるものではない。

そして、自らの立ち位置や行為を、後輩としても先輩としても意味付けることによって正当化する。後輩としては先輩方が受け継いでいってくださった弁論部を存続させるため、先輩としては自分が先輩から受けた恩恵を後輩に受け渡すために弁論部に貢献しようとする。このように片方だけでなく両面性を確保し、自分が先輩と後輩に挟まれた中間の存在として自分を定義することによって少なくとも孤独感を払拭することには繋がるし、先輩もしくは後輩としての意味を疑う瞬間があったとしても自分を引き上げることができる。

先輩後輩の系譜を持ち出すのは、先輩と後輩がいてどんどん移り変わるというシステムと、弁論部・弁論界限・弁論大会これらの存在はお互いに補い合う存在だからだ。長年続く部や大会があるから先輩たちがどんどん卒業しても後輩たちは弁論部に何か期待して入部してくるし、先輩後輩がどんどん移り変わるからこそ、部や大会は停滞を生みにくい。

弁論部やその活動に確かに得られるものがあるということは、今までの先輩が努力して弁論部を意味あるものにしてきたことの負債を後輩は負っている。

後輩は先輩から受け取った負債の恩義を、さらに自分の後輩へ返す必要がある。そうやって弁論部とその文化は継承されて

きた。

これは一つの弁論部で完結するものではなく、界限全体でやってきたことだ。

新しい弁論部や、自分が部内の先輩から大して恩恵を受けていないと思うなら、他の部会の先輩を参考にして、その恩恵を自分の部会に持ち帰れば良い。

後輩たちが大学弁論部を辞めたくなる理由の一つとして、「ここにいても何も得られない」と感じてしまうことがある。自分が大学生弁論部の門を叩いた頃のことをどうか思い出して欲しい。他のお遊びだけのサークルではなく、わざわざ大学生弁論部に入ったからには、少なからず最初は何かを得ようとしていたはずだ。大学生弁論界限という文明を存続させるためには、後輩たちが失望しないようにする必要がある。

気づいているだろうか？ この紫紺杯のあともうすぐ新入生を迎え、この会場にいる現役部員全員が誰かの先輩になるだろうということ。

先輩という立場になったからには、もう恩恵を受けるだけの側ではいられない。弁論部や弁論界限という場所から受けた恩恵を少しずつ自分の後輩に還元していくことになる。

私は、まさにこの後の全ての弁論部員が恵まれた環境を享受するため、今、この場所で、もうすぐ先輩になるあなたの方に向かって弁論をしているのだ！だから私は今ここにいるんだ！

このような理念は、なんとなくの理想として既に一般的なものかもしれない。しかしだからといってそれに言及することが無意味だとは感じない。

私たちは常に理想を抱えているけれど

も、それが中々上手くいかないから理想を抱き続ける。この弁論における理念は、実現するのが非常に困難な理想にくじけずに向かっていくために精神的支柱、そしてアイデンティティの一つを与えようとする試みだ。少なからずビジョンを抱えた私たちに必要なのは、完全に新たなビジョンだけではなく、達成のための道筋の一つ、つまり「解決策」であってもいいはずだ。私たちにできるのは、弁論部員としての活動の中でいろいろな嫌なこと、すなわち実存的不安のなかで、文化・価値観・文明を継承していくことだ。このまま弁論部にいることが無意味に感じられる瞬間があったとしても、自分が長い弁論部員の系譜という確固たる地盤の上に立っていて、自分の努力に必ず意味があると信じることができる。なんの頼りもなしに頑張り続けられる人間なんてほとんど存在しない。自分の根拠になってくれる確固たる地盤がこの弁論界限という文明にはあるんだ。

自らが信じる理念のもと努力するとき、多くの困難にぶつかることになる。実際にこの弁論を書くのも本当に面倒だったし疲れるし、これのせいで失うことになったこともとても多い。本当に投げ出したい。でも自分にはやらなければならない理由がある。私がやらなければ先輩が自分にしてくれた数々の恩義はどうなる？自分がメンターをしてきた後輩たちが見ているのに自分だけ逃げるのか？そんなわけにはいかないだろう。先輩と後輩の存在が、いつも逃げ出したい心が弱い自分を引き留めてくれる。

ここには大きな困難を既に経験した人も、まだ経験したことがなくて、これから

困難にぶつかることになる人もいるだろう。

そんな時、自分が進んでいる道は1人じゃない、先にも後ろにも確かに人はいて、あなたの努力に確かに意味があることを思い出してほしい。

自分の頭の悪さに打ちひしがれそうな時。弁論大会で負けてしまった時。役職者として仕事で失敗してしまった時。自らの努力が徒労に終わってしまった時。自分が何者なのか分からなくなった時。後輩に無様な姿を晒してしまった時。そして、自らが継承者として先輩に報い、後輩に貢献しようとする時！ この言葉を思い出そう！

「吾、継承者たらん」！

第27回紫紺杯争奪全国学生雄弁大会 主催：明治大学雄辯部

藤川太暉(法4)「〇〇の本質について」

1.序文

期待する。この文化いいですね。同じ場所で、同じ言葉を、同じタイミングで叫ぶ。これほど気持ちの……。

すみません。やってみたかったのです。この序文で始まる弁論が行われた大会の実行委員長は二回とも私だったからです。お時間いただき、本当にありがとうございます。

閑話休題。さて、近年の本大会では言論とは、弁論とはいかにあるべきか、ということ語る弁論が数多く行われてきました。私も「二度の」開会挨拶で同様のことを述べてきたように思います。しかし、真に社会に対して有為にあるべき弁論という活動を想うのであれば、本来的にこの演壇で語られるべき事柄というのは「弁論の在り方」という内向きの主題のみに絞られるべきではないと思うのです。

故に今回は、私がライフワークとしているところの、我が国を取り巻く安全保障問題を端緒として、社会問題一般の解決に係る重要な視点を再提示したいと思います。

小時間のお付き合いをいただきたいと思います。

2.現状

昨今、我が国の安全保障環境は不安定化の一途を辿っている、というのは最早聞き飽きた台詞でしょう。内容被りの弁士もいましたね？もはや具体例など敢えて挙げるまでもありません。そのような中で、目下国民の安全保障・国防への関心は高まって

いるとされています。しかし、それが我が国の安全保障環境の改善、政策の進展にどれだけ寄与できているかというと、私は甚だ疑問を禁じ得ないのです。

自衛隊の志願者数低迷は言うに及ばず。2021年にまとめられた世界価値観調査では「有事の際に国のために戦う」と答えたのは13.2%しかありませんでした。次点のバルト三国の南端リトアニアの32.8%を大きく引き離して調査対象79国中最低を記録しています。また、2022年度の内閣府調査では、我が国が「外国から侵略された場合」に自衛隊に志願すると回答したのは4.7%で、近年推移していた6%台或いはその前後を大きく割り込んでいます。

他方で、「自衛隊に志願しないものの、何らかの方法で自衛隊を支援する」との回答は51.1%あるため、これを以て国防意識が高まっていると説明する声があります。果たして本当でしょうか。自衛隊を支援するとは言いますが、その「何らかの方法」は具体的にイメージされているのでしょうか。「何らかの方法」による支援が安全なところから行い得る、と無条件に考えてはいないでしょうか。四方を海に囲まれ、専守防衛の理念により、初めから本土決戦せざるを得ない都合上、所謂「疎開」先すら存在しないのに。

そもそも、安全保障・国防への国民ひとりひとりの参与は、民主国家に住まう主権者として当然の責務であるはずですが、その理解もほとんどされていません。つまり

は、日本国民の多くにとり、安全保障・国防は他人事のまま、当事者意識を抱かれることのない問題のままなのであり、「本当に」我が国に有事が訪れた際の備えはなされていないのです。

3.原因分析①

さて、このような状況に陥ってしまった要因は何なのでしょう。私見を述べるなら、その一つは「我が国が置かれている現状の客観的認識が国民の間で不足していること」ではないでしょうか。

会場にいる聴衆の皆さんも含めて、自分自身の存立と自国の存立が、実は深く関連していることを認識している者はどれだけのしょう。あなた方が無意識に内面化している文化やアイデンティティのどれだけが日々の我が国における、郷土・皆さんのふるさとにおける暮らしの中で形成されてきたのか、考えたことはあるでしょうか。「日本」という国がなくなったとき、あなた自身を説明する言葉が依拠できるものは一体どれだけ残るといえるのでしょうか。

そして、これは会場にいる皆には当てはまらないだろうが)、こうした問いを投げかけられたとき、「じゃあ、考えてみますね」と答える人間が日本国民にどれだけのしょうか。況や今回取り上げた安全保障・国防を論じるときに限らず、我々が平素弁論として取り上げるような「難儀な問題」について提起したとき、それを考えようと思うような「やる気」や「余裕」を持ち合わせている人々はどれだけのしょうか。

では、何故「難儀な問題」を考える「や

る気」や「余裕」に欠けてしまうのか。もちろん、「仕事が忙しく時間が捻出できない」であるとか、「考えるインセンティブを感じない」であるとか、複数の要因が考えられますが、重要な観点として、「人々が現実社会を捉えるに不適切な思考方法に頼っているから」ということが考えられます。

4.原因分析②

現実社会は複数の要因に複数の結果が対応する「複雑系」の社会です。しかし、我々が一般に平素訓練するのは何かたった一つの原因に対して、これもまた一つの結果が対応する「単一系」の思考方法なのです。

中高大学の受験勉強で必死に繰り返した一問一答や過去問演習。書店の平積み of 書籍によく見かける、「これが彼の事件の本当の・真の思惑だった」という話。昨今巷を騒がせ、いよいよ社会に実害を与えんとしている陰謀論や似非科学。これらに共通するのは「ある一つの結果は、ある一つの原因によって説明できる」とする「単一系の思考」です。

中高で散々やらされた調べ学習。皆さんも覚えていますね？これも何某かの結果として現れた事象を深く調査し、原因を特定させようという試みです。この場合、複数の要因を見つけるところ、つまりは「複雑系の思考」の入り口には手をかけることはできます。しかし、大抵は班発表の際の都合などにより、結局「真の原因は～だからそれを直せば万事解決！」というように

「単一系」のシナリオに落ち着いて、或いは落ち着かされてしまうのです。「複雑系

の思考」に辿り着くことは、終ぞできません。

少なくとも、今回私が冒頭から論じていた安全保障・国防の問題や弁論の題材となる社会問題は複数の要因が、複雑に絡み合っていて、どれか一つの要因を解決するだけでは根本的な解決にならない「複雑系」の事象であることは間違いありません。しかし、我々がそれを捉えるために持っている武器・思考方法は「単一系」のものなのです。これで、果たして問題を正確に捉えることが、まっとうに考えることができると言えるのでしょうか。これは絶対に否です。故にこの「単一系の思考」からの脱却することが不可欠なのです。

5. 解決策の方向性

では、その「単一系の思考」からの脱却の方法、「複雑系の思考」の獲得の方法について考えていきましょう。私はこれに二つの方向性があるように思います。一つは「複雑系の思考方法」を知り、訓練をすること。もう一つは、この訓練することに充てる時間的・精神的余裕・関心を生み出すこと、です。そして、これらは「同時に」促されないといけないものだと思っています。

一つの側面として、「単一系の思考」は考慮すべき要素を一つ残して、残りを捨象できる分、楽であるという特徴があります。であるから、我々は忙しい日常生活を営んでいく上で「複雑系」の社会を「単一系の思考」で認知することで省力化を図っています。そうでないと忙しすぎますからね。しかし、認知が「単一系」であったところで社会が「複雑系」であることは変

わっていません。そこで現実と認知の不協和・摩擦が生じてきます。この不協和・摩擦によって人は「何故かわからないけど、人生が思い描く通りに上手くいっていない」と言って悩むのです。だって捨象した要因があるのですから。見落としている要因があるのですから。そして、その悩みによって人は時間的・精神的余裕を段々と擦り減らしていき、自分以外のナニモノかに関心を抱く機会を失っていくのです。斯くして人はその余裕のなさから、さらに「単一系の思考」による省力化に頼り、不協和と摩擦を拡大させていくのです。この循環の行く先は、己が認知に現実を合わせようとする「思考の破局」です。DS陰謀論、反ワク、ネトウヨ。こうした、現実世界に散らばった複数の事象の点を極太のマッキーで塗り潰して、あたかも単一の貫徹した筋を通ったかのように説明・理解しようとする行為には枚挙に暇がありません。これは「理解した」わけではなく、「理解した気になっている」だけでしかないのです。

故に、「複雑系の思考」獲得には時間的・精神的余裕が必要なのですが、その余裕を作るためには「複雑系の思考」が必要、という堂々巡りのようになっていきます。だから、どちらが先でも後でもなく、どちらも少しずつ進めていかなければならないのです。

6. 解決策

そこで、これらの漸進的解決のために必要な取り組みを考えてみようと思います。

まずは、訓練として自分事を正確に認識していきましょう。最初から社会問題、他者の問題を「複雑系の思考」で捉えようと

というのは難しいことです。であるから、自分の性格や特性、目標など、できることとできないことを可能な限り正確に切り分けることから始めるべきです。これを通して、現実と認知の差異、つまりは悩みの種を少しずつ排除していき、時間的・精神的余裕を生み出していくと共に、自己の存立に他者の介在が多分にあること、誰かのおかげで自分があるということを認識させ、社会への関心を惹起させます。可能であれば、この取り組みは学校の進路相談や会社のキャリア面談などに制度として組み込まれてくれたらいいなあ、と思っています。

次に、先の取り組みを通じて惹起された社会問題への関心を基に、自分なりに何ができるのか一人ひとりに考えてもらいます。社会総体としての変革は、西洋医学的な病原への直接的アプローチでは不完全です。何故なら、複雑系の社会における問題について一つの要因のみにアプローチしたとて根本的解決にはなっていないからです。人々の草の根的な、小規模な運動や些細な心がけから社会を漸進的に変革できる、社会は少しずつ良くなっていくことができるということを、実際の行動から学んでもらうほかないのです。

そして、今回取り上げた安全保障・国防問題の解決は、この「複雑系の思考」の基礎が出来上がったところからがスタートなのです。やること自体は問題提起として現状クローズドになってしまっている自衛隊の現実を発信していくことです。目新しくもないですね。他の治安職にない「身を顧みず」の宣誓をしている自衛官の待遇が果たして現状で適切であると言えるのか、隊の組織文化は有事に際して機能する健全な

ものと言えるのか、有事に際して皆さんの、非軍属の協力への対価は適切であると言えるのか、など多くの問題を我が国の国防は抱えています。市ヶ谷の担当者がいくら頭を悩ませても、世論が付いて来なければ変えようがないものばかりです。その解決の後押しの必要性を、自己の客観視、社会問題への関心から徐々に人々から引き出さなければならないのです。

7.理念

我々が弁論をするのは社会を変革するためです。しかし、それは直接的アプローチのみを意図するものではないはずです。足尾銅山鉍毒事件の時も、自由民権運動の時も、戦時中も、私たちは直接的に社会を変革してきた訳ではないのです。弁論をし、人々の意識を、関心を呼ぶことによって、考えさせ、その結果、つまり民意の結集を以て社会を変革してきたのです。故に、我々はその在り方を、社会との関係を常に客観視しなければなりません。独り善がりやに政策を訴えても、あたかも自らの策によって全てを解決することが出来るかのようには欺瞞を弄しても、主張に見向きされないのを、議論が上手くできないのを他者の理解力のせいにしても、姿勢のせいにしてもいけないのです。一要因に対する解決策が完全な解答であるわけがないからです。

明日、この世の天地がひっくりかえったように全てが変わるというようなことはない。彼の産業革命も、フランス革命も、WW2以降の体制変革も、一夜にして全てが変わった訳ではありません。途方も無い紆余曲折があります。ですから、社会は漸進的にしか変わっていかないのです。しか

第4章 2023年度 弁論大会原稿集

もその変化の主役は我々ではなく市井を普通に生きている人々なのです。だからこそ、我々は人々の意識に、認識・認知にアプローチをかけ続けなければなりません。そして、これに応えてもらうためにはその意識、認識のベース、「複雑系の思考」を日頃から涵養してもらわなければ、我々の声は届かないのです。

弁論をするからには天下国家を語るべし、とはよく言いますが、これは諸問題の直接の解決策を弁論しろ、ということでは決してない。有効な政策があるなら、それをやるために人々にどう後押しをしてもらわなければならない、何をして欲しいのかを訴えなければならないということです。

視野狭窄する勿れ、弁論の競技性にのみ当てられる勿れ、物の本質を、弁論の本質を見失う勿れ、我ら何がために在らん。

以上、お粗末様でございました。

第五章

研究活動記録

※補足

今年度の研究活動記録は、山本蒼太郎(農 2)主導で行われた第 1 回雄弁部学生研究発表大会にて発表される研究論文 5 本を掲載するものである。かつて行われていた研究活動は行われず、また、昨年度試みられた note 記事も定期更新が滞ってしまった本年度であるが、学生研究発表大会という形で研究活動が行われた。

本年度の第 1 回雄弁部学生研究発表大会が来年度以降も開催され、雄辯部の今後の研究活動が発展することを期待する。

森鷗外とその国家観・社会主義を機軸に

法学部1年 瀬川大地

1.はじめに

森田太郎(森鷗外・森鷗外)は、非常に多彩な人物として知られている。たとえば、彼は屈指の翻訳家であり、作家、軍医もとい衛生学者を兼ねており、それらの全ての分野において超一流だった。また適度なパトリオットであり、ときにはプログレシヤニスト(穏健的な進歩主義)でもあった。彼が晩年に最も危惧していたことのひとつに、皇室の問題がある。社会主義が台頭し、ドイツ帝国やロシア帝国といったヨーロッパ各地で次々と王政ないしは帝政が打倒されていくなかで、いかにゆるがせにせずに皇統を守りぬくかが鷗外の課題だった。

一方で、鷗外はドイツ留学当初から労働者の集会に参加して当時の労働環境の現状を目の当たりにしていたり、幸徳事件の時の弁護士だった平出修に社会主義についての講義を受けたりするなど社会主義的なないしは進歩的な思想も持ち合わせていたといえる。実際に親友の賀古鶴所との書簡を読んでも、ドイツの労働組合の話だったりイギリスの炭鉱労働者の話だったりがよく取り上げられている。

このように、鷗外は非常に二面性を有しており、その思想の矛盾を解き、いかに鷗外の思想の真髄へとたどりつくかが今回の最大たる目標である。

私がなぜ彼の思想に興味を抱いたかという点、前述の幸徳事件の際に、わが大学明治法律学校の出身で、与謝野鉄幹との交流があった詩人の平出修ともかかわり合いがあった森鷗外に親近感が湧いたからである。最悪の場合には、不敬罪に問われる可能性があったのにもかかわらず、間違っていることを糺し、幸徳秋水の弁護に尽力した弁護士としての平出にシンパシーを抱いている。それ同等ないしはそれ以上に感銘したのは、山県有朋などとともに陸軍中枢にいたのにもかかわらず、立場を超えて幸徳事件に興味を持ち共感していた森鷗外である。

2.考察

鷗外の家国観は大きく三つの時期に分けられると私は考える。

- ①青年期 日本のよさとヨーロッパのよさとで葛藤し啓蒙的に伝えようと尽力する時期
- ②幸徳事件後 思想弾圧と言論の自由との間における軋轢を感じ、国家にとって思想の自由が重要だと訴える作品を多く書いた時期
- ③ロシア革命後 社会主義らによる帝政打倒やロシアのボリシェヴィキらによるソヴィエトの創設といったことに代表される現状に憂いながら、皇室の安定化に対する現実的な方法の構想に奮励した時期

この三つにしたがって、考察を行っていきたいと思う。

(1)留学期

留学期ないしは留学後の鷗外は、いわゆる戦闘的な啓蒙活動として知られる時期であった。留学期に起きたドイツの地質学者であるナウマンとの日本文化をめぐる論争は、ミュンヘンの新聞『アルゲマイネ・ツァイトUNG』においてたいへん多岐にわたり繰り広げられたものであった。

主な論点として1.日本の近代化は外圧によるか否か、2.日本人の起源についてが挙げられる。このときの鷗外は、まだ日本らしさとはどのようなものであるかを理解できておらず、論点はぶれて弱い主張になっていた。加えて、極端で単純な日本の欧化政策を否定できていかなかった。ビゴーが鹿鳴館に来て文化的背景や土壌を知らずに猿真似をしていた日本人を風刺したように、このときのナウマンは極端な欧化は浅薄であると言っているのである。ナウマンは、当時の日本に対して、日本固有の価値とは何かを強く考えさせるようにした。九州大学の福元助教授の論文によると、「西洋文化と伝統的な日本文化という二つの文化の対決は、帰朝後の鷗外の態度に明確に表れる。鷗外はつまり、この対決を一身に体现し、その結果分裂的にならざるを得なかった」のだと書いている。

このことはのちの鷗外にとって、非常に重要な出来事になっているといえる。なぜなら、ナウマン論争は鷗外が次々に繰り広げた論争の嚆矢となったからだ。例えば、没理想論争や漢方医学論争、統計訳字論争が挙げられるが、これらは数多くあるうちの少しにすぎない。

この今井武夫との間で起こった統計訳字論争について、統計学者の竹内啓氏は以下のように述べている。「統計的法則は因果法則を「意味するとは限らない」ということは正しいし、多くの科学者、統計学者は同意するであろうが、それを「常に無関係である」とするのはいいすぎであり、誤りである」と述べており、鷗外が“統計は必ずしも因果を示さない“ということを早くも見抜いていたことを賞賛している。

この時点における鷗外の国家観は、福元氏によると、「生成しつつある明治国家と自分との一体感があったからに他ならない」と言われている。これは、明治日本を背負っていくのは鷗外自身であり、洋行した以上は衛生学のみならず文化や思想といったその国のバックグラウンドまで知って、近代日本という誕生して間もない国家をなんとかして守り発展させようという気概を強く感じざるを得ないことであるといえよう。

(2)幸徳事件

幸徳事件は言わずと知れた大逆事件の一つで、ニッポニカの解説に準ずると「1910年5月25日の長野県における宮下検挙を手始めに、6月1日には神奈川県湯河原で幸徳を逮捕。政府はこの長野県明科爆裂弾事件を手掛りに一挙に社会主義運動の撲滅をねらって、幸徳が各地を旅行した際の革命放談などをもとに、（中略）異例の早さで24日には幸徳、大石、森近、宮下ら11名を、翌25日に管野の死刑を執行した」事件で、山形有朋を中心とする社会主義への嫌悪を抱く体制派による冤罪事件だったのではない

かとする学説が根強くある。

ここにおいて、特筆すべき事柄がある。

①山県有朋や穂積八束といった極めて保守派として知られるメンバーで構成された永錫会に鷗外は親友の賀古鶴所の勧めにより参加しているけれども、具体的にどのような内容の話をしていたのかがほとんど鷗外の日記に残っていないこと。

②与謝野鉄幹の紹介によって、鷗外は弁護士の平出修から社会主義に関する講義を受けていること。

これら二つは大いに矛盾を有する。なぜ鷗外が永錫会の詳細を自身の日記に残さなかったのかは、諸説あるけれども、鷗外が抱いた無力感に由来するところが大きいのではないか。鷗外は、思想弾圧に反対であったことが推測できる。本来ならば幸徳のサイドに付きたいけれども、自身の立場や陸軍関係者との付き合いが足枷となって、なかなか思うようには動けない。そこへの無力感が強くあったのだろう。

また、特に明治期末の鷗外は常磐会という歌会を賀古鶴所とともに主催し、そこには政軍界のトップであり元老である山県有朋が毎月来っていて、鷗外と陸軍との結びつきはきわめて強かった時期だということができる。それなのにもかかわらず、鷗外はなぜ平出修の講義を聴いたのであろうか。

これに対する答えの一つは、作品の中にあると私は考える。

①『沈黙の塔』

これは幸徳事件が発生してから書かれた作品である。

そして、芸術や文学を否定しうる国家によって、学問は死に絶えていく。より具体的には学問は因襲を打ち破ってこそ価値があり、新たなことを行おうとする者は、反動勢力が時代という口実をもとに迫害してくるのである、とするものである。

原文：「学問も因襲を破って進んで行く。一国の一時代の風尚に肘を掣せられていては、学問は死ぬる」「新しい道を歩いて行く人の背後には、必ず反動者の群がいて隙を窺っている。そしてある機会に起って迫害を加える。ただ口実だけが国により時代によって変る」

という趣旨のことが書いている。ここから読み取れることとしては、多くの研究者が挙げているように、過度な社会主義者への弾圧の暗喩的な批判と、学問や思想の自由の重要性を強く訴えている作品であるということができよう。ここでいう「反動者の群」とは、当時の政府もとい山県有朋を中心にする陸軍または内務省の官僚のことを指すと解される。

②『食堂』

これも幸徳事件ののちに書かれた作品であり、犬塚・木村・山田の三者おのおのが社会主義や無政府主義に対する意見を役所の食堂で話し合うというあらすじである。発禁に関する是非や言論封圧に対する適否をめぐる、三人の登場人物を出すことによって、公平性を保ち積極的に荒波を立てまいとする鷗外の心中が推される。体制派

による言論封圧に否定的な木村は鷗外の分身であるとする説は浜田稚代氏の論文をはじめ、鷗外研究において主流な学説だといえよう。

このように鷗外は、当時山県有朋を中心に行われた社会主義に対する極端な言論弾圧を目の当たりにし、このままでは学問の研究が思うようにできない日本の現状を強く憂いでいる。それを防ぐためには、弾圧されている思想を知ることを通じて、少しでも社会主義に対する誤解を解こうとしたのではないか。

なぜ鷗外が幸徳事件に挑んだのか、それは前述のように山県有朋らの長州閥の政治への密かながらの不賛同を示すものであったとも思う。それをもとに、鷗外は前述の二作品の他に『ファスチェス』や『空』といった作品を書き続ける。これは自分の社会主義や無政府主義に対する知識を学術的に披露したいわけでは決してなく、繰り返しになるが、幸徳事件や赤旗事件に代表される政府による行き過ぎた思想・言論統制に警鐘を鳴らしているのである。

この時の鷗外の国家観は、思想・言論の自由を保障するべきであって、さもなくば国家は衰退するということが大意であろう。

(3) ロシア革命

鷗外が宮内庁図書頭に就任した大正六年(一九一七年)は、ロシア帝国で二月革命および十月革命(三月革命および十一月革命)が発生し、レーニンを首班とするボリシェヴィキ勢力によってロマノフ朝が打倒され、世界初の社会主義政権が樹立しそうな時分であった。その前には清朝が滅ぼされ、翌年には鷗外にとって馴染み深いドイツ帝国やオーストリア＝ハンガリー帝国(ハプスブルク帝国)も解体され滅亡している。したがって、鷗外にとっても、皇統を安定にさせなければ日本が滅ぶといって過言でない逼迫した状況であった。

それに対する鷗外なりの策として、大正八年十二月二十四日の賀古鶴所宛ての書簡に、「国体に順応シタル集産主義」という思索を述べていて、「国家が生産を調整し、人々の暮らしを豊かにし、皇室をゆるがせにしない」政策であると解される。これは一般に国家社会主義だと言われるけれども、「同盟罷工や示威行動ニテ成功」させようとする点が鷗外の抱く「集産主義」とは異なるのだと述べている。これは鷗外が長年疑問に思っていた労働者の環境問題や社会主義との関連性、皇室とのあり方などを全て集約できる思想だと考えられる。これ以降も鷗外は社会主義の研究を事細かに続け、サンディカリズムと無政府主義との違いについても、賀古鶴所に対して書簡で送っている。畢竟、晩年まで鷗外自身と同じ歩調を歩んでいた近代国家日本を憂いでいて、その懸念は完全に拭い切れてはいないといえる。

3. まとめ

最初に述べた鷗外の思想の矛盾については、私は二面性があると思ってしまったけれども、結局のところ国を思う気持ちから生じたということに変わりはない。決してなく、それが違う形(ときには社会主義な観点から、あるいは日本の”伝統”たる皇室を尊重するという立

第5章 2023年度 研究活動原稿集

場から)のそれぞれから見ているだけに過ぎないのである。青年期にドイツへ留学し、西洋の事情を誰よりも把握し、研究・報告し続けた鷗外だからこそ、西洋と日本との違いに苦悩しながらも、独自の視点からの提案をできたのではないか。留学時代には安易なナショナリズムによって一面的にしか見られなかったけれども、幸徳事件やロシア革命によって、何を近代国家日本はすべきかを理解したのだと思う。その集大成が、「国体に順応シタル集産主義」であり、鷗外の思想の終着点に近いのである。

4.参考文献

『鷗外全集 36 巻』(岩波書店,1975)

山崎正和『鷗外 闘う家長』

小堀桂一郎『森鷗外 日本はまだ普請中だ』

加藤周一『日本文学史序説』

福元圭太「国家と個人のはざまで 「鷗外・ナウマン論争」を てがかりに」

篠原義彦「森鷗外論考 「古い手帳から」への道程」

西村好子「森鷗外「我百首」論 津和野派国学と乙女峠事件を巡って」

浜田稚代「森鷗外と大逆事件 『あそび』『食堂』『田楽豆腐』研究」

フレシネ・プランがフランス製鋼業に与えた影響について

政治経済学部1年 瑤樹陸

はじめに

かつて産業の米と呼ばれ、現在においても、船、鉄道のレール、ビルの建材などで頻繁に用いられ、その用途は数えられないほど多岐にわたる鉄鋼、その生産を担う鉄鋼業は、鉄鋼が現在の形で用いられ始めた19世紀末に産業として飛躍的な発展を遂げ、現在と同じように基幹産業と呼ばれるに至った。その19世紀末にて、普仏戦争により国内最大規模の工業地帯であり鉱山を多数有するアルザス＝ロレーヌ地方を失陥したフランスは、さらに大恐慌と呼ばれる世界的な構造不況に襲われることとなった。この状況を打開するために鉄道の検査や水運関連設備の拐取など公共交通に対する財政投資政策であるフレシネ・プランが実施された。ここでは、このフレシネ・プランがフランスの製鋼業に対しどのような影響を与えたのか分析する。

フレシネ・プランとは

フレシネ・プランとは、1879年当時の公共事業大臣であり、後に首相となったフレシネにより創案され、1882年に放棄されるまで実施された輸送網整備事業に対する財政投資政策である。その初期段階においては1879年から向う10年間に於いて60億フランを輸送網の整備に支出することを計画しており、またその内訳は鉄道建設に対して35億フラン、中小鉄道の買戻しに10億、河川・運河・港湾の改修に対して15億といったものであった。

フレシネ・プラン計画前の製鋼業と経済状況について

1873年以降、資本主義諸国は大不況と呼ばれる循環性の世界恐慌に襲われていたが、ことフランスにおいては普仏戦争により、景気循環における盛況が中断しており恐慌の諸条件を満たしていなかった。また、戦後復興の旺盛な需要が継続したことにより、不況の発言は遅れることとなった。しか70年代の後半には他国と比較して遅れながらも不況を経験することとなったのである。

フランスの製鉄業は60年代から主要産業として成長を続け、世界恐慌が始まった1873年以降以降も鋼の生産に重心を移し生産を拡大し続けていたが、鋼の登場により消費が激減した鉄の余剰が10万トンに達するとともに、過剰生産により鋼の相場も急落し、減産を記録することとなった。

また、不況からの脱出を目的とし国外の販路を求めようにもそれ以上に価格が下落したドイツ、ベルギー、イギリスの製品に対して価格面で太刀打ちができず、フランスは輸出市場を喪失した。さらには、安価な外国製品が国内市場にも侵入をはじめ、産業はパニックに見舞われた。また、その影響は商工業全般にも波及し、不況の程度は悪化の一途をたどることとなった。

フレシネ・プランが行われている中でのフランス製鋼業

フレシネ・プランは、その予算の大部分を鉄道の建設に向けていることからわかるように、レールの需要が増大するつまり原材料である鉄や鋼の使用が増加することが期待された。しかし、実際に発注が始まった1880年末には国内の景気回復が本格化し、またアメリカ国内での鉄道敷設が再開したため、フレシネ・プラン実施の影響は、前述のとおりすでに需要が回復しており、盛況の程度を増すにとどまった。しかし、新設企業の新たに生産を始める工場に対して国家による受注が市場を保証するといった効果をもたらした。

フレシネ・プランの清算

盛況下でのフレシネ・プランによる注文の増加は前述の通り盛況の程度を増すといった効果をもたらすと同時に、恐慌の物質的な諸条件を揃えるのを加速させてしまった。

また、フレシネ・プラン実施に必要な財源を確保するため3度にわたって、国債を発行した。このうち、1881年に行われた2回目の国債発行において折からの景気回復に伴う陶器ブームと重なり、投機ブームにさらに拍車をかけることとなった。そして、こちらも恐慌の発生に必要な諸条件を準備する結果となってしまった。そして、翌1882年1月の取引所恐慌に始まる景気循環の交代により、不況に突入した。

また、フレシネ・プランの規模が当初の計算を著しく超過し、歳入増が停止したにも関わらず歳出の増大が止まらなかったために、1881年度以降赤字に転じた。そのため国債の発行と償却が不可能になることが予想され、財政支出の無制限な増加を防ぎ、財政均衡の崩壊を正すためにプランの担い手を国から民間企業へ変更することが宣言され、1883年に鉄道敷設は国内の6大鉄道会社に移管することとなった。

しかし、景気悪化にもかかわらず、フレシネ・プランにより製鉄業は好調を維持していたが、1884年から注文が削減され始めたことにより、製鉄業も不況に突入した。さらには、好況時に建設された新工場の操業開始による生産過剰により1887年まで悪化の一途をたどっていくこととなる。

フレシネ・プラン清算後の製鋼業

しかし、景気悪化にもかかわらず、フレシネ・プランにより製鉄業は好調を維持していたが、1884年から注文が削減され始めたことにより、製鉄業も不況に突入した。さらには、好況時に建設された新工場の操業開始による生産過剰により1887年まで悪化の一途をたどっていくこととなった。

フレシネ・プラン清算後、生産者は軽度の関税率が設定されているのみであり、市場のフランス商品の比重がフランス産業の低い国際競争力と比例する状態にあったフランス植民地に目を向け、関税自治の原則に基づき関税を独自に設定していた植民地の関税を本国と同一のものに変更するよう求め、植民地を国内産業にとっての特権市場とし、囲い込みを行った。さらには、輸出部門の製造業者に外国産原料の無税輸入を認める輸出保護制度である銑鉄の仮輸入制度に対しての改革を要求し、保護関税がフランス全土において等しくその効果が発揮されるよう改革が実施された。

第5章 2023年度 研究活動原稿集

また、一部の企業はより付加価値の高い特殊鋼の生産や軍需産業へその生産の主軸を移すこととなった。

まとめ

フレシネ・プランは景気循環の局面の変化により、当初期待されていた効果を発揮できなかった。また、計画段階ではプランの実施により国際競争力をつけることが期待されたが、プランが失敗したことにより、フランス鉄鋼業の国際競争力は低い状態で維持されることとなり、次第に生産者は本国外の市場を植民地に求めるようになり植民地市場の囲い込みや保護関税が十全に機能するように保護主義的な改革を要求するようになった。そのため、フレシネ・プランは、フランスの製鋼業に対してその保護主義的な傾向を強めるといった影響をもたらしたと考えられる。

参考文献

- 大森弘喜.19世紀末大不況下の製鉄業（下）. 経済系、1988,第155集、p.p109－p133
- 権上康男. フレシネ・プラン(1878-82年)-上-19世紀末フランスにおける大不況と財政投資政策.エコノミア、1982.第73号. p.p1－p27
- 権上康男. フレシネ・プラン(1878-82年)-下-19世紀末フランスにおける大不況と財政投資政策.エコノミア、1982.第75号.p.p1－p25
- 鈴木浩史.19世紀末のフランス 「大恐慌下の経済成長」. 調査月報 / [財務省大臣官房総合政策課] [編]、2002.91.p.p1－p

哲学ってなんなのか少しでも解像度を上げたいという話

国際日本学部2年 田中達博

●序文

なぜ私が本テーマを選んだのか

私は現大学2年生で、来年から推しの教授（美濃部仁様）の哲学ゼミに配属されることとなっている。ゼミでは西田幾多郎という哲学者の根本概念となる「純粹経験」をその晩年の著作で論じられる「逆対応」の観点から見ていき、最終的には、西田も言及している仏教思想の「悟り」の正体を少しでもつかめればと思っている。だがそう専門的な勉強をする前に、一度哲学の全体像をつかんでおこうと思った。

また、雄辯部でも、哲学対話や昨年高見先輩が行った「幸せとは何か」企画など、など「哲学」を扱った企画があり、その分野に惹かれている人も少なくないと信じている。新歓期に入る前に、雄辯部のコンテンツの一つ「哲学」がどんなものなのかの解像度を挙げておこうと思った。

ただし断っておくべきこととして、このレポートは途中経過報告である。理由として、私の甘えがあったのは事実だが、そもそも「哲学ってなんだ」という問いは2600年以上あるその歴史の中でも答えは出ておらず、それを「哲学」と呼ばれる分野の勉強も大してできておらず例えばカントの『純粹理性批判』すら読んでいない若輩者が、それをクリアに答えられるわけがないからである。そのため、他の論文様より格が低いことが一目でわかるよう、レポートのタイトルは、「哲学って何なのか少しでも解像度を上げたいという話」というラノベのタイトルのような長くてダサいものにした。

それでも発表会に出ようと思ったのは、自分に甘い性格上発表会に出すとならない限り必死にできない気がしたからである。また、途中経過でだした前例を残し、来年度の研究発表会のハードルを少しでも低く、多くの人間が参加しやすいものにしようと思ったからでもある。

●「哲学とは何か」という問い

「〇〇とは何か」という問い

「哲学とは何か」を考える前に、その問いが問うている内容やそれがどのような問いなのかを確認し、本レポートの目標設定を行う。

まず、「〇〇とは何か」という問いの形式に関して、これが問うているものは、当然その定義だ。定義とは他のものとはっきり区別させる説明のことだ。似たようなもので「特徴」という言葉があるが、それは、あるもの〇〇のもっている一つの（他と違うことを示すための）性質であり、「〇〇”は”・・・という特徴を持っている」という文法

で語られる。定義は、それそのものを100%規定する説明（かつこよく言うところ「必要十分条件」らしい）でなければならないが、特徴はそのものの構成要素の一部や一つの性質（「十分条件」）をあげればよいという違いがある。

一応例を挙げると、以前哲学対話で議題になったことのある「かわいい」に関して、「かわいい”は”小さいものに向けられる感情だ」という風に特徴を言えるが、「かわいい”とは”小さいものにむけられる感情だ」といってしまうと、「小さいものに向けられる感情」は他にも「愛おしい」や「哀れ」などの感情が当てはまってしまい、定義とは言えず「「かわいい」とは」でつなげるとおかしくなってしまう。

本レポートは、タイトルに「哲学ってどんなものなのか・・・」とあるように、最終的には哲学の定義づけを目標とするが、先述のように途中経過であり、「哲学は△△だ」という風な特徴や性質をあげることにする。

「哲学とは何か」という問い―他の学問に比べてよく問われるのはなぜか。

「哲学とは何か」という問いは、他の学問でやられるよりも多く問われる。その理由について、佐藤優と佐藤瑠威という二人の学者が既に見解を示しているので紹介する。なお、二人の名字が同じだが、親族関係は不明である。

まず、佐藤優(2022)は二つの理由を挙げている。一つは、「哲学」は他の学問と違い、なにを「学」ぶのか字面から判断しづらいからだ。他の学問、例えば生物学は、名前を聞いただけで「生きているもの」について学ぶことが一瞬でわかる。それにたいして哲学は、それを西周が英語から訳した際に使った「哲」が、「哲らか（あきらか）」「哲い（さとい）」という形容詞から来るように、「哲」自体は、「かしこい」ことや「あきらかにすること」くらいしか意味をせず、実際の研究対象を示しているわけではない。二つ目の理由は、多くの学問は、前の学説の否定や修正でできていおり、その理論は歴史の中で「積み上げ」られるものである。それを見ればその学問がこれまで何をしてきたのか一目でわかる。一方哲学理論はそうした「積み立て型」教科ではなく、それぞれ、影響を与え合いはしても、理論としてのつながりはなく（それぞれの世界観をもって）独立しており、みんなが手に取る「教科書」というものが作りづらいからだ。

以上二つの理由に加え、佐藤瑠威(2014)は、以下のような理由を指摘している。すなわち、かつての哲学はすべての学問を意味していたが、今ではそのほとんどを科学に取って代われ、哲学固有の問題や哲学の意味そのものが見えづらくなってきたからだ。

以上の三つの理由（①「哲学」という名前からは何を研究対象とするかわからないから。②哲学のそれぞれの理論は独立しており、「哲学の教科書」のようなものが作りづらいから。③多くを科学分野にとってかわられ哲学固有の問題が見えづらくなってきたから。）より、「哲学とは何か」が他の学問よりも、問われる必要があり、よく議題となっている。

●哲学とは何か：どうも哲学には「広義の哲学」と「狭義の哲学」があるらしい。

広義の哲学

「哲学とは何か」をインターネットで調べると例えば、（「そもそも〇〇とはなにか」のように）「人生や世界、宇宙の本質を論理的な思考や原理によって解明しようとする学問」だとか、問題をとことん考え、そしてきちんと答えぬくこと」だとかそういった説明が見つかります。

実際、いろんなところで教わるように、哲学 *philosophy* の語源は、「知を愛する」を意味する。また、哲学は古代ギリシア時代から始まったが、その時代のプラトンは、何かに出会った時の「驚き」から始まる知的探求全般を哲学と呼びました。

狭義の哲学—科学ではなく、哲学が扱う問い

しかしながら、現在の我々の感覚としては、「本質を論理的な思考や原理によって解明しようとする」ことや「驚き」から始まって知的好奇心や関心に従い研究を進めるとするのは、他の学問にも当てはまると感じてしまう。実際、哲学は昔こそ「知を愛する」知的探求全般を指していたが、中性のキリスト教文化圏においては、この学問哲学と神学に分化し、さらに前章の佐藤瑠威の指摘にもあったように、次第にその問題の多くは科学分野に取って代わられる、正確には、古代ギリシアの（広義の）哲学は、科学と（狭義の）哲学にわかれていった。

では、科学が残していった、科学ではなく哲学が扱う問いとはどのようなものなのか、言い換えると科学と哲学はどのように違うのか。ここでは、大滝朝春と中島義道の説明を参考にする。

まず、大滝(1996)は、哲学の多くが科学に「取って代わられた」ことに対して、「この一連の流れの中で、哲学は次第に哲学として洗練されていったのであり、それと共に新たな課題が主題的に登場してくることになるのである。」と、哲学と科学の分離を肯定したうえで、科学と哲学の違いを以下のように説明している。

まず科学とは、言いかえれば実証科学である。つまり、実験や観察と言った実証的研究によって得られたデータに基づいて、世界の諸領域や諸契機を説明するのが、科学である。従って科学は、実証的学問であり、事実として世界がどうなっているかを説明する事実学である。これに対して、哲学は、とりあえず本質学と呼ぶことができる。ただしこの場合の本質には、絶対に他ではありえないという意味での、アプリオリとしての本質のみではなく、もう少し広い意味でのものも含まれるようである。そこで、実証諸学としての科学との対比において、哲学の重要な特徴が明らかになる。哲学は自分の立っている地面を掘りおこすのである。哲学は科学と異なり、何かを調べに歩いて行く必要がないのである。

大滝はこれに続けて、哲学は、「すでにみなうすうす感じている」が言葉にして「認識」はできていないような内容を、その哲学者の「経験」から見つけ出し、「経験」に

基づいた視点（「世界観」）から言語化することだと説明した。

大滝は、哲学の方法に関して主に述べているが、哲学が研究するテーマと、科学が担うこととなったテーマに関しては、中島（2001）が、以下のように述べている。

眼前にあける光景—私はたまたまウィーンにいます—but机、ベッド、窓、カーテン、中庭、そして隣の屋根、そしてそのかなたから差し込む太陽・・・・・・という個々の構成物としての＜もの＞に分解してしまえば、それらが「何であるのか」はことごとく化学が答えてくれ、もはや哲学の出番はないといっていいいでしょう。しかし、それは眼の前の＜もの＞の集積とみなしたからであり、それ「以前」の、直接ここからある特定の風景が「見え」、それが少しずつ変化していくことに着目しますと、我々はすでに＜もの＞の世界から離れ、＜こころ＞の世界に足を踏み入れております。なぜなら、これで我々は「見えるということそのこと」をテーマとしており、しかも反省してみればすぐにわかるように、単に「見える」だけでなく、「聞こえる」世界、いや私の体の漠然とした「感じ」も含めて「感じられる」世界に面しているからです。いや、そればかりか、こうした光景には私の「考えていること」「意志していること」などが浸透しております。そこに他の人間が登場しておれば、それもまた＜こころ＞をもったものとして見えてきます。

中島は同書で、哲学の中心テーマとして、時間、因果関係、意志、「私」、「他人」、存在をあげているが、それらのテーマは＜もの＞ではなく、＜こころ＞に関するものだとしている。ここでいう＜こころ＞というのは、「聞く」「感じる」「見る」「意志する」「考える」をする主体であり、同書で「脳みそのどこを探しても見つからない主体」と述べていた。

最後にこれは、私が先日雄辯部の同期山本君と話していて気付いた内容であり、根拠はまだ見つけきれてはいないが、哲学と科学の違いの一つに「要素に分解するかしらないか」ということがあると思う。科学は対象を要素に分解し、要素から全体を説明する。例えば、科学は「ヒト」を考える際、生物学はヒトをヒト→臓器→細胞と分解したり、その中の酵素の働きに注目してその酵素の構成要素である分子それをさらに原子それをさらに物理学で素粒子に分解したりと、最小単位を求め対象をどんどん要素に分解していく。これは、人の行動”心理”を扱う社会科学も同様で、例えば「萌え」を、「触角のようにねた髪」「猫耳」「鈴」「しっぽ」「メイド服」「幼女」等々の構成要素に分けて考える。一方、哲学が問う「私」というのはそれ要素に分けることができない。もちろん、「明治大学生」「塾講師」「男」「ポケモンユナイトが好き」などに分けられそうだし、確かにそれがなければ「私」（田中達博）はなりたない。しかし、哲学の問う「私」というのは、田中達博という個体ではなく、（中島の言葉を借りると）「感じる」「見る」「意志する」主体（＝＜こころ＞）の意味での「私」である。そしてその「見る」主体としての「私」は「明治大学生」云々の要素がなくても、生まれたときから成立しており、それ以上に分けることができない。

第5章 2023年度 研究活動原稿集

哲学は、そうした要素に分けられないという性質を持った〈ところ〉を対象とする学問だということを暫定会とする。

今後は、より多くの文献に触れ、また実際に自分で哲学というものを知ってから改めて語る機会があれば語りたい。また、心理学と哲学の違い等雑な部分があったため、その部分を明確にしていきたい。

●参考文献

大滝朝春((1996).「哲学とは何か」中部大学国際関係学部紀要 17 :81-117

佐藤優(2022).『哲学入門 淡野安太郎『哲学思想史』をテキストとして』.角川書店

佐藤瑠威(2014)「哲学とは何か・生きる意味問題をめぐって-(1)『別府大学紀要』 55 189-198

中島義道(2001).『哲学の教科書』.講談社学術文庫

映画『プラダを着た悪魔』からみる女性のファッション

文学部2年 山下玲奈

1.初めに

「イヴ・サンローラン展 時を超えるスタイル」をご存知だろうか。行ったという人も少なくないだろう。国立新美術館で2023年9月20日から12月11日まで開幕していた、イヴ・サンローラン美術館パリの協力のもと開催された大回顧展である。

私もこの展覧会に赴き、華麗なオートクチュールやイヴ・サンローランに関する資料を楽しんだ。しかし、この展覧会はただ見て楽しむだけではなく、イヴ・サンローランがファッションの歴史に刻んだ業績を垣間見ることができる。彼は男性服を女性服に持ち込んだのだ。現在あたりまえの光景である女性のパンツスタイルの仕掛け人は彼だと言っても過言でない。

男性の装いを取り入れることは何を意味するのだろうか？この影響は決してファッションという枠組みのなかに留まらない。イヴ・サンローランがもたらしたパンツスタイルは女性の社会進出を促したのだ。彼のデザインには明示的に「働く女性」が組み込まれていた。男性に象徴されるパンツスタイルを手にするということは、当時男性が独占した「仕事」の領域へと侵犯することでもあった。パンツスタイルは、男性の要素を取り入れるとわかりやすいジェンダー規範への挑戦だ。では、既に女性の領域に位置付けられていたファッションに変革を促す動きはなかったのだろうか。そんなことはない。スカートやワンピースの変化もまたジェンダー規範の更新へ寄与してきた。本論考では、「働く女性」の姿をスカートといった女性的な装いの分析を通して明らかにする。ここで大きく依拠する資料は2006年の映画『プラダを着た悪魔』である。この作品が分析対象に値する理由は大きく次の三つだ。一つは、21世紀初頭という前述したイヴ・サンローランを含む女性運動の成果が顕在化した時代である点。次に、ジェンダー規範と服装とが結びつき最も先駆けて変化が訪れるファッション業界を描いている点。最後に、主人公の装いの変化とキャリアの変化とを結びつけ物語を展開している点である。以下でまず『プラダを着た悪魔』の紹介と分析対象となる事例の整理を行い、その後ジェンダー論、文化史を中心に依拠しながら分析する。

2.映画『プラダを着た悪魔』

まず、映画『プラダを着た悪魔』についての情報とストーリーを整理する。

映画『プラダを着た悪魔』は、2003年にローレン・ワイズバーガーによって書かれた同名の小説を原作とした、2006年に公開された映画である。

名門大学を卒業したアンドレア・サックス（アン・ハサウェイ）（以下アンディ）は、ジャーナリストを目指して一流のファッション誌『ランウェイ』の編集長、ミランダ・プリーストリー（メリル・ストリープ）のアシスタントに就職する。ファッションに興

味のなかったアンドレアは、冷酷で厳しいミランダの過酷な要求に挑戦するうちに、私生活を引き換えにキャリアを築き、服装もハイブランドを中心としたファッショナブルなものになっていく。

監督はデヴィッド・フランケル。衣装はドラマ『セックス・アンド・ザ・シティ』で担当したパトリシア・フィールドが手がけた。映画内に登場するシャネルやプラダ、エルメスといったハイブランドで彩られたファッションはこの映画の特徴であると言える。

この映画は、興行収入1億2000万ドルを超え、製作国のアメリカのみならず多くの国でヒットし、日本でも人気を博した。

3. 『プラダを着た悪魔』におけるファッション

この章では、映画内のファッションについて分析し、考察していく。具体的に、3.1ではアンディの、3.2ではミランダのファッションを扱う。

3.1 アンドレア・サックス、変身する

まず、アンディが、ミランダに認められるために、『ランウェイ』のアートディレクターであるナイジェルにコーディネートされ、垢抜けた服装へと変身する場面の、アンディの服装について扱う。



写真: <https://www.vogue.co.jp/celebrity/article/facts-about-anne-hathaway-the-devil-wears-prada-trivia> より引用

シャネルのジャケットとブーツが観客を魅了する。丈の短いスカートが印象的である。そのため、スカート、つまりミニスカートに着目し、この服装が映画内で持つ効果について分析していく。

まず、ナイジェルにコーディネートされる前のアンディの服装には、ミニスカートが

一切用いられていなかった。ミニスカートは、変身前のアンディとその後のアンディを明確に分けるものであることがわかる。

そもそも、ミニスカートはどのように生まれ、いかにして女性服として膾炙されたのか。

1947年、クリスチャン・ディオールによって発表された「ニュー・ルック」は、大きな影響を女性服に与えた。ニュー・ルックの特徴の一つとして、スカートの丈がふくらはぎほどまでであった。その結果として、スカート丈は、膝丈からふくらはぎ丈の比較的長いものが主流とされた。その後、1950年代後半になると、バレンシアガのサックドレスや、イヴ・サンローランのトラペーズコレクションが発表され、スカートの丈は徐々に上がり始める。

ミニスカートを語る上で欠かせないのが、マリー・クワントだろう。彼女は、ロンドンにブティックをおいて、1960年代前半、ミニスカートを次々に世に送り出した。彼女が与えた影響は、ミニスカートという名称が、彼女の乗っていたミニ・クーパーからきた彼女による造語であると考えられることから、もどれだけ絶対的な存在であったか理解できる。

マリー・クワントを中心としたミニスカートにおいて、重要なポイントは、ミニスカートは、「女性の脚を露出させることなく、解放させること」（キンバリー、2023）である。ミニスカートは、従来のニュー・ルックなどでは必要不可欠であったコルセットなど、動作や行動を妨げるようなものを用いる必要がなかったということはもちろん、スカートの丈が短いために、より早く走ることを可能にした。現在、ミニスカートという脚を出すようなスタイルは、時折性的な眼差しが当てられる。世論を無視したマーケティングによるミディスカートの押し出しへのフェミニズム層の運動に参加した人が、ミニスカートを積極的に着用していたことは、現在のミニスカートへの眼差しからは考えづらい。

このように、ミニスカートの隆興には、マリー・クワントの影響や、女性を解放するというポイントにあった。

話を『プラダを着た悪魔』に戻す。変身前のファッションにこだわりがなく、垢抜けない服ばかり着ていた頃のアンディは、ミランダの厳しい要求に応えられず、叱られてばかりであった。一方、変身後のアンディは、仕事への熱量や努力、そして能力を認められ、ミランダから重大な仕事を任され始める。変身という重要な場面でのコーディネーターにてミニスカートが使われたのは、ただ外見的な印象を華美にするだけでなく、女性の、行動の制限からの解放を意図したのではないだろうか。つまり、アンディがキャリアにコミットし、キャリアの弊害となるもの、例えばプライベートという制限からの解放を暗示的に示していると考えられる。

3.2 「プラダを着た悪魔」、ミランダ・プリーストリー

『プラダを着た悪魔』のファッションに言及する上で欠かせないのが、『ランウェイ』編集長、ミランダ・プリーストリーの服装だ。ミランダは、映画内にて、『ランウェイ』の全てを司る存在として描かれる。彼女のファッション、『ランウェイ』への尽力や価値観は、数多のファッション業界に携わる人々からの尊敬を集める。そんな彼女の威厳は、何によって生み出されるのか。その要因の一つに、彼女の、『ランウェイ』から全世界のファッションに影響を与えるほどの、卓越したファッションセンスによる彼女のファッションであることは明らかだ。この章では、ミランダのファッションについて考察していく。



写真： https://reverseshot.org/reviews/entry/1577/devil_wears_prada より引用

上の写真にうつる白髪的女性、ミランダが身に纏うのは、プラダのブラックドレス。そう、「プラダを着た悪魔」とは、ミランダのことを指す。悪魔の所以については、是非映画を見てもらいたい。

では、ブラックドレスがファッションとして受け入れられるまでに、どのような歴史的推移があったのかを確認する。元来、黒の服というのは、喪服などに用いられ、「マットな黒は放棄、隠棲、社会的孤立を示すものだった」（キンバリー、2023）。黒は18世紀後半には男性服としては用いられるようになっていたが、女性服としてはあまり用いられなかった。そして、1926年、ココ・シャネルがリトルブラックドレスを発表する。それは至ってシンプルな黒いドレスであった。従来のものよりスカート丈が短くなり、より動きやすいものであった。そして、着やすい上に、フォーマルでありながらカジュアルでもある、つまりどのような場面でも着ることができた。リトルブラックドレスは現在、多くの女性に親しまれている。



写真：ブラックドレスを着るココ・シャネル、

<https://www.vogue.co.jp/fashion/trends/2018-10-31/black-dress/cnihub> より引用

つまり、シャネルによるリトルブラックドレスは、女性に「自分らしくいられる」、
「制服のような実用性と匿名性」という二つの解放をもたらした（キンバリー、
2023）。

ミランダは、他の場面でも黒いドレスを着ているが、黒いドレス、ブラックドレスの
誕生は、ファッションの面から与えられた女性の解放の象徴であるのだ。ミランダの
『ランウェイ』での活躍や、仕事に邁進する姿は、” she is endeavoring to question
the conventional feminine ideals that prescribe women to exhibit traits of
gentleness, passivity, and humility.” (Fatima Salah Jamal, 2024)、つまり、ミランダ
は、女性に優しさや受動性、謙虚さを求める従来の女性像に疑問を投げかけようとして
いると捉えられる。そのような彼女のあり方とブラックドレスの成立と影響は、重なる
部分があると言えるだろう。

また、ミランダは劇中でもほとんどスカートを着用しているが、Fatima(2024)はその
点について、小説『プラダを着た悪魔』を引き合いに出しつつ、以下のように述べてい
る。

“Skirts, in particular, play a significant role in Miranda’s wardrobe, serving as a
tool to exert femininity and power simultaneously. Miranda’s preference for skirts
challenges the notion that women should only wear masculine clothes to be
successful. One could argue that her decision to prominently feature skirts in her
outfits is an act of reclaiming the narrative around feminine power.”

つまり、「特にスカートは、ミランダのワードローブの中で重要な役割を果たし、女性らしさとパワーを同時に発揮する道具として機能している。ミランダがスカートを好むのは、女性は成功するために男性的な服しか着てはいけないという概念に挑戦するためだ。スカートを衣装の中で目立たせるという彼女の決断は、女性的パワーをめぐる物語を取り戻す行為であるとも言える。」と述べている。

これは、3.1 で述べたアンディの服装にも同様のことを当てはめることができる。ミランダ、そして変身後のアンディは多くの場面でスカートを着用している。この二人のスカートには、女性が女性であるままに社会的な場所で成功する、つまり、男性の要素を取り入れることなく、男性が独占した「仕事」の領域へと侵犯するという、冒頭で述べたパンツスタイルとはまた違うジェンダー規範への挑戦を垣間見ることができるのだ。

4.結論

映画『プラダを着た悪魔』での登場人物のファッションをジェンダー論や文化史から分析した結果、現在の女性服には、過去の不自由な服装から解放された歴史を見てとることができた。そして、その女性服による解放は、女性の社会進出に合わせて、あるいは先駆けて起きたこと。そして、スカートという女性服もまた、形を変えながら、従来の制限から解放する役割を担ってきた。

『プラダを着た悪魔』では、スカートを着用しながら、男性の要素を取り入れることなく、男性が独占した「仕事」の領域へと侵犯する働く女性の在り方を見ることが出来る。そして、観客である私たちにとって、仕事とファッションの関わり、また、ファッションと女性の社会進出の関わりについて深く考えるきっかけとなるのだ。

参考資料

□「イヴ・サンローラン展 時を超えるスタイル」、<https://ysl2023.jp/> (2024年3月6日参照)

□井土聡子「サンローランの革命、男性のスーツを女性に」、日本経済新聞、2022年12月6日 <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUD181JR0Y2A111C2000000/> (2024年3月6日参照)

□キンバリー・クリスマン＝キャンベル、風早さとみ訳『スカートと女性の歴史 ファッションと女らしさの20世紀の物語』、原書房、2023年

□「[映画インタビュー] 「プラダを着た悪魔」出演のアン・ハサウェイ」読売新聞、2006年11月10日

□Fatima Salah Jamal, “Fashion and Physical Beauty as Means of Empowerment: A Feminist Study of Lauren Weisberger’s The Devil Wears Prada and Julie Murphy’s If the Shoe Fits”, Assist. Prof. Dr. Awfa Hussein Al-Doory, 2024

□Julia A. Spiker, “Gender and Power in the Devil Wears Prada”, International Journal of Business, Humanities and Technology, Vol. 2 No. 3; M

バーチャル Youtuber における『キャラクター』の性質とその優位性

農学部2年 山本蒼太郎

初めに

問い

近年動画投稿サイト『Youtube』においてとあるジャンルが脚光を浴びつつある。コロナ禍における巣籠もり市場にて急速に若者を中心に人気を膨張させたそれは、かつて手塚治虫が志向したフルアニメーションを使用した動画をいとも簡単に生み出し、小粋なトークや立ち居振る舞い、魅力的な容姿で我々を虜にする。人はそれを『Vtuber』と呼ぶ。そんな Vtuber の一番の特徴はなんと言ってもその容姿（以後キャラクターと呼称する。）である。『キャラクター』はまるで漫画やアニメの世界から飛び出したかのような容姿をしているが、その特徴が Vtuber の発展と大きく関わっているといえるのでは？という仮説を提示する。本稿はその仮説を元に Vtuber の構造上の特徴の一つである『キャラクター』と性質の解析をし、Vtuber の市場での発展の要因と、彼ら彼女らが持つ性質を詳らかにするものである。

概要

本論文は社会学的観点から、バーチャル Youtuber が持つ『キャラクター』として側面の市場及び社会における性質を分析し、市場における発展の要因を探る。そして、『優位性を持ったインターフェイスとしてのキャラクター』という価値観の提示を目指すものである。

本稿は三つのセクションにより構成されている。第一セクションではバーチャル Youtuber の定義を『キズナアイ』のインタビューを参考にして行った後、Vtuber の構造をめぐる先行研究の中での本稿の立ち位置を示すとともに、バーチャル Youtuber の『キャラクター』としての要素が、日本のアニメーションキャラクターの延長線上にあることと、その性質がもたらす機能について論じる。続く第二セクションでは、東浩紀がボードリヤールの『シミュラクル』をもとに提唱した『データベース消費』という概念を元にキャラクターの持つ性質の要因について探り、勃興のファクターとなった要素を明らかにする。第三セクションでは前の二つのセクションを踏まえバーチャル Youtuber という存在を説明する表現の提示と今後の研究の展望について述べる。

バーチャル Youtuber の構造解析

バーチャル Youtuber とは何か

『バーチャル Youtuber（以後 Vtuber と呼称する。）』という言葉は2016年に登場した最初の Vtuber と目されている『キズナアイ』の自らの呼称によって初めて世に広まった。そんな彼女は『バーチャル Youtuber』とは何かについても自らの見解を青山

社が発行する雑誌ユリイカにおけるインタビューを通じて回答している。

（前略）わたしが「バーチャル YouTuber キズナアイです」と言うときの「バーチャル YouTuber」はあくまでもずっと名乗ってきたわたしの二つ名的な感じなんです。わたしは自分のことをずっと YouTuber だと思っていて、だけど人間のみんなとは違うバーチャルな存在だよね、というわりと単純な考えで名乗り始めた言葉ではあるんですけど、この響きを大切に思っています。（後略）[1]

なるほど、上記のインタビューを見てわかる通り彼女はあくまでバーチャルな『Youtuber』として自らのアイデンティティを規定していることがわかる。ここからは、始祖たる彼女の言葉をさらに発展させて精密に Vtuber の表層的な定義を行う。

先ほどのインタビューに従って Vtuber の特徴を二つ挙げるとすれば、一つはオーディエンスに観測される時、ほとんどは『3D モデルや Live2D モデル、もしくは単純な立ち絵などのキャラクターが表層に現れ、俗に『中の人』と呼ばれる人間が声を吹き込む。』という構造になっているということ。二つ目は、彼らは Youtube のみならず様々な他の SNS を駆使して活動を行うが、基本的には Youtube で Youtuber 的な活動を行うということだ。

以上二つの点を鑑みると、『3D モデルや Live2D モデル、立ち絵などに写し出されるキャラクターがフェイシャルキャラクターとして観測されうる主に Youtube を活動拠点とする配信者』という言葉が Vtuber の定義となりうるであろう。この定義に当てはめることで、現在 Vtuber 市場においてプライマルな地位を確立している『ホロライブ』『にじさんじ』『あおぎり高校』といった大手から中規模の Vtuber 事務所に所属するタレント、ライバーなどを本論文の射程に納めることができる。しかし、これは先ほども言った通り表層の定義にすぎない。次節では Vtuber のより正確な構造的分析を試みる。

Vtuber の構造を巡る視点

Vtuber の精密な構造の解析については、難波優輝(2018)[2]がオーディエンスとの関係の分析を通じて一つの答えを提示している。しかし、Vtuber の構造及び存在の議論の中で難波の理論とは異なる分析を試みている者が存在するため、理論の比較と検討を行う必要があるが、ここでは難波の理論の記述のみに留め、別の理論との比較は後述する。難波は Vtuber の構成する要素を” Vtuber 自身の声を生み出している”『パーソン』、鑑賞者とメディアを介してコミュニケーションを撮る際に立ち現れるパーソンの現れである『ペルソナ』、そして” 3D や 2D の擬似的な画像”である『キャラクター』という三つの階層に分ける。[3]そして、鑑賞者はメディア、そしてキャラクターを介した『ペルソナ』を鑑賞し動画の中で鑑賞者の総体に対する呼びかけを聞くうちに”

あたかもペルソナと双方向的な社会的関係を取り結んでいるような感覚”となる[4]。さらに”困難に立ち向かう成長の物語をペルソナが鑑賞者と共有することで、鑑賞者にペルソナと同じ特定の物語のうちを歩んでいるという「移入」の感覚を引き起こし、”一層強固な関係である『ペルソナ-オーディエンス関係 (persona-audience relation:PAR)』を構築しようと論じる。

ここまでで難波が論じたことをまとめると大きく二つに重要な点は絞られる。

一つ目は鑑賞者がメディアを媒介に観測するのは『中の人』たる『パーソン』ではなく『パーソン』が『キャラクター』を介して振る舞う人格の『ペルソナ』であるということである。

ここで留意したいのは『パーソン』が『キャラクター』を必ずしも『演じている』訳ではないということだ。先ほどインタビュー記事を引用した『キズナアイ』は自らのことを”AI”と名乗っている。これは『キャラクター』に近い『ペルソナ』として振る舞っているケースだ。しかし、彼女は『キャラクター』を演じている訳ではない。実際は動画中にて『パーソン』が見え隠れする言動が見られるからである。反対にキャラクターとしての『ペルソナ』ではなく『パーソン』に寄った『ペルソナ』を構築し、オーディエンスから受容されているケース[5]も存在する。このように『ペルソナ』は『キャラクター』と『パーソン』の間のグラデーションの中に存在している。そのため『ペルソナ』を語るときに『演じる (act)』ではなく、『振る舞う (behave)』もしくは『装う (rig)』という言葉が適切であろう。

二つ目はVtuberと鑑賞者は非双方向的であるが、あらゆる演出により『ペルソナ』に対して『移入』の感覚をもたせうる強固な関係である『ペルソナ-オーディエンス関係 (PAR)』を構築するということだ。

そしてここから考えなければならないのは、『キャラクター』を介した『ペルソナ』に対して持つイメージについてだ。このイメージを『ペルソナイメージ』という。『ペルソナイメージ』とは”ペルソナの性格やその背景が鑑賞者に与える印象の総体”と定義されている。また、Vtuberの『ペルソナイメージ』の構築のプロセスに参考になりそうな研究として難波は、スター研究を行ったDyer (1986)に注目している。Dyerによると、スターのイメージは第一に製作者によって、第二に映画出演、トークショー、雑誌のインタビューによって、第三に批評家の語りによって、第四に鑑賞者同士の会話によって決定されるとしている。この傾向はVtuberにも十分に当てはめることができるだろう。

ここまでは、『Vtuberの機能的構造』と『オーディエンスとの関係性』、『多様な要素からなるペルソナイメージの構築』について難波の理論を元に概観した。

しかし、Vtuberの理解をするにあたって難波の非還元主義的で、Vtuberを『オーディエンスが作り出すキャラクターを介したペルソナイメージ』と捉えるものとは異なる

り、形而上学的かつ還元主義的なアプローチ[6]で論じているケースも存在する。ここからは現在 Vtuber を取り巻く理論において本論文の立ち位置を篠崎大河の『Vtuber 配信者説』との比較を通して明確にする。

篠崎（2023）[7]は現在の Vtuber を説明する説を還元主義における『キャラクター説』と『配信者説』、そして非還元主義に分類し、自らは還元主義の『配信者説』の立場をとる。具体的な主張は、「Vtuber というものは「『キャラクター』がフィクショナルなものである。」という条件を当てはめれば本質は配信者である。」というものだ。これはどういうことか。篠崎は架空の Vtuber を例に出して説明を試みていたためそれに習う。あるところに『天墜（あまおち）ソラ』という墮天使の Vtuber がいるとする。中の人とは山下莉子という名前だ。この時もし篠崎のいう通り Vtuber が『配信者』であるならば次のことが言える。

- ①天墜ソラは山下莉子である
- ②天墜ソラは墮天使である
- ③山下莉子は人間である
- ④山下莉子は墮天使である

③④は矛盾の関係にある。この矛盾を篠崎は『配信者説の課題』と呼んでいる。しかし、天墜ソラというキャラクターをフィクショナルなものであるという前提条件をつけたなら、以上の事項は矛盾なく成立する。つまり、フィクションの存在である Vtuber として振る舞う状況においては、山下莉子は墮天使でもある天墜ソラとして振る舞うため、『山下莉子は墮天使である。』ということができるのである。『配信者』は『ペルソナ』と『パーソン』の総体に還元されるため、難波の理論とも矛盾しない。かつ、実際に起こっている事象[8][9]に照らし合わせても配信者説を裏付ける結果となっているため篠崎の主張は妥当性が高い。しかし、だからといって難波の理論が妥当性を欠いているということではない。彼の理論は多様な要素と視点が絡み合う社会的な観点から Vtuber を論ずる際に非常に有効である。実際に篠崎は自らの論文で難波の理論を”社会的本性に関わるものとして解釈すればより有益な含意を引き出せるだろう。”[10]と表している。

結論としては、本論文はあくまで社会的アプローチから Vtuber を論ずるものであるため、形而上学的アプローチから Vtuber を考察した篠崎の理論ではなく、難波の理論に立脚した非還元主義的なアプローチをとる。次節では、現実社会における Vtuber と鑑賞者たる消費者の具体的な相互作用と、その空間内において重要である要素を抽出する。

現代市場でのオーディエンスとの相互作用における Vtuber の重要要素

ここからは、Vtuber とオーディエンスである消費者との関係性を観察と分析してい

く。この操作を通じて Dyer が提唱したペルソナイメージ（スターイメージ）の詳細なプロセスと、市場での Vtuber の重要機能を詳らかにすることを目指す。

Vtuber とオーディエンスが邂逅する場所として最も代表的なのは、Youtube をはじめとしたサイトにアップされた動画が考えられる。その内容が配信やライブであったならば、オーディエンスの間でチャット機能を通じてのリアルタイムな熱狂や交流が味わえるであろうし、Vtuber に自分のコメントが読まれたならば刹那の双方向的な交流が生じ、チャットにコメントを書き込んだオーディエンスは喜びの感情を覚えるだろう。このチャット上のコメントを読み上げることによって生じる刹那の双方向的な交流が Vtuber とオーディエンスとの PAR の構築に多大な役割を果たしていると思われる。そして Youtube での『コメント』という機能も重要事項として考える必要がある。なぜなら Youtube 上における『コメント』という機能が、オーディエンス同士の交流によるペルソナイメージの確立に影響を与えているからである。オーディエンスはコメントを通じて動画の感想を伝えるばかりでなく、時として『X の Y などところがカワイイ！』といった『Vtuber のペルソナの感想』や確立されたペルソナイメージの議論を行うこともある。また、Vtuber 同士での交流がメインとなる動画のコメントにおいては、しばしば Vtuber 同士の関係性を類推するものが投げかけられる。これにより他の Vtuber との関係性に立脚した新たなペルソナイメージが創造されることもあろう。

チャットやコメントなど Youtube の交流機能を使用した Vtuber とオーディエンス、もしくはオーディエンス同士の相互作用による PAR の強化とペルソナイメージの確立を分析してきたが、その他の活動として『二次創作の創造』が挙げられる。Vtuber の二次創作作品の幅は、Youtube 内の『切り抜き動画』と呼ばれる Vtuber の元動画を切り貼りして作られた動画や『ファンアート』と呼ばれる絵、もしくは小説など非常に多岐に渡る。難波はこうした二次創作作品のみならず上記に挙げたような感想や解釈の総称を『ファンプロダクト（fan product）』[11]と呼び、それらがオリジナルである Vtuber と共に再解釈が繰り返されることにより『ペルソナイメージ』が形成されると述べている。そして、” こうしたファン、そしてプロダクトのネットワークによって生成され、ファンによって共有された特定の解釈の慣習” [12]を「解釈的慣習（interpretive convension）」と呼んでいる。

ここで、一つの疑問が生じる。『Vtuber 市場においてなぜ解釈的慣習が発達しているのか？』という疑問である。（なおここでは Vtuber の構造から生じる理由のみに言及範囲を絞る。）これは先ほど述べた『キャラクターを介したペルソナイメージ』が生み出す PAR のみならず、Vtuber のもつ『キャラクター』そのものの要素が重要な役割を果たす。Vtuber の『キャラクター』の持つ性質についてもう少し詳しく見ていこう。結論から言うと、Vtuber の『解釈的慣習』を生み出している大きな要因として Vtuber の『キャラクター』が持つ『デザイン』が関わっていると考えられる。それはどの

ようなデザインでどのような性質を持っているのだろうか？それを理解する上で先ほども例示として出した Vtuber の『キズナアイ』がインタビューの中で述べた自らの自己認知、つまりキャラクターデザインに関する重要な性質が参考になる。ここからは Vtuber のキャラクターデザインの性質を彼女のインタビューでの言動から読み解いていく。

（前略）わたし、見た目年齢が一六歳なんです、これくらいの年齢がいちばんちやほやされるらしい"というデータに基づいたものなんです。いわゆるアニメルックなもの、この声も、こういうのが愛されるらしいというスーパーAI的なデータの集積によるものなんです。あまりこういう極端な言い方はしたくないんですけど、平たく言うと "オタク文化、" というものがあるとされていて、わたしの選択ってそれと親和性が高かったってことなんですよね（後略）

上のインタビューはキャラクターのロールプレイが混入しているためわかりにくくなっているためわかりやすくまとめる。

①見た目年齢が 16 歳である

②見た目がアニメルックである

以上 2 点が彼女の持つ自らの自己認知である。①は年齢についての言動であるためキャラクターのデザインに一部抵触するものの、デザインの性質自体を捉えているという意味では②の『アニメルックである。』と言う特徴の方が重要性は高いように思われる。では、そもそも『アニメルック』とはどのようなものなのだろうか？



図1 キズナアイ（左）（出典：A.I.Channel）とキズナアイの線画（右）（出典 ILLUSTRATION & VISUALBOOK 森倉円）※左右を見比べると彼女の容姿が比較的簡易的な線画で構成されている事がわかる。

それを明らかにするために、彼女の見た目を観察していこう。

- ・若年女性の見た目（本人は16歳と供述）
- ・うさぎの耳のようなリボン
- ・桃色のインナーが入った茶髪
- ・学生服（セーラー服）風の衣装
- ・大きな目

このように彼女を構成する要素は比較的容易に見出すことができる。この『要素の分解の容易性』というものが彼女が先ほど挙げた『アニメルックな見た目』と関わりがあると考えるべきだろう。

東浩紀（2001）[13]は『萌えキャラ』[14]の分析として、「『萌えキャラ』には様々な『萌え要素』が用いられており、この萌え要素の組み合わせにより、キャラクターの作成が為されている。」と論じている。東の指摘通り、先ほど分解した要素が『萌え要素』だとするなら、この『キズナアイ』のデザインを『アニメルック』であると考えることができる。また、顔などのデザインは伊藤剛が自らの著書『テヅカイズデッド』において述べたアニメや漫画作品に登場する『キャラ』の定義[15]である「比較的簡単な線画を基本とした図像で描かれ、固有名で名指されることによって（あるいはそれを期待させることによって）、「人格・のようなもの」としての存在感を感じさせるもの。伊藤（2014）」にぴたりと当てはまる。図1のキズナアイのイラストは線画であっても単純な線を用いた表現の技法により容易に人格を想起することができるだろう。よって、Vtuberの『キャラクター』のデザインは従来のアニメキャラクターのデザインを逸脱しておらず、むしろ踏襲していると考えられるべきであろう。

そして、前述した通りこの『アニメルック』な見た目がVtuberのオーディエンスにおける『解釈的慣習』の醸成に大きく関わっている。『解釈的慣習』の強度を考える上で信頼性が高い要素は『二次創作作品』の豊富さだ。オーディエンスはキャラクターやペルソナの再解釈の結晶として『二次創作』を作り出す。この結晶が他のファンの解釈を強固にするか、もしくは変化させることさえあるからである。では、『アニメーションキャラクター（もしくはそれに準ずるキャラクター）』の二次創作作品は豊富に存在するのか。それを考える上で参考になるのがイラストや小説を投稿できる『Pixiv』[16]と言うサイトである。このサイトには作品に対し特定のジャンルやモチーフが含まれていることを鑑賞者に知らせる『タグ』と言う機能がついている。この『タグ』の傾向を分析することで、作られる作品の元となるモチーフにおける『解釈的慣習』の強度が判明するだろう。作品につけられるタグの総数を降順で見ると、タグの大まかなジャンルの内、作品、作品群やキャラクター、キャラクター群のみに絞った場合そのほぼ全てを『アニメルック』なキャラクターが登場する作品、キャラクターが独占しており、いわゆる3次元と呼ばれる我々の社会に存在するタレントやアイドルのタグは見られな

かった。サイト独自の文化があるため一概に「『アニメルック』なキャラクターが実在する人間より二次創作を生み出しやすい。」と断言することはできないが、国内最大のイラスト投稿サイトにおいてアニメーション的キャラクターにまつわる作品が相対的に多く投稿されているという事実は、『アニメーション的キャラクター』において『解釈的慣習』が高い強度で存在していると結論づけることができる。

また、Vtuber に関しても同サイトにおいても極めて人気のモチーフである上、先ほど述べた通りアニメーションキャラクターと同様の属性を持つという理由により、同様の結論を導き出すことが可能であろう。

ここまでの言説をまとめると、次のようになる。

- ・ Vtuber の構造は『キャラクター』『ペルソナ』『パーソン』に分けることができ鑑賞者がメディアを媒介に観測するのは『中の人』たる『パーソン』ではなく『パーソン』が『キャラクター』を介して振る舞う人格の『ペルソナ』である。
- ・ Vtuber と鑑賞者は非双方向的であるが、あらゆる演出により『ペルソナ』に対して移入の感覚をもたせうる強固な関係である『ペルソナ・オーディエンス関係 (PAR)』を構築する。
- ・ オーディエンスが多様なネットワークにおいて、互いに対象となる Vtuber の解釈を繰り返す。それにより対象の『ペルソナイメージ』を構築する『解釈的慣習』を作り出す。
- ・ Vtuber の萌え要素を含んだアニメルックなデザインを踏襲しており、その属性が Vtuber における『解釈的慣習』の重要な要因である。

次章では、この Vtuber が持つアニメルックなデザインがどのようにして『解釈的慣習』を生み出しているのかをポストモダンの特徴を踏まえた東浩紀の理論、現代の技術、そしてキャラクターそのものに付随する性質といった複数のファクターを検討し、詳細に論じていく。

- [1] キズナアイ『シンギュラリティーと絆と愛』ユリイカ 2018年7月号 特集＝バーチャル YouTuber (p.36). 青土社.より抜粋.
- [2] 難波優輝『バーチャル Youtuber の三つの身体』ユリイカ 2018年7月号 特集＝バーチャル YouTuber. 青土社. より参照
- [3] 同上論文。難波はこれを『三層理論 (three tried theory)』と呼称している。
- [4] 同上論文。これを『パラソーシャル関係 (para-social relation) PSR』という。
- [5] 代表的なケースとして、ここでは『あおぎり高校』と呼ばれる Vtuber 事務所に所属するタレントである『大代真白』を紹介する。彼女はしばしば自ら『パーソン』を仄めかす発言をするが、オーディエンスとの間でそれを許容する解釈的慣習が成立している。

参考資料

『ただ夜這いに来た大代』

<https://www.youtube.com/watch?v=ChRv6P1A3pA>

[6]還元主義とはある説明を要する存在者を既知の説明を要さない存在者と同一視することである。一方非還元主義は説明を要する存在者を全く新しい別の存在者として理解する立場のことである。

[7] 篠崎大河『バーチャル YouTuber の形而上学』フィルカル Vol.8 No.3 p.288~p.316 より参照

[8]具体例の一つとして配信者の旅行体験におけるオーディエンスの理解を挙げる。当然旅行体験はキャラクターではなく配信者に依拠している。しかし、オーディエンスはしばしばこれをキャラクターの旅行体験として理解する。

参考資料

『私たちカリフォルニアへ旅行に行ってきました!』

<https://www.youtube.com/watch?v=CAKAscygV9U>

[9]もう一つの例として『配信者同士のキャラクター交換』が挙げられる。しばしば Vtuber は配信中に自らの体を入れ替えるが、その時にオーディエンスの Vtuber の区別は配信者の言動や動きそのものに依拠する。

参考資料

『【エイプリルフール】私たち、入れ替わってる——!?!』

<https://www.youtube.com/watch?v=dl9UdqTPLqI>

[10]同上論文 p.314

[11] 難波優輝『バーチャル Youtuber の三つの身体』ユリイカ 2018年7月号 特集＝バーチャル YouTuber. 青土社. より参照

[12] 同上論文

[13] 東浩紀『動物化するポストモダン』講談社現代新書より参照

[14]萌えとは「コンテンツ上のキャラクター(漫画・アニメ・ゲームなどの登場人物やアイドルなど)への抽象的愛情表現。またはそれらの持つ外見または行動上の特徴への偏愛」のこと

[15]伊藤剛『テヅカ・イズ・デッド ひらかれたマンガ表現論へ』新書版 星海社新書、2014年より抜粋

[16]国内最大のイラスト投稿サイト。サイトにおけるアカウント登録者数は3000万人を超えている。論文中で述べたタグの詳細については以下の資料を参考にされたい。

参考資料

『Pixiv 人気のタグ』最終閲覧日 2024/03/07

<https://www.pixiv.net/tags>

ポストモダンの社会構造とそれに伴うファクター

ポストモダンとは何なのか

Vtuber という存在がアニメルック、即ちオタク文化の流れを組んでいることは前述した。そしてオタク文化とポストモダンの消費形態の繋がりを論じた東浩紀[1]の理論は Vtuber のキャラクターの性質を詳しく考察するために役に立つ。しかし、彼の理論について触れる前に『ポストモダンとは何か?』という疑問を明らかにする必要があるだろう。しかし、『ポストモダン/ポストモダニズム』について精密な言及を試みることは本稿の範囲を著しく逸脱するためジャン＝フランソワ・リオタール (1979) が『ポストモダンの条件』において行ったポストモダンの定義[2]を参照する。彼は著書の中でポストモダンをこのように定義している。「極限まで単純化すれば《ポストモダン》とはメタ物語の不信のことである」つまり、『主体、理性、意味、精神』など、西洋啓蒙思想的なあらゆる言説の根拠となりうるメタ物語即ち『大きな物語』が革命、戦争、収容所の時代を経て大量消費社会に移行し、もはやその信頼を失墜させてしまったということである。よって、この『大きな物語の凋落』をポストモダンにおける特徴と定義付ける。

ポストモダンにおけるデータベース消費と Vtuber の関係性

東浩紀の理論を見ていこう。彼の理論を要約すると「アニメ、漫画、ライトノベルのキャラクター文化やその二次創作に代表される『オタク文化』はポストモダンの特徴を内包している。」となるのであるが、これはどういうことか。東はキャラクター、物語を『シミュラクル』として理解していた。

『シミュラクル』とはフランスの社会学者であるジャン・ボードリヤールが提唱した概念であり、大きな物語が凋落した社会におけるあらゆるものがその意味を失い、差異が生じる記号となったオリジナルと複製品の間接体[3]を指す。よって『シミュラクルの氾濫』はポストモダンの特徴である大きな物語の凋落が引き起こした事象であると言える。また、東は『データベース消費』という用語を用いてシミュラクルとしての物語、キャラクターを説明する。

また、ここでいうデータベースとは、物語においては『設定』、キャラクターにおいてはその『要素』の集積である。そして物語やキャラクターはこの『データベース』における要素の組み合わせで作られており、それらは消費者によって再び要素に分解され断片が消費される。[4]これがデータベース消費の概要であるのだが、Vtuber の消費形態の一端にもこの消費は組み込まれている。それはキャラクターのシミュラクルとして記号化し絵や小説を作る二次創作はもちろん、ペルソナの声や仕草を属性に還元し耽美するといった消費も物語性を廃し断片を消費するといった観点から『データベース消費』に含まれる。(例えば、先ほど例に挙げた図1の『キズナアイ』を例にあげるなら、彼女のうさぎの耳のようなりボンや声など断片を耽美するならそれはデータベース

消費である。)

そもそも Vtuber には前持った物語が存在せず、オーディエンスと Vtuber の配信の記録がそのまま歴史ないしは物語になるという形態である以上、物語に先立つ萌え要素を含んだキャラクターとペルソナの消費が『データベース消費』という形態を取ることは驚くに値しないだろう。

Vtuber 発展に関与したファクター

ここで、前章の最後で述べた一つの疑問を考えてみよう。なぜ我々は Vtuber、翻って漫画やアニメのキャラクターに魅力を感じるのでしょうか？言ってしまうえば今挙げたものは全てマンガ的な絵であり記号に過ぎない。しかし、我々はそんな記号の集積に確かにリアリティーを感じ、それゆえに魅力を感じる。それはなぜか？その由来は漫画の表現の両義性にあると大塚英志は論じる。[5]

先ほど漫画の本質が記号的であると述べたが、その言説を最初に述べたのは漫画家の手塚治虫であると言われている。しかし、我々の世界にポルノ漫画が存在することからわかる通り漫画と現実とは記号の名の下に断絶されず漫画という媒体に我々はリアリティーを感じるのだ。大塚は手塚治虫の漫画である『勝利の日まで』を引用して論じている。



図2 銃弾を受け流血したキャラクター（手塚治虫「勝利の日まで」『幽霊男/勝利の日まで』p.226 1995年 朝日新聞社より）

手塚はここで記号の集積に過ぎない非リアリズム的手法で描かれたキャラクターに撃たれば血を流す生身の体を与えているのである。（中略）ミッキーマウスのような非リアリズムで描かれたキャラクターにリアルに傷つき死にゆく体を与えた瞬間、手塚のまんがは、戦前・戦時中のまんがから決定的な変容を遂げたのである。[6]

大塚は『記号的・身体的両義性』の表現技法が戦後の漫画家のスタイルを変えるに至

り、戦後日本のサブカルチャーの方向性を規定したと述べている。[7]漫画という記号的表現とそれに含まれた自然主義的でリアルな描写（これには暴力的なものも性的なものも含まれる。）、この属性は漫画におけるキャラクターの派生であるアニメキャラ、そして **Vtuber** の『キャラクター』にも当然の前提として継承されている。これこそがアニメや漫画、そして、**Vtuber** のリアリティーの一端を担っているのなら、**Vtuber** は記号的でフィクショナルでありながら、自然主義的な身体性を獲得していることになる。それが声やジェスチャーと合わさり、強固な **PAR** を形成しているのだとしたら、彼ら彼女らに魅力的な他者像が付与される機構が理解できるだろう。血は流さなくてもいい。顔を悦楽に歪める必要もない。ただ両義性を持ったフィクショナルで特殊なリアリティーの前提が潜在的にオーディエンスに共有されているのなら、彼らは生き生きとバーチャルの世界を作ることができるのである。

Vtuber とオーディエンスを取り巻く技術的なファクターも考慮に入れる必要があるだろう。最初に考えるべきは **Vtuber** を成立させるための技術であるが、松下哲也が『キャラクター・ギークカルチャー・バーチャル Youtuber』において **Vtuber** 製造技術の安価化について言及している。

今では毎日のように新たな **VTuber** が誕生しているが、この背景には **CG** キャラクターの映像作成のコストがきわめて安価になったという事情がある。個人であれば **Unity** や **Unreal Engine** などの汎用ゲームエンジンが無償で利用できるようになった（中略）。日本のアドベンチャーゲームなどで普及しているアニメーション作成ツール **Live2D** にも無料版が存在する。パソコンの性能は向上し、今や **Oculus Rift** や **HTC VIVE** などの **VR** ヘッドセットとモーションコントローラー **FaceRig** や **iPhone X** の **True Depth** カメラを用いたフェイストラッキングを用いれば大がかりなモーションキャプチャーの設備を用意せずとも **CG** キャラのアニメーションが作成可能である。[8]



図3 『三つのマリリン』 アンディー・ウォーホル（出典：アートアジェンダ）[9]

※複製時代の芸術作品。我々はスマートフォンでこれに類似した操作を簡単にやっている。

松下はVtuberの製造技術の安価化についてのみ言及しているが、オーディエンス側の技術的な発展も考える必要がある。それを論ずるにあたってヴァルター・ベンヤミンが『複製時代の芸術作品』において有用な言説を投じている。『複製時代の芸術作品』でベンヤミンは芸術の『複製』と映画芸術による現行の芸術作品への逆作用[10]を論じているのであるが、ここで重要になるのが彼が挙げた『技術による複製』の『自立性』[11]である。例えば、何かの芸術作品の写真をスマートフォンで撮った場合、我々は彩度、明度や写真の比率も自在に操ることができるため撮った写真はオリジナルと全く異なる自立性を持った複製品として立ち現れる。アンディー・ウォーホルの作品を見るとイメージしやすいだろう。Vtuberの動画でもオリジナルのハイライトを短くまとめた切り抜き動画がオリジナルの複製品として多数存在するが、中にはオリジナルとはかけ離れた別作品のような動画も存在しており、複製品の自立性が見られる。現代では誰もが自立性を持った複製品を簡単に作る技術を獲得することができる。

この『複製品の製造技術の一般化』が自立性を持ったシミュラクルの製造、そして解釈的慣習が高い強度で存在している要因になっている。

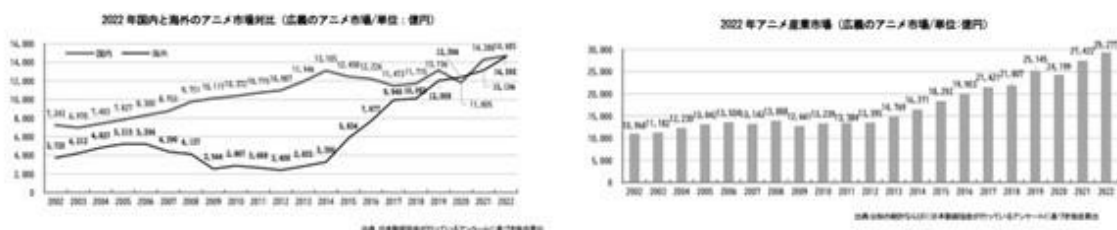


図4 2022年国内と海外の市場対比(左)と2022年アニメ産業市場(右) (出典:日本動画協会)

最後に考えるべき因子は『オーディエンス自体の性質』である。ここで検討するのは『Vtuber』の視聴年齢層とアニメ市場規模の推移である。前者を検討する理由はオーディエンスの性質の直接的な属性を明らかにするためである。後者を考える理由であるが、まず、Vtuberはその身に内在する『萌え絵的性質』上アニメ・まんが的なサブカルチャーとは不可分である。その場合、Vtuber市場の発展のためにはアニメやまんがに含まれる両義的性質から来る特殊なリアリティーをオーディエンスが内面化している必要がある。よって、間接的ではあるが、国内のアニメーションの普及の強度を考察するにあたりアニメーションの市場規模を参考とする。まず、視聴年齢層であるが、矢野経済研究所が行った調査[12]によると、『Vtuberファンのボリュームゾーン』は『10代～30代の男性と10～20代の女性』となっている。これは比較的若い世代がVtuberに親しんで見ているということを示している。このデータだけではこれだけしかわからないが、アニメ市場規模の推移の傾向と合わせて論じることで全く別の結果が浮上する。

日本動画協会が発表した資料[13]によると、日本のアニメーション産業の経済規模は2002年以降概ね上昇傾向であり、海外の市場規模も国内のそれと遜色ない規模にまで成長している。さて、この二つのデータから何が読み取れるのか。

まず、Vtuberを見ている若者は小さい頃から『データベース』によって作られた（萌え絵的）キャラクターを当たり前に摂取できる可能性のある環境が整っているいわば『データベース的キャラクターネイティブ』である。かつ、アニメーション市場規模拡大が起きていることからアニメを日常的に視聴する人口が増加した可能性が高い。つまり、アニメーション・マンガ的キャラクターに魅力を感じるよう育った人間が増加したと考えることができる。しかし、アニメの市場規模がそのまま視聴人口を反映しない可能性はあるが、オタクのみ国内で羽振りが良くなって消費量が伸びたとは考えにくいだろう。それよりは個々の消費量は据え置きで単純に視聴人口が拡大したと考えた方が妥当性が高い。

またインターネットの発達により、誰もがアニメ・マンガ的画像を場所・国を越えて閲覧することが可能になり、この事象がデジタルネイティブである若者、そして海外の人間の認知を変容させた可能性が高い。

よって、アニメ・マンガ的キャラクターに慣れた人口が国内外問わず増加したことがVtuber市場発展のファクターになったと考えることができる。

ここまで、多様な言説により種々のファクターを取り上げてきたのでここでまとめておこう。

- ・ポストモダンにおける『大きな物語の凋落』によって引き起こされた複製品とコピーの区別が成り立たない中間体である『シミュラクル』の性質がマンガ、アニメのキャラクターおよび設定の制作と消費の形態に『データベース消費』という形で及んでいる。
- ・Vtuberにおける『キャラクター』も以上の性質を多分に受け継いでおり、直接的な性質としてはキャラクターそのもののフォルム。消費形態の性質としてはシミュラクルたる二次創作の多様さやキャラクターをオーディエンスの解釈により耽美する解釈的慣習に現れている。
- ・Vtuberの『キャラクター』における身体的リアリティーの要因の一つとしてマンガ的表現に見受けられる『記号的・身体的両義性』が考えられる。
- ・Vtuber側、オーディエンス側双方の技術が安価で普及したことがVtuber市場勃興のファクターとなった。また、解釈的慣習の涵養にはシミュラクルたる二次創作の製造・共有ハードルが技術的側面により大幅に低下したことも注目すべきである。
- ・国内外ともにアニメーションの経済規模拡大が進み、若者を中心とした『データベース的キャラクターネイティブ』が増加したことがVtuberの潜在的なオーディエンス拡大のファクターとなった。

以上の事項を踏まえ結論を述べる。

結論

本論文の主張のまとめをしよう。

○『パーソン』『ペルソナ』『キャラクター』の三層に分離できる **Vtuber** は『キャラクター』の『データベース消費的性質』が経済的優位性を獲得しうる要因となっている。

→『キャラクター』がもたらす恩恵は『キャラクター』そのものが持つシミュラクルの作成におけるハードルの低さとオーディエンスが感じるリアリティーを呼び起こす可能性にある。

この恩恵を支えるファクターは

- ①まんが・アニメにおける『記号的・身体的両義性』
- ②それを潜在的に内在化した現代の『データベース的キャラクターネイティブ』の増加
- ③**Vtuber** の製造技術、そしてオーディエンスの持つシミュラクルの作成・共有技術の発展

以上三つが考えられる。

ここで注意すべきなのは、**Vtuber** のコンテンツとしての魅力において『キャラクター』が必ずしも大きな位置を占めるわけではない点だ。前述した通りオーディエンスはあくまで『キャラクターを介したペルソナ』を視聴しているのであり、『キャラクター』の効力は限定的だ。『キャラクター』が真の力を発揮するのは **Vtuber** やアニメ的キャラのシミュラクルを作るか共有する場合であり、言うなれば『情報の伝達手段』として極めて有用であることは注目すべきだろう。

ここまで **Vtuber** の構造における重要箇所の抽出と彼らの勃興の背景をたどってきた。最後にここまでの分析結果をもとに彼らの存在に一つの答えを提示し、今後の展望を添えて本稿を締めくくる。

[1] 東浩紀『動物化するポストモダン』2001 講談社現代新書より参照

[2] Jean-François Lyotard *La condition postmoderne*, Minuit, 1979. 邦訳『ポストモダンの条件』小林康夫 訳 水声社 より抜粋

また抜粋するにあたり、『ボードリヤール再入門』塚原史 P.24 を参照した。

[3] 塚原史『ボードリヤール再入門』2008 神奈川大学評論ブックレット 28、ジャン・ボードリヤール『象徴交換と死』1982 筑摩文庫 を参照

[4] [1]の 同上論文を参照

[5] 大塚英志『キャラクター小説の作り方』2003 講談社現代新書を参照。尚参照にあたっ

て東浩紀『ゲーム的リアリズムの誕生』2007 講談社現代新書を参考にした。

[6] 大塚英志『アトム の 命題』p.158 徳間書店 2003 より抜粋。尚参照にあたって東浩紀『ゲーム的リアリズムの誕生』講談社現代新書を参考にした。

[7] 同上論文 P.264.265 より一部抜粋。尚参照にあたって東浩紀『ゲーム的リアリズムの誕生』講談社現代新書を参考にした。

[8] 松下徹夜『キャラクター・ギークカルチャー・バーチャル Youtuber』ユリイカ 2018 年 7 月号 特集=バーチャル YouTuber (p.309). 青土社. Kindle 版. より抜粋

[9] 参考資料 <https://www.artagenda.jp/exhibition/detail/4190>

[10] ヴァルター・ベンヤミン『複製時代の芸術作品』（『ボードレール』より）1994 岩波文庫より参照

[11] 同上論文 P.65.66 より参照

[12] 『プレスリリース Vtuber に関する消費者アンケート調査を実施（2023 年）』矢野経済研究所

<https://www.yano.co.jp/press->

[release/show/press_id/3455#:~:text=%E3%80%8CVTuber%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%B3%E3%80%8D%E3%81%AE%E3%83%9C%E3%83%AA%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%A0%E3%82%BE%E3%83%BC%E3%83%B3,%EF%BD%9E20%E4%BB%A3%E3%81%AE%E5%A5%B3%E6%80%A7](https://www.yano.co.jp/press-release/show/press_id/3455#:~:text=%E3%80%8CVTuber%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%B3%E3%80%8D%E3%81%AE%E3%83%9C%E3%83%AA%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%A0%E3%82%BE%E3%83%BC%E3%83%B3,%EF%BD%9E20%E4%BB%A3%E3%81%AE%E5%A5%B3%E6%80%A7)

[13] 『アニメ産業レポート 2023』日本動画協会

https://aja.gr.jp/jigyoku/chousa/sangyo_toukei

終わりに

『滑らかな他者』としての Vtuber

最後に Vtuber の存在の答えの提示と今後の研究の展望について述べる。本稿は Vtuber の持つ構造のうち、『キャラクター』に絞りその性質の分析に努めた。その性質とは一言で言えば『滑らかな他者性』だ。『滑らかさ』とはここでは現実の肉体における容姿といった否定性を持ちうる情報を排除された状態を指す。Vtuber のキャラクターは現実の不要な情報を排しフィクショナルな記号でありつつも特殊な身体性獲得をしている。そして、『ペルソナ』の声や仕草も手伝って我々は彼ら彼女らをリアルな他者として認識する。そのため Vtuber は特殊な身体性を共有した者の心に滑らかに入り込むのである。よって Vtuber とは『滑らかな他者』であると推論することができるかもしれない。しかし、『滑らかさ』は『キャラクター』のみに付随する性質であり、Vtuber 自体は篠崎のいう通り『配信者』なのである。よって、Vtuber 個人の性格は『ペルソナ』とそれを構成する『パーソン』に大きく依存することになる。Vtuber を装う人間が露悪すれば幻想は最も簡単に吹き飛んでしまう。しかし、『解釈的慣習』の中で『キャラクター』は演者が作り上げてきた『ペルソナ』と融合し生き続けるのだ。

『潤羽るしあ』がそのいい例だろう。彼女をめぐる一連の騒動について詳細な記述は控えるが、演者が『潤羽るしあ』[1]というキャラクターを装うのをやめても彼女は幻影を追いかけるオーディエンスが作り出す『解釈的慣習』の中で二次創作と共に生き続ける。Vtuberが『滑らかな他者』たりうるかはまだ検証の余地がある。しかし、彼らの『キャラクター』という要素がオーディエンスに夢を与え、時として彼らの夢を保存する媒体たりうることは確かだ。

今後の展望

今後の研究についてであるが、Vtuberとオーディエンスが作り出す特殊な関係性についてさらなる思索を進めていきたい。彼らを取り巻く環境はどう特殊なのか。それは『距離の両義性』にある。Vtuberとオーディエンスはリアル肉体的には途方もなく距離が空いているが、同時にPARを形成し、精神的にはオーディエンスによっては親密さを感じうるような環境が形成されている。『遠いにも関わらず近い』という距離の両義性がどこから生じているのか。『キャラクター』の性質と宗教の神秘体験との関連性も含めて論じてみたいと思う。

なぜ宗教との関連性を論じる必要があるのか？哲学者のジョルジョアガンベンによると、『宗教』の語源はラテン語の『religio』にあり、その意味は『人と神を結合されるのではなく、神と人を交わらぬように注意深く見張ること』[2]であるという。私は断絶しながらも親密性を作り出すVtuberとそのオーディエンスにこの宗教との奇妙な類似性があると思えてならないのである。宗教の本質と神秘性、そして『キャラクター』という舞台装置がもたらすベールに類似性があるのか？Vtuberは滑らかさを有した他者性を越えて神秘性を獲得することができるのか？その疑問は尽きない。

[1]2019年から2022年まで「ホロライブプロダクション」に所属していたVtuber。『第三者への情報漏洩』をしたとして2022年の2月に契約解除に至った。

[2]ジョルジョ・アガンベン『瀆神礼賛』（『瀆神』より）より参照

参考文献

- 1)『バーチャルYoutuberの三つの身体』難波優輝 ユリイカ 2018年7月号 特集＝バーチャルYouTuber. 青土社.
- 2)「勝利の日まで」(幽霊男/勝利の日まで』より)手塚治虫 p.226 1995年 朝日新聞社
- 3)『シンギュラリティーと絆と愛』キズナアイ ユリイカ 2018年7月号 特集＝バーチャルYouTuber. 青土社.
- 4)『キャラクター・ギークカルチャー・バーチャルYoutuber』松下徹夜 ユリイカ 2018年7月号 特集＝バーチャルYouTuber. 青土社.

- 5)『動物化するポストモダン』東浩紀 講談社現代新書
- 6)『ゲーム的リアリズムの誕生』東浩紀 講談社現代新書
- 7)『複製技術時代の芸術』（『ボードレール』より）ヴァルター・ベンヤミン 岩波文庫
- 8)『シミュラクルとシミュレーション』ジャン・ボードリヤール法政大学出版局
- 9)『象徴交換と死』ジャン・ボードリヤール 筑摩文庫
- 10)『キャラクター小説の作り方』大塚英志 講談社現代新書
- 11)『アトム of 命題』大塚英志 徳間書店
- 12)『ボードリヤール再入門』塚原史 神奈川大学評論ブックレット 28
- 13)『透明社会』ビョン Chol・ハン 花伝社
- 14)『バーチャル Youtuber の形而上学』篠崎大河（『フィルカル』vol.8 no.3 より）フィルカル編集部
- 15)『テヅカ・イズ・デッド ひらかれたマンガ表現論へ』伊藤剛 新書版 星海社新書
- 16)La condition postmoderne, Minuit,. 邦訳『ポストモダンの条件』Jean-François Lyotard 小林康夫 訳 水声社
- 17)『瀆神礼賛』（『瀆神』より）ジョルジョ・アガンベン 上村忠男、堤康德訳 月曜社
- 18)『プレスリリース Vtuber に関する消費者アンケート調査を実施（2023 年）』矢野経済研究所

<https://www.yano.co.jp/press->

[release/show/press_id/3455#:~:text=%E3%80%8CVTuber%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%B3%E3%80%8D%E3%81%AE%E3%83%9C%E3%83%AA%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%A0%E3%82%BE%E3%83%BC%E3%83%B3,%EF%BD%9E20%E4%BB%A3%E3%81%AE%E5%A5%B3%E6%80%A7](https://www.yano.co.jp/press-release/show/press_id/3455#:~:text=%E3%80%8CVTuber%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%B3%E3%80%8D%E3%81%AE%E3%83%9C%E3%83%AA%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%A0%E3%82%BE%E3%83%BC%E3%83%B3,%EF%BD%9E20%E4%BB%A3%E3%81%AE%E5%A5%B3%E6%80%A7)

- 19)『アニメ産業レポート 2023』日本動画協会

https://aja.gr.jp/jigyoku/chousa/sangyo_to

第六章 雄辯道

第一部
「辯論」

第一章「雄辯部における弁論の定義」

第一節 弁論の定義・目的

—説得を目的とし、己が弁のみを以って訴える—

我々は、知りたいことを知り、信じたいことを信じる。知りたいことを知る、ということとは、好奇心の発露であり、自己実現への過程であり、より高みを目指し、真実を求めるという決して欠くことのできないものである。現在の自分が持っている知識に不満を感じ、疑うところから、人は知的成長を遂げることが出来るのであるから、我々が常に停滞を嫌い、進歩を欲するのであれば、知識に満足するということはもとよりあってはならない。もし仮に自分自身や社会の現状に不満なしとするならば、それこそ知識の不足であり、衰退の予兆に他ならない。一方で、信じたいことを信じるということは、我々が得てして発現させる習性であり、懐古主義的姿勢の元凶であり、それを戒めるものである。しかしながら、このことを理解できぬことが往々にあるからして、それは問題たりえるのである。

だからこそ我々雄辯部が目指すものは困難に他ならない。我々は、弁論であれ遊説であれ、常に人を説得せんと試みる。己が弁舌のみを以って共感を得る。言葉の持つ力を信じ、この力を研鑽する。持てるすべての知識を尽くし、身につけた技術の限りを以って、溢れんばかりの情熱を、人々に訴える。

しかし、人は知りたいことを知ろうとし、信じたいことを信じる。つまり、知りたくないことは知ろうとせず、信じたくないことは信じないのである。知りたいことを知るということは、知りたいことではないもの、興味が刺激されないものを積極的に知ろうとはしない。信じたいことを信じるということは、目の前で行われている説明が意に沿うものではなかったとしたら、事実を事実として認識することすらせず、共感することはありえないということを示している。例えば我々が、百万の言葉を費やし、カトリックの教義が南米の発展を妨げていると説こうが、コーランは現代社会にあってあまりに非合理である、と説こうが、説得するのは困難であろう。

であれば、我々が人をして納得せしめんとするならば、そして自説がその人の信じんとするものでなかったとしたら、その人の心を動かす何かが無ければならない。つまり、多少なりとも感動を与えるものでなければならぬのである。論理を極め、数字を積み上げ、実例をもって紹介することは、理解させるにあたっては極めてその効、確かであり、かつ時間をかければ余人をして不可能にあらざるは明白である。しかしながら、これを事実の理解に終わらせず、共感の獲得にいたらしめるには、理屈だけでなく、感情にも訴えなければならぬ。

人が、知りたいことを知ろうとし、信じたいものを信じるのであれば、自らが知らせた

いことに興味を抱かせ、共感を得たいことを信じたくさせればよい。そして、もしその理想が達成されれば、我が弁舌は高みにあるとすることが出来るだろう。そして、そうあったときに、これに満足せずより高みを目指すことが、我々が目指す雄弁であるということの本質である。

第二節 雄辯部における弁論の位置づけ

—主たる活動にして、決して軽んずべからず—

雄辯部を雄辯部たらしめるものは何か。是非も無く諸部員そのものであり、その在りようである。では、雄辯部員とは何か。もとい、雄弁であることとはどういうことであろうか。言説の数多ある目的の中でも、最も困難にして憧憬に値する説得という行為を為さんとし、日々研鑽練磨し、人格の陶冶に向かう者達である、と定義する。では、説得とは何であるか、如何にして遂げられるものであるか。これを体現しているものが弁論である。己が弁舌と、積重ねられた叡智という、我々が原始的に保有する道具のみを以って、時に無関心な者を引き込み、時に対立者の賛同を得る。そして理に拠るのみでなく情に頼るのみにあらずして、これを含む総体として行うとき、人を動かしうるのである。

弁論は、その発祥である古代ギリシア・ローマ以来の伝統を持ち、欧米においては民主主義の素養をなす重要な教育手段と考えられてきた歴史がある。我が国においては、足尾銅山鉍毒事件に対する抗議活動の手段として、社会正義実現の手段として、学生弁論が広まった。つまり、民衆の力によって運営されるべき民主主義社会が存続している限り、人を動かしうる弁舌は今も変わることなく価値を維持している。故に、弁舌をもって己が主張を訴えるということは、教育の分野に於いて重視されるべきものである。

つまり、雄辯部において、活動の主軸たるは弁論をおいて替わるものなく、部員の励むべきものの主たる一つが弁論であるということである。

第二章弁論作成に必要な能力

この章では、弁論を作成するにあたって要請される能力とその涵養の方法を記す。その能力とは大きく分けて三種類に分類される。

一知識量

二文章表現能力

三声調態度

以下からはそれぞれに節を設けて説明していく。

第一節知識量

弁論を作成する際にまず重要となるのは、論ずるテーマに関する知識がどれだけ内面化されているか、ということである。例えば電力問題を弁論で扱う場合、各発電方法のコストや地政学的リスク、発電・送電・配電のシステム、各種法律などを一定程度把握した上で弁論作成を行う必要がある。これを蔑ろにすれば、分析を誤ったり、解決策が実現できないものであったりなど、後の演練に大きな支障をきたすこととなる。「雄弁は知識の子供である」とディズレーリが述べたように、知識があれば良い構成や展望を描くことができ、それによって積み上げられた自信が声調にも強く反映されていくのである。初めて触れるテーマであった場合、大会の数ヶ月前から集中して取り組まなければ良い弁論は作れないと考えた方が良い。

知識を深める方法として最も一般的なものは文献の精読だが、その他有効な手段として、それに直接関わっている方々にお話を伺うということも挙げられる。上記の例であれば、電力会社の方や経済産業省の方にインタビューをし、その実態を教えて頂くことで、後述する根本的瑕疵に関しては相当程度防ぐことができる。逆にこれを怠った場合、しばしば現状分析を誤ることとなり、弁論の根幹が崩れてしまう。

以上のような方法を効果的に用いて、弁士はどの聴衆よりも当該テーマに関する知識に明るくなければならない。

第二節文章表現能力

前節で述べた知識の内面化を一定程度達成した後は、それらを言語化し文章に表わす必要が発生する。三千字程度という限られた文字数の中に情報を盛り込み、同時に聴衆を説得する為には、簡明かつ豊かな文章を作成する能力が不可欠である。

この部分に関しては第三章でより具体的に説明するが、三島由紀夫が「バルザックは毎日十八時間小説を書いた。本当は小説というものはそういうふうにして書くものである」と述べたように、字数に応じて構成を練る能力・「伝えたいこと」を精確に言語化する能力は実際に文章を書かなければ身につくことはない。そうしたトレーニングを積まず、大

会前に慌てて弁論を作っても良いものはできないのである。

であれば、少し長めの文章を日ごろから作成する習慣をつけておくことが必要となってくるだろう。少し長めの文章を書くのであるから、その際は無計画に書きださず、大まかな一連の構成をきちんと定めてから書き始めていくべきである。そしてその構成が一本の線としてクリアに繋がっているかどうか、多方面から絶えず検討していく必要がある。更にそれが終わった後は、構成としての一要素(後述する政策弁論であれば原因や解決策など)内の論理を、またより細かい部分では、一文における文章表現に関しても十分な検討を加えるべきである。我々は言葉でしか聴衆に訴えることはできないのであるから、その一語一語の細かなニュアンスの違いやリズムの差に常に敏感であり続けなければならない。

第三節 声調態度

最後に声調態度について説明していく。この声調態度が、前節で述べた「知識量」や「文章表現能力」と同様に、もしくはそれ以上に重要なものであることは間違いない。聴衆は弁士の論文を書き見するのではなく、声や身振りによってのみ、その弁論の情報や弁士の熱意を認識するからである。

声調の練習方法としては一般的な発声練習が挙げられる。腹式呼吸を習得し、声量やその聞き取りやすさを向上させる。これは短期間で身につくものではないため、最低でも一ヶ月ほど前から継続的に練習するべきである。また、聴衆は弁士の声だけではなく、その姿勢や態度にも注目している。故に弁士は、演練の段階で自らがどのような姿勢で弁論を行っているのかを把握し、改善をしていく必要がある。その為に、演練時にビデオカメラなどで撮影する、傍に姿見を置くなど、常に工夫をしながらその向上に努めていかなければならない。

また、弁論原稿が次第に固まってきたら、内容を何度も読み込んでいく。本番では原稿がなくとも支障がないまでになっていることが望ましい。

最後に、弁士と聴衆の関係にふれておきたい。弁士にとっての聴衆とは、貴重な時間を使い自身の主張を聞いて頂いている存在である。故に演壇にたつ以上、常に真摯な姿勢を崩してはならない。しかしだからと言って、決して聴衆が弁士の優位に立っているわけではない。我々が聴衆として大会に参加する場合は、演壇に立ち雄弁を奮う弁士に敬意を払い、誠実な態度で批判をするべきである。多数派の暴力に迎合してはならない。

第三章「弁論の書き方」

第一節 弁論の種類

雄辯部の主たる活動の一つである弁論とは、以下のように説明される。

一口頭で述べられる言葉のみで

二自ら考えた価値、主張を

三聴衆に理解、納得させること

さらに細かく説明すると、弁論の発表は主に大会でなされ、雄辯部においては合宿も主たる弁論の場である。前者は、更に学生の弁論部が主催する学生弁論大会と、法人、公的機関が主催するものに大別される。弁論大会は複数の弁論に優劣をつけることによって、互いの研鑽練磨と、意見の発表を目的とする。その形式や審査方法は主催者によって差異があるが、多くが以下の様式に沿って行われる。

まず、形式については学生弁論大会では十分前後の弁論時間の後、やはり十分から二十分程度の質疑応答を行うのが一般的な形式である。さらに、弁論と質疑を行っている間は野次が許可されることが一般的であり、よって、聴衆は弁士の語った内容や態度に、任意の機会に注文や不満、注意を述べる事が可能である。

次に審査方法については、多くが主催者の招いた審査員による点数式の審査が一般的であり、内容と声調態度の両面から審査を行う。よって、審査結果については、一聴衆である審査員の主観によるところが大きい。よって、もし高評価を望むのであれば、理解され、納得されなければならない。そのためには、より理解しやすい構成と、納得しやすい説得者としての弁士の姿勢が必要とされる。以下に示すのは、そのための参考にしていただくためのものである。

弁論は大別して以下の四つに分けられる。すなわち、

政策弁論

価値弁論

啓発弁論¹

経験弁論

である。以上の四つは、その性質上、上に行くほど普遍性が高く、評価され易い。次にこの四つについて簡単に説明する。

¹啓蒙という文言を要請の為、啓発と改めた。(’20年編集)

政策弁論

我々の多くが行うものがこれであり、正に「大学生の弁論」である。内容としては現状の政策の不備や問題点を明らかにし、かつその解決策を提示するものである。一般的であるが故に、テーマや構成によっては特徴なき弁論とされることがあるので、工夫を凝らす必要がある。

例 2011 年全国学生新人弁論大会飯倉一樹「安らぎのあさ」

価値弁論

学生弁論大会では稀にしか見ることが出来ないものであり、完成度の差が激しく、その分敷居は高い。政策弁論と比べて文章表現能力が強く求められる。政策が不十分な弁論を価値弁論と見做すことがあるが、それとは区別するべきである。内容は、現在普及していない価値観、非主流である価値観の利点を訴えるものになる。

例 2013 年福澤諭吉杯争奪全国学生辯論大会桐生常朗「文化の潮」

啓発弁論

今まで発見されていなかった制度や思想の普及を目指すもの。独自のものであるか認知されていないことが前提となるため、背景に相当な知識と思考が要求される。

例 アダムスミス「国富論」 マルクス「資本論」

雄辯部による足尾銅山鉍毒事件の啓発活動

経験弁論

高校生や、外国語弁論に多く見られるもの。普遍性が低く、テーマの共有化が難しいため、あまり大学生がやることは無い。

例 日本弁論連盟 <http://benron.jpn.ch/>

基本的に聴衆や審査員の前で論ずる以上、テーマはその会場内で共有されているものでなければならぬし、そうでなければ、そのテーマが公的な場で論じられなければならない理由を弁論内で述べる必要がある。そうした前提に加えて、訴えたいことの正当性、妥当性をできる限り客観的に判断しなければ、他者を説得するに至らないのである。

第二節政策弁論の書き方

次に具体的な弁論の書き方を説明する。

ここでは、学生弁論において最も一般的な政策弁論を例にとる。政策弁論とは、何らかの社会問題に対しての解決策を提案するものである。作成に当たって鍵となる言葉を挙げるので記憶に留めておくことをお勧めする。

い比較優位

ろ根本的瑕疵

は費用対効果

「い」は即ち当該問題の重要性についてである。何故、その問題を取り上げるのか、山積している諸問題の中でそれが解決されなければならない理由は何なのか、を他の問題との比較の中で示さなければならない。例えば、日本の安全保障の問題として核問題を取り上げたとする。さすれば、安全保障を取り上げた理由、さらに数ある安全保障政策のなかで核問題を取り上げた理由を説明しなければならない。

「ろ」は、その問題から解決策まで至るプロセスと関係する。上記の例に沿って、解決策に核兵器の保有を挙げたとする。であれば、その解決策が実行できない原因等を正確に分析しなければならない。ここの分析が誤りであると聴衆に指摘もしくは判断された場合、説得に至るのはほぼ不可能と言ってよい。

「は」は、解決策の妥当性についてである。再び、解決策の効果とは、即ち国際的影響力、安全保障面での自立、近隣諸国との武力の均衡等であり、費用とは、核兵器整備にかかる経費、近隣諸国の核武装の虞、国際関係の悪化乃至は孤立等である。この費用と効果を比較し、どれだけ効果のほう勝っているのかを説明しなければならない。

では以下に弁論を作成にあたっての大まかな流れを説明する。

導入

最初、聴衆の意識は散漫であり、目的とする方向に向かわせなければならない。そのため、興味を引く言葉や例示をし、注意を引くことが重要である。

現状分析

まず、今の社会構造・制度やその変遷を俯瞰し、弁論の対象となる社会の状態を調査・説明し、前提知識の共有を図る。ここで気を付けなければならないことは、分析すべき状況は、自らの問題意識に向かうものでなければならない。また、問題が発生する、或いは顕在化する以前の状態と、現状の問題が発生している現在との違いが何であるのか、ということを確認にしなければならないのである。

問題点

現在発生している問題を示す。社会問題というのは、何らかの価値基準から導き出されるものである。そして、ある人々の状態や危険性に対して、何らかの価値判断を下し、それを聴衆に納得させなければならない。気をつけるべきは、比較優位である。他の問題と比較したときの重要性を訴えねばならない。また、現状分析共々、具体例を示し説明すると理解されやすい。

問題の発展、影響

上記問題を放置したらどうなるのか、問題そのものの具体的損失、波及効果を説明し、危機感を煽ることで、解決策の必要性を証明する。ここをきちんと強調できるかどうかで解決策への期待感やインパクトが変化する。

問題の原因

ある社会問題が発生する過程には、様々な原因があるが、その原因の根本を発見できなければ解決は不可能である。何故なら、実際に解決策が解っていても解決できない問題というのは多々あり、それが解決できていないのは実際の原因、解決のための阻害要因があるからである。つまり弁士は、ある問題の解決を目指すのであれば、その問題が発生する、社会制度上の構造的要因を発見しなければならないのである。

解決策

政策弁論の花形である。ここからが他の何ものとも異なる政策弁論独自の部分である。上記問題を解決する具体的な方法を述べる。ここは「早急に是正」や「可及的速やかに適正化」などのような漠然としたものではなく「誰が」「何を」「どう」するのか、なるべく具体的に述べる必要がある。ここで気をつけるべきことは、問題の構造的要因に対して効果がなければならないということである。例えば、ある社会問題が、金銭的に解決されるものであった場合、即ち行政機関が予算をもてば解決できる場合、予算を与えるというだけでは解決したとはいえない。何故その問題を解決するための予算が認められないのか、その原因を解決しなければ、実現可能性は低くなってしまったり、将来再発する危険性が残ってしまうかもしれないのである。

解決策の効果

上記解決策を実施した場合に、どのような利点、恩恵があるのかを説明する。ここでは、政策の実行から利益発生の過程を順を追って説明し、解決策の実施を納得させるのである。しばしばこの部分を省略ないし簡略化してしまうことがあるが、政策効果は聴衆が最も聞きたいことの一つであるので、言葉を尽くす必要がある。

副次的利点

解決策導入に向けた動機付けとして、解決策実施の際に発生する、目的外の利点があれば、これも提示する。ただし必ずしも必要としない。

印象付け

最後に、弁論の趣旨に沿った言葉や、名言の引用、総括を述べて締めくくる。最後の盛り上がりで印象が変わるため、作りこみが必要である。

以上、政策弁論の書き方を順を追って説明した。ただし、ここで紹介した書き方や順序はあくまで一例であり、必ずしも上記の通り書くことが最善とは限らない。あくまで、弁論の内容によって最も理解されやすいように柔軟に変化させることが望ましい。

第三節文章作成

前章では文章表現能力について触れたが、ここではもっと具体的に、弁論作成段階、つまり原稿を推敲する上で気をつけるべき点を述べておく。

その点とは即ち、口語と文語との相違についてである。同じ文章であっても、文章として読むときと口頭で述べたときでは受け手側の印象が大きく変わってくる。

例えば、

「諸資本家階級の搾取的賃金雇用は健全なる人間生活の主たる阻害要因であり、諸国家に散在する労働者階級は帝国主義的志向を固持する諸勢力の打破を指向し、労働者階級に伍するを仮装せし法を施行した政府の輶晦を刮眼せねばならん」

という文章は、文章を一見すると解りやすい。だが口頭で伝わり易い文章ではない。これを実感するためには、まず一度音読してみると違いがはっきりわかる。まず、一文が長すぎ、主語述語が判別し難くなっている。次に同音異義語と音読み単語の多用により、初聞で詳細を理解し難い。そして、それらの複合により大変発音し辛い文章であり、滑舌が悪くなることから聞き手側は悪い印象を受けてしまう。つまり、原稿段階において、文章ごとに音読し、発音し辛い表現や同音、似音異義語を極力排除し、音読みの漢字表現は和語に置換し、一文が長くなりすぎないように注意すべきである。

以上の事柄に留意し、上記例文を書き改めてみる。

「我々、労働者の生活を苦しめている原因は、資本家たちによる不正な雇用形態である。今こそ、世界各国に散らばるプロレタリアートは、独善的な主張である帝国主義を守ろうとする連中を打ち破らねばならないのである。であれば、我々労働者にすりよるかのような政府の偽善になど惑わされてはならないのである」

第四節 質疑応答

質疑応答は、弁士と聴衆との対話であり、欠くべからざる要素である。聴衆は、時に意見を訴え、疑問をただし、或いは矛盾をつく。弁士は、反論し、教授し、喝破する。欠かすことの出来ない要素だからこそ、これを円滑に効率よく進めるためには弁士と聴衆双方に素養と姿勢が必要である。

また弁論・質問の内容を理解・整理するため積極的にメモを活用するとよい。さらに、限られた時間内で行われることから、両者とも発言を簡潔にまとめなければならない。質問1分以内、回答2分以内が望ましい。

一．聴衆

弁士に対して行う質問は、三種類に大別される。上に述べたとおり、意見の表明、疑問点の提示、矛盾の暴露である。そして、いずれの質問においても、それはより本質的で、実りあるものであることが望ましい。そのための思考における段階を説明する。

弁論は、作成される時点で段階的構成がとられる。すなわち、現状分析から問題点の把握、問題の影響、そして解決策という一連の流れがそれである。そして、弁論とは以上のことを前から順に積み上げていくものであるから、質問も、段階の初めから行うのである。更に、先に述べた三つの鍵となる言葉、比較優位、根本的瑕疵、費用対効果に沿って質問を考えるのが基礎となる。

無論これ以外の質問を行うことも非難されることではなく、むしろ独自の観点からの質問であれば、それが弁論の本質に近い部分への質問である限り奨励されるものである。しかし独自の観点であっても、前提に疑問を挟む余地があった場合には、空論の応酬になりかねないので、十分な内的検討が不可欠である。

なお、質問を行う際には、上に述べた事柄に沿って冒頭に説明を加えると、質問の意図が伝わりやすくなり、効率の向上、運営の円滑化が図られるので好ましい。以下に具体的に例示する。

「明大雄弁の濱英剛が質問させていただきます。質問は二点です。一点目は現状分析に関して、弁士はことさら地震対策強調していますが、なぜ、今、地震対策を急ぐ必要があるのかお答え願います。二点目は解決策についてです。弁士が提案された、被災者に対する直接支援のための年間千六百億円もの費用を捻出し、国民の理解を得ることは不可能ではないでしょうか。以上、二点についてお答え願います」

第6章 雄辯道

二. 弁士

弁士が質問に答えるとき、往々にして的確な回答でないことがあるが、原因は三つに大別される。

一つめは、質問が冗長にして散漫である場合。この場合、弁士は全てに答えようとせず、内容の中で重要だと思うところに端的に答える、という方法をとることである。

二つ目は、弁士の持つ情報や知識、思慮の外にある質問、或いは質問で指摘された矛盾が的確であった場合。

そして三つ目は、弁士が質問の意図を汲み取れず、或いは応答中に意図を取り違える場合である。このとき、弁士は質問の把握を的確に行うため、総体的な質問の把握を行う必要がある。まず弁士は、質問者が欲する回答を推し量るため、質問の発生原因について考慮しなければならない。

つまり、質問者が質問を行った理由である。具体的には、質問者と弁士における思想・価値観の差、現状に対する認識の相違、保有する知識量の差、といった理由が考えられる。この何れによるのかで、回答の仕方が大きく変わってくるので、質問の内容から質問理由を推し量ることが必要となる。次に弁論のどの部分に対する、どのような方向からの質問なのか、そして何を答えればいいのかである。どの部分とは、弁論の段階における、現状分析・問題の原因・影、そして解決策のいずれなのか、ということである。方向とは、比較優依・根本的瑕疵・費用対効果の三つの中のどれか、ということである。そして答えるべきものとは、論理的な蓋然性、数量・統計などの情報、具体的な例示の何れかである。

以上を踏まえ、聴衆の項で取り扱った質問に対する回答を示してみたい。

「質問ありがとうございます。お答えします。まず一点目の質問ですが、死者一万人以上、被害額百兆円超という首都直下型地震が起きる確率は十年以内に三十パーセントであり、正にこの瞬間に発生してもおかしくありません。よって地震対策は諸問題と比較しても早急に取り組むべき課題であります。次に二点目の政策に関する質問にお答えします。私の提案させて頂いた住宅再建制度ですが、住宅再建支援策を国民が欲しているのは、先の新潟地震からも明らかであります。固定資産税と同時に徴収するため財源は確保できますし、徴収される最高額が年五千万円ということもあり、家主には十分負担できる費用だと考えています」

以上のことを踏まえれば、弁論に対する質問と、質問に対する回答は、概ね効率よく進めることが出来る。

(文責：濱英剛)

第二部 「研究」

第一章はじめに

雄辯部の活動目的は「説得」にある。そしてその手段は「弁論」と「研究」に大別される。前者が口頭のみで行われるのに対し、後者ではレジュメ・パワーポイント等の媒体が使用可能であり、より多くの情報を正確かつ体系的に伝達することが可能である。この点が研究を行う部員の主な動機であろう。勿論弁論等との間に相互作用が存在するのはいうまでもない。

現在、研究担当の管轄となっている研究活動としては、

①合宿及び校舎研究における研究発表

(字数：一万字程度、発表：30分程度、質疑応答：20分)

②懸賞論文への応募

③プレゼン大会への参加

の三つが挙げられるが、本論考では①を主な対象として扱う。②③についてはその懸賞論文や大会ごとにテーマや形式が異なるので、この論考においては取り上げない。

この「研究道」の目的は雄辯部における研究を定義する共に、その作成方法を説明することにある。なおこの「研究道」は単なる概説に過ぎないので、実際に研究を行う際には末尾に掲げた参考文献を熟読されることを強く勧める。

第二章論文とは何か

我が部における研究発表は論文形式で行われている。論文とは「イタリアの地方自治体のパフォーマンスに最も影響を与えた要因は何か」「南条愛乃のμ'sにおける役割とは何か」といった明確な問いをたて、それに対する主張を提示することを目的とした文章である。論文には以下の要素が含まれていなければならない。

①問い。なるべく明確かつ限定的な問いであることが望ましい

②上記の問いに対する明確な主張

③主張を裏付ける論理的な論証

この「問い」「主張」「論証」の三要素が論文には必要である。

またこれらの「問い」や「主張」にはある程度のオリジナリティが求められる。先行研究の単なる要約ではなく、先行研究の成果を受け継ぎつつもそれを批判し、自らの独自性を主張する。もっとも学部生である我々がこの段階まで踏み込むことはなかなか難しい。

次章からは具体的に、どのような手順で行っていけば良いのかについて説明する。

第三章どのように問いを設定するか

前述の通り、問いを立てるところから研究活動は始まる。ではどのような問いを立てれば良いのか。まず初めに興味関心がある分野やあらかじめ勉強を重ねており土地勘がある分野等から大まかな研究分野を選択する。この選定に関しては完全に執筆者の自由である。

次にその分野における問題を具体的に、極めて小さな論点にまで絞り込む。論点を絞り込むことによって問題を深く追及する事が出来る。逆に論点を絞り込むことが出来ず曖昧なままで終われば、問題について深く掘り下げることは出来ない。この作業が論文の質を左右すると言っても過言ではない(図1参照)。漠然とした問い(例：「戦争とは何か」)は範囲を絞り込むべきであるし(例：「戦争とは何か〜クラウゼヴィッツの『戦争論』を中心に」)、先行研究がほとんど無く調査も難しいようなもの(例：「二郎系ラーメンと社会構造」)についてはその困難さから取り組むべきではない。



(図1)

論点を絞り込む際には留意すべき点が二つ存在する。一点目は、現実世界において重要な問いを立てるべきであるということ。二点目は、特定の学問分野の発展に貢献すべきであるということ。前者については、論を俟たないであろう。後者に関しては学部生たる我々にとっては発展編にはなるが、一応意識すべき点ではある。

この様な問いを立てて次の節で言及する情報収集に移るわけであるが、実際には両者は明確な前後関係にあるわけではなく、問いの定立→情報収集→新たな問いの定立→情報収集、といった風にリンクしている。最初に設定したリサーチ・クエスチョンに最後まで拘る必要はなく、修正した方が良い研究となるのであれば修正を行うべきである。

第四章情報収集法

研究の問いを設定した後、情報収集に移る。基本的には、文献の検索→文献の入手→資料の整理、といった手順を踏む。これらの過程で当該分野についての先行研究を網羅的に収集することが必要である。また可能な限り資料の正確を期すため、二次資料(誰かが他人の文献を引用したりしているもの)だけではなく、一次資料にまで立ち返って情報収集を行うべきである。社会的に立場のある人間でも、誤解や思い違いを犯すことはある。必ず自らの手で主張・発言の裏取りをすべきである。

文献の検索であるが、まず当該テーマについての新書や百科事典の項目を読むことを薦める。これらは論点が整理されていて概要を理解しやすく、またここから参考文献を幾重にも辿っていくことで欲しい情報や論文を手にする事が出来る。

また図書館やインターネットを活用することも出来る。図書館のホームページにアクセスすると、様々な二次資料を集めた文献目録へのリンクが存在している。「Web-OPAC」や「Ciniji-Articles」と言ったものである。ここから検索を行っても良いし、また図書館司書は文献検索の専門家であるから彼らを頼ることも可能である。インターネットに関しては出典の不明な情報があふれているが、それらは論文執筆には役立たない。必ず出典やソースが確かなもののみを利用すべきである。

また文献の入手についてだが、全ての文献が流通しているわけではない。大学や研究機関の紀要にしか収録されていない様な論文も存在する。これについては国会図書館等を利用するしかないだろう。また明治大学図書館では情報収集法についての講習会を定期的に行っているのをこれを活用するのも一つの手である。

第五章論文の形式

情報収集が一段落したら、いきなり論文を書き始めるのではなく、論文の大まかなアウトラインを作成する。この段階で論理構成を確認し、問題があれば修正し、なければそのまま執筆に入る。

第2章では、論文の構成要素として「問い」「主張」「論証」の三つが必要であることは述べたが、それを論文に昇華するには幾つかの形式を踏まえる必要がある。論文がレポートなどと区別されるのは、決まった「型」に則っているか否かに依る。非常に重要ではあるがここでは軽くしか触れられないので、研究を行う際には参考文献で挙げた書籍に必ず目を通して欲しい。

論文の形式としては、

- (1)タイトル・著者名・所属機関
- (2)アブストラクト

(3) 本体

(4) 注、引用・参考文献一覧

といったものが挙げられる。他にも IMARD 方式などがある。それぞれ一長一短あり、好みにあったものを選択すれば良い。

(1) タイトル・著者名・所属機関

タイトルは弁論における演題とは異なり、何を論じているのかを明確に示すべきである。

(2) アブストラクト

論文の要旨である。読者の便宜を図るため数百文字程度で全体の要約を行う。論文の目的、結論、それに至る過程、使用した方法論などを盛り込む。数万字以上の論文には必須であるが、そうでなければ序論として用いれば良い。

(3) 本体

基本的には①序論、②本論、③結論といった順に論を進めていく。

① 序論

序論で書くべきこととしては、

- ・ 問題の設定
- ・ 問題の説明。その背景や定義、また何故その問題に取り組もうと考えたのかについて
- ・ 問題の社会的、学術的重要性について
- ・ 先行研究の整理と批判
- ・ 使用する統計や方法論の説明
- ・ 全体の構成

などがある。

② 本論

- ・ 主張(仮説)を立てる
- ・ それを論証する(統計などの計量分析、事例研究などの質的分析)

基本的にはこの二つである。この論証のセクションが論文の中で最も重要である。

そしてこの論証には、論理学及び科学的方法論の知識が欠かすことが出来ない。紙面の都合上これにページを割くことが出来ないが、研究を行う際には踏まえておくことが望ましいので、必ず参考文献に目を通してほしい。

③ 結論

- ・ これまでのまとめ
- ・ 序論で立てた問いに対する結論
- ・ 今後の課題
- ・ 謝辞

第6章 雄辯道

などを書く。

(4) 註、引用・参考文献

論文には、注、引用・参考文献が必ず明示してある。それは第一に情報の論拠を明示し、信頼できる情報であることを示すためであり、そして第二に引用と剽窃を区別するためでもある。近年 STAP 細胞問題などの研究不正問題が世間を騒がせているが、研究不正には実験結果が出ていないのに出ている様に装う偽装だけではなく、引用元を明記せずに引用する、他人の著作物をそのままコピーするなどの剽窃も含まれる。剽窃は他人の成果を自らのものとする知の窃盗行為であり、決して許されるものではない。学位論文や著作物でこれらが発覚した場合、学位の取消や損害賠償の対象となる場合がある。

それ故、他人の書いた文章やデータ、知識を自らの文章の中で用いる際には、それぞれ出展を必ず明記する必要がある。また文章を要約する、データに手を加えている場合でも、その旨とともに出典を示すべきである。以下それらについての簡単なルールを紹介する。なお様々なやり方が存在するので、自分の好みに合った方法を選択すると良い。

① 注

注に関してはワードの脚注・後注機能を使用する。注の基本的な役割は、読者の理解を助けるために説明したいが、本文の中でそれに触れてしまうと脱線してしまう場合や用語説明、引用等の場合に用いる。

② 引用・参考文献

文章を引用する場合、1・2 行程で短い場合は「」でくくり、それ以上の場合は前後を一行開け、2 文字程度下げる。引用の仕方としては、

三世紀のキリスト教社会についての通説的見解は以下の通り。

三世紀はキリスト教社会の発展の中で一つの段階を画している。ユダヤ教の社会から抜け出したキリスト教は、いまやギリシア・ローマ的世界の中で発展する。キリスト教は新しい状況に直面する(ダニエルー1996、p.364)。

.....

参考文献リスト

ジャック・ダニエルー著、上智大学中世思想研究所訳『キリスト教史 1』(平凡社、1996)

の様に注記では著者名・発行年月日・ページ数のみを記載し、論文の最後に参考文献リストとして詳しい情報を載せるやり方が一般的である。いずれの方法を用いるにせよ引用及び参考にした文献のリストは必ず作成し、論文の末尾に添付する。

書籍の場合は著者名、題名、出版元、発行年(西暦)を書く。論文の場合、著者名、論文名、掲載雑誌名、出版社、発行年を書く。書籍名・雑誌名等の場合は『』でくくり、論文名の場合は「」でくくる。

翻訳書の場合には翻訳者を、編書の場合は編者を示した方が良い。

③図表・データ

統計やデータを使用する場合は、文献同様必ず出典を明記する。またなるべく最新のデータを用いる、一次資料を使用する、などの配慮が必要なのは論を俟たない。

終章研究はどうあるべきか

ここまで駆け足で研究の作成方法について見てきた。読者にもある程度のイメージは掴めたと思う。この章では雄辯部における「研究はどうあるべきなのか」について簡単に述べて、これまでのまとめに代えさせていただく。なおこの研究かくあるべき論に関しては執筆者の完全な主観に基づくことをあらかじめお断りしておく。

なぜ研究を行うのか。その理由は第1章で挙げた様に、時間や発表方法の関係で弁論よりもより多くの情報を正確かつ体系的に伝達出来るということにある。逆に考えれば、その伝達内容は弁論より体系的かつ専門的でなければならないということでもある。ここから主張内容(仮説やそこから導き出される政策)とその論証(方法論や論理学等による妥当性や有効性・実現可能性の証明)精緻化が導き出される。主張内容が学術的に高度且つ社会的意義が高いことなどと同時に、その論証も高度に行われなければならないのである。

ここで問題になってくるのが「論証」と「説得」の関係性である。定義は様々あると思うが、ここでは便宜的に前者を「主張を方法論・論理学等によって証明すること」、後者を「主張が他者に受容されること、またそれによって他者の行動が誘発されること」とする。両者の関係は単純な＝では決していない。読者にも弁論大会において「いや、それはねーよww」と思っていた弁論が入賞して困惑した経験があろう。必ずしも論理的に妥当でなくとも説得に成功してしまう場合も存在しうるのである。

では研究において両者の関係はどうあるべきか。執筆者は、研究は「論証」に基づく「説得」であるべきだと考える。何故なら根拠なき主張や間違った根拠に基づいた主張により説得されたとしても、それは社会に良い影響を決して与えないからである。極端な例だが、連合赤軍等の新左翼が挙げられるだろう。彼らは、価値判断の基準や社会変革の方法論として毛沢東主義や世界同時革命論などの科学的でない誤った理論を採用したことで、凄惨なリンチや内部分裂が横行し、結果的に日本社会に影響力を持つことが出来なくなった。ソ連や文革時の中国も同様である。あくまで、合理的な「論証」あってこそその「説得」なのである。それを踏まえた上で、研究においても分かりやすさやユーモア等を駆使して「論証」を「説得」に昇華させることが求められる。

字面だけ見れば簡単に見えるが、現実世界において「論証」に基づいた「説得」を行うことは容易ではない。世間の思い込みや偏見、政治的圧力や官僚機構の壁が存在するからである。その一例として、アベノミクスのインフレ・ターゲットが挙げられる。日本がデフレ状態を脱却するためにインフレ・ターゲット政策が有効であることは1990年代後半から海外の学者を中心に指摘されていたが、それが日本の一部の学者に受容され、さらに

第6章 雄辯道

政治家に受け入れられるまで10数年の歳月と安部晋三・黒田東彦といった優れたリーダーの登場が必要だった。説得活動は、主張内容の正当性などの合理的要素の他に、発表者の人格的威信・社会的評価・聴衆の思い込みなど様々な非合理的要素にも左右される。だからこそ難しいとも言えるし、だからこそ面白いとも言える。

この「研究道」を読んだ上で、実際に研究活動に取り組んでくれる気概ある部員の出現を願って、終わりに代えさせていただく。

参考文献一覧

戸田山和久『論文の教室』（NHK ブックス、2012）

小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社、2008）

川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術』（頸草書房、2010）

G・キング他、真淵勝監訳『社会科学のリサーチ・デザイン』（頸草書房、2004）

一橋大学大学院社会学研究科「学術論文の書き方」

<http://www.soc.hit-u.ac.jp/~takujit/tebiki/tebiki2.html>

平成28年3月8日閲覧

立命館大学大学院経営学研究科「論文の書き方～M1 学生のために～」

http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/gr/gsba/material/3_3_1.pdf

平成28年3月8日閲覧

（文責：下川真史）

第七章 部員紹介

質問事項

- ①学部(学科)学年
- ②生年月日(yyyy/mm/dd)
- ③出身地
- ④役職・元役職
- ⑤趣味
- ⑥理念
- ⑦好きな弁論
- ⑧今年度一番の思い出
- ⑨明治大学に物申す！
- ⑩自分を漢字四字で表現！
- ⑪雄辯部の入部者がいきなり急増した、なんで？
- ⑫自由記述

131 期

生方 遥斗

- ①情報コミュニケーション学部 4 年
- ②2001/04/05
- ③埼玉県立上尾南高校中退
- ④131 期和泉支部長/副代表
- ⑤失恋した後輩の観察
- ⑥「大きな物語」の失墜をふまえた現代における倫理的なあり方の探究
- ⑦加古の卒論(上述の倫理的課題についてヤングケアラーという具体的事例から考えられている)
- ⑧大河原の闇落ち(ジャヤビと同じことしか言わなくなって笑った)
- ⑨来年度から東大の学生だから眼中にないな、ごめんね。
- ⑩悲喜固守
- ⑪結局のところ菅澤先輩がイケメンだったからなんだよね。
- ⑫完全に雄辯部を離れ、弁論をやることも見ることもなかった1年でしたが、12月に久しぶりに少しだけメンターをやったところ、それまで気づいていなかった弁論の奥深さが垣間見えました。皆さんも、いつかは卒業して雄辯部を離れ、それぞれの仕事に励んでいくことになると思いますが、それからもう一度弁論を書いてみると、また違ったものが見えてくると思います。自分の仕事にも役に立つような新しい発見があると思います。ですから是非、また弁論をやってみてください。……とはいえ、卒業後に弁論する機会なんてそうそうないですよ。そんなあなたのために私たちは8年後(?)に

結婚記念弁論大会を開催します。弁士募集中なので、出たい人は彼女に声をかけておいてください。

加古 哲朗

- ①情コミ学部情コミ学科 4 年
- ②2002
- ③愛知県
- ④元研究局長
- ⑤読書
- ⑥顧みること
- ⑦今年の紫紺杯で見られるであろう弁論
- ⑧いろいろ！
- ⑨和泉ラーニングスクエア前の改装で木々が減って視界が開け人間が吹き溜まり居心地が悪くなった……
- ⑩触折触気(～折に触れて気が触れる～)
- ⑪世も末
- ⑫自由の重みに筆を折った！ぽきん！

上林 未侑

都合により不掲載

川嶋 健吾

- ①政治経済学部経済学科 4 年
- ②2002/03/06
- ③岩手県盛岡市・盛岡中央高校
- ④元弁論局長
- ⑤麻雀・スイーツめぐり
- ⑥遠近法主義
- ⑦加古哲朗による全ての弁論、「E. T.」
「めいじろう解放戦線」「知るべきことは知らねばならぬか?」「一貫性に縛られる」「きゃべつ」「みんなで緑酒を」「最後の想いと最初の一步」「見えない

ところ」「弁論を人類学する」「新しいドキュメント(1)」

- ⑧下田に海水浴行ったこと
- ⑨リバティタワー喫煙所無くなったことで横道に路上喫煙が大量発生してるんですがどう責任とってくれるんですか？
- ⑩眼高手低
- ⑪俺が世界征服を達成して雄辯部を宣伝したから
- ⑫ここまで書いた時に過去の駿台雄弁で自分が何を書いていたかを振り返って見たんですが、図らずも大体同じこと書いてるんですよね。もしかして四年間で大して成長していない…？

木村 荘太

- ①文学部史学地理学科 4 年
- ②2002/02/09
- ③佐賀生まれ・新百合ヶ丘育ち
高校は神奈川の自称進
- ④元駿台雄弁担当・元駿河台本部長
- ⑤旅・麻雀・アニメ漫画・ゲーム
『アリスとテレスのまぼろし工場』
→今年度で一番良かった作品
- ⑥321『見えないところ』
原点にして頂点
- ⑦日本縦断・横断旅行 with YBK の某同期
- ⑧文学部はいい加減卒論の紙提出をやめろ
- ⑨不弛旅路
ストイックと異常旅行だけの人生なので
- ⑩運が良すぎたから。
- ⑪私学生終わり
将来の不安
大きな絶望
逃げられない

高見 遼太郎

- ①法学部法律学科 4 年
- ②2000/08/15
- ③東京都・私立城北高校
- ④元企画局長・元マッスル研究会会長
- ⑤筋トレ、麻雀
- ⑥実存主義
- ⑦忘れた
- ⑧落とした瞬間に留年が確定する必修科目の試験を乗り越えたこと
- ⑨卒業要件単位を減らせ
- ⑩一喜一憂
- ⑪めいじろうが雄辯部に入ったから
- ⑫最近、「させていただく」という表現の濫用にとっても違和感を覚える。「致します」で良くない？

武知 璃々花

- ①学年文学部文学科英米文学専攻 4 年
- ②2001/10/14
- ③愛媛県松山市 愛光学園
- ④広報局長・新歓シンクタンク長
- ⑤麻雀
- ⑥継続は力なり
- ⑦〇〇の本質について
- ⑧上半期は就活、下半期は麻雀
- ⑨ラーニングスクエア出来るの遅いです
- ⑩試行錯誤
- ⑪本田真凜入部
- ⑫4 年間の楽しい雄辯部生活ありがとうございました！

第7章 部員紹介

白 君義秀

- ①法学部法律学科 3 年
- ②2002/01/22
- ③兵庫県芦屋市 神戸大学附属中等教育学校
- ④元渉外・第 11 回全日本学生弁論大会実行委員長
- ⑤ワイン活:資格取得目指してます! 写真撮影、観葉植物(パキラ)飼育、建築物スケッチ、ドライブ
- ⑥ウルトラマンの『青春』
- ⑦精進勇猛 猪突猛進 順風満帆 恭喜发财
- ⑧とあるテレビ局のインターンシップでヌンチャク振り回して、現役お局アナウンサーにあててしまい、会場で悲鳴が上がったこと。
- ⑨法学部事務室の女性スタッフ顔採用やってくるだろ。
- ⑩笑門来白(そこに白はいました)
- ⑪時代が我々に追いついた。
- ⑫2023 年度は七転び八起きの七転びしかしていないような年でした。しかし、トンネルの向こう側は見えてまいりました。ここから。ここから。強い気持ちで頑張ってまいります!

平田 理恵

都合により不掲載

藤川 太暉

- ①法学部(法律学科)4 年
- ②2000/05/30
- ③東京都府中市・渋谷教育学園渋谷中学高等学校
- ④' 24 年 2 月まで駿河台本部長, 131 期代表, 総務担当(現局長), 新歓担当, 第 25/26 回紫紺杯実行委員長

- ⑤読書, 議論, 飲酒, 喫煙, 競馬
ここ最近やっていることは全部趣味の範疇。全く、幸せなことで。
- ⑥自由意思, 自己選択, 自己責任
複雑系の社会に生きるからこそ人は自他両方の理解を諦めてはいけないし、もし諦めてしまうのであれば人は自由であるべきではない。
- ⑦川嶋健吾『吾、継承者たらん』, 長澤慎太郎『期待する。この文化(以下略)』, 倉持太介『ヤングアダルト』, 大屋敷輝喜『雄辯道』, 天野僚『新しいドキュメント(1)』, 原田拓実『“誰が”大学教育を変えるのか』
- ⑧順番のつけようがない。全部。ただ、感情の起伏が一番激しかったのは間違いなく紫紺杯。
- ⑨リバティータワーの至近に喫煙所を、在籍原級時の学費減免制度を作れ(なんで早稲田にあってウチにないの?)
- ⑩「游」往「迷」進
- ⑪また、同時代に複数人の総理大臣とテ〇〇トを輩出した
- ⑫卒部の辞に譲ります。

吉田 健太郎

- ①経営学部会計学科 4 年
- ②2000/03/15
- ③沖縄→福井→千葉
- ④砂漠に水を撒く係
- ⑤ゆっくり歩いてたくさん水を飲む
- ⑥It is more blessed to give than to receive.
- ⑦今年聞いてないのでナシ
- ⑧鬱病患者の回復過程を見れたこと

- ⑨評議員を慶應みたいに推薦できる制度にしよう
- ⑩曖昧模糊
- ⑪房子が新歓講演
- ⑫卒部の辞に書いたのでナシ

132 期

大川 武豊

- ①文学部4年
- ②1999/7/30
- ③千葉
- ④ない
- ⑤語学
- ⑥Д а з д р а в с т в у е т д р у ж б а !
- ⑦毛泽东『新民主主义的宪政——二月二十日在延安各界宪政促进会成立大会的演讲』(1940年2月20日)
- ⑧三重で女子小学生とチャリレースしたこと
- ⑨死ね
- ⑩善根薄少
- ⑪そんなことはない
- ⑫合理と理性は無慈悲です。計算通り、完璧〜♪

可児 奈央未

- ①政治経済学部(地域行政学科)3年
- ②2003/02/22
- ③神奈川県横浜市
神奈川大学附属高等学校
- ④元広報局長
- ⑤ハイキング
- ⑥やる時はやるけどあとはのんびり

- ⑦今年度大会に出席してないため無回答といたします。
- ⑧大学のプログラムで木村(そ)先輩と藤川先輩と島原半島を訪れた際に、町中にたくさんの有害図書回収ポストを発見したこと。中はどれも空でした……残念。
- ⑨大学事務室に電話すると、毎回保留音のクソデカ校歌で鼓膜がやられるのでもうちよい静かにしてほしい。
- ⑩守破離
- ⑪国策
- ⑫正規活動への参加は紫紺杯のみで1年が終わりそうです。来年は先輩から受け取ってきた機会や知識を少しでも後輩に還元できればと思います。

亀山 司

- ①法学部3年
- ②2002/06/26
- ③和歌山県・和歌山県立田辺高等学校
- ④元弁論局長
- ⑤Vtuber(広義)、シチュボ・ASMR(狭義のV)
殊座(転生先→天使珠)はいいぞ
- ⑥アイデアとしての女性は格別、女さんは抹消せねばなるまい(味噌味噌ミソジニー)
- ⑦「ファッションに自由を」(東大のだから)
- ⑧トーキョーゲームショウ
- ⑨市民に迷惑かける学生を飼い慣らすためにも喫煙所は必要です
- ⑩質実剛健?
- ⑪オーイシ×加藤のピザラジオ ディベート王決定戦にオファーされたから
- ⑫一橋ロースクール行って学歴ロンダりたいです(悲願)

河野 皓星

①文学部心理社会学科3年

②2002/05/29

③愛知県 愛知高校

(県で一番頭のいい公立です、みたいな
名前をした中の上の私立)

④無職

⑤コーヒー、サウナ、筋トレ、二郎、英語
の勉強、散歩、生活環境の改善、目標を
追うこと

不本意ながら社会に学歴厨をさせられて
います『絶対的な学歴厨ねばならない』

⑥「やる気ではなく、やり方」「性弱説」
「死にたくなったら寝る」

「ひとに会うときはそれが最後かのように
大切に過ごす、見送る」

最近好きな言葉

『なぜなら、君は友にとって超人を目指
して飛ぶ一本の矢 憧れの熱意であるべ
きだから』

『君の行動の理由や、またその目的が君
の行動を善とするのではない。その行動
をするとき君の魂が打ち震え、光り輝い
ているかどうかである』

『どんな風をも追い風にして 私は帆を
張る』 ニーチェ

『したがって我々は急がなくてはならな
い、それは単に時々刻々死に近づくから
ではなく、物事に対する洞察力や注意力
が死ぬ前にすでに働かなくなってくるか
らである』 マルクス・アウレリアス

⑦ここ1年半以上弁論聞いていない

⑧『絶対内定』という本を読んで「自分は
大学院に行きたかったのか」と気が付いた
瞬間。人生に何度とない雷に打たれた

瞬間だった。皆さんは自分の本当の感情
や夢を抑圧していないですか？

⑨ただただ、感謝。

⑩近代囚人

⑪新歓がしっかりプロモーションできてい
たのではないのでしょうか。特に今年は良
かったと聞いています。関わった方々、
お疲れさまでした。

⑫将来僕が犯罪者になった場合、この文集
のどこかが恣意的に編集されそうでめつ
たなことを書くのが怖いです。

さてこんにちは。河野といいます。

「誰だてめえ」という声が聞こえてきそ
うですが、134期の皆さんはほぼお会い
しないまま1年が経とうとしています
ね。とても残念です。

133期の後輩たちや131期の先輩方にお
会いできていないのも大変さみしい。

さみしさが募ってたくさん書いてしま
いました。大河原君ごめんね。今年度こそ
はなるべく顔を出したいなあと思いつ
つ、受験生なのでどうなるかはわかりま
せん。

簡単に自己紹介をすると僕はADHDと
いう発達障害を原因に鬱病になった人間
で、今はどうすれば自分のような人間を
産み出さない社会に作り変えられるかを
考えるため大学院進学を考えています。
もし後輩諸氏の中にそういう傾向の方が
いたらぜひ話しましょう。

理想社会が自己否定から入っているの
でなかなかしんどいです。自己否定と復讐
心を社会に波乱を起こすためではなく、
勝ち抜くか構造を作り変えるかして昇華
しようとしています。「犯罪者になった

場合」というワードはここから来ています。

何かここに書けることはないかと探したのですが、とにかく後輩の皆には大学生生活を楽しんでほしい、心から楽しんでほしい。と思います。

喜怒哀楽のすべてをぶつける体験をしてほしいと思います。こういうことを言う上級生には絶対にならないと決めていたのですがやはり「大学生活はあっという間」でした。

1, 2年はそうならないようにとにかくがむしゃらでしたが3年は就活という人生の節目に完全に憔悴しきって本当に何もできなかった、いつの間にか過ぎていました。

(そのおかげでやりたいことも見つかったのだけれども)

とにかく時間は限られている。いつ死ぬかもわからない。今が一番若い。

邁進してもいいし寄り道をしまくってもいい、飲みまくれるというのも羨ましいし下戸同士で陰口を言うのも良い、

とにかく自分のやりたいこと好きなことで人生を埋め尽くしてください。老若LGBTq+、健常者障害者誰にとってもその人の人生はクソツタレ、かつ素晴らしいことに、自分の物なのですから。

明治大学と雄辯部を楽しみつくして下さい。

なんとかやっていこう。自由に、生きていきましょう。

河野皓星(薬を飲み忘れて死ぬほど鬱になりながら)

木村 光樹

①農学部3年

②20002/08/08

③町田・町田高校

④代表

⑤ポピュラー・アングラ音楽、映画鑑賞・寺社仏閣巡り・

⑥人の生き様・文化を自身の内部にコレクションすること。転じて時代を写し警鐘を鳴らし続ける芸術の力を信じ、保護すること

⑦たてかん

⑧榛名神社・起雲閣での身体が打ち震える感動・『トゥモローワールド』のラスト長回しでの号泣

⑨理系への資金増やせ。国に抗ってドクターを増やせ。

⑩付和雷同

⑪言論への限界を感じた部員が国会を襲撃し極左の拠点になったため

正躰 幹人

①情報コミュニケーション学部情報コミュニケーション学科3年

②2001年12月23日

③岡山県津山市

明誠学院高等学校特進Ⅲ類

④駿河台本部長・前副代表代行
元総務担当

⑤ラーメン二郎巡り

⑥我らここに励みて国安らかなり

⑦「失われた価値を取り戻す」

⑧文部科学大臣杯に両親が観戦しに来てくれたこと

第7章 部員紹介

⑨就活期になり、縦のつながりに助けられることで就職の明治を実感しています。

校友会には頭が上がりません。

⑩二郎増増

⑪一般入試比率が高まり、全体として学生の意識が高くなっている。

⑫資源系の企業を目指して就活中です。何卒よろしくお願いいたします。

砂川 勇樹

①文学部文学科 4 年

②2000/09/10

③東京都・帝京大学

④マッスル研裏部長

⑤旅、サッカー、読書

⑥旅に綿密計画を立てるな
常に動いて、自分を疑え

⑦阿久津勇人「子曰、辭達而已矣」

⑧初海外旅行

⑨文学部の 5 割を留年させろ

⑩ 四面楚歌

⑪“本当に”増えたのですかね...

⑫これを執筆している今、私はコソヴォに
います

立花 姫菜

①商学部 3 年

②2003/3/3

③埼玉・大宮高校

④元弁論副局長

⑤ライブ参戦、国内旅行

⑥自己開示

⑧旭川旅行

田村 海渡

①学部 3 年商学部

②2003/03/31

③群馬県藤岡市 高崎商業高校

④元書記局長

⑤料理、vtuber、ギター、キャンプ、ドライブ

⑥努力・自由・信仰

⑦colors

⑧メルボルン旅行

⑨学費安くならんか？

⑩行雲流水

⑪よその文化系サークルが不祥事で消滅

⑫流刑が終わり、仮釈放されました。

手崎 信吾

①文学部史学地理学科 3 年

②2002/08/22

③千葉県・佐倉高校

④元選挙管理人

⑤サッカー観戦、旅行

⑥自信を持つこと。
傾聴すること。

⑦今年全然聞けてないです…。

⑧学部の友達「手崎って雄辯部っぽくなく
ね？」

雄辯部員「でもあの人には芯がある
んで」

↑こんな会話があったと知ったこと。め
ちゃくちゃ嬉しかったです。

⑨この前の入試で、バイト先の塾の担当生
徒(明治第一志望)を不合格にしたことを
許さない

⑩聖人君子

⑪時代が我々に追いついただけの話

⑫今年はあんまり活動いけませんでした。
就活とか資格とか落ち着いたらまた戻ります！
最後に大河原へ。提出遅れてごめんなさい。

橋本 篤

都合により不掲載

本村 航輝

都合により不掲載

渡邊 有生斗

- ①商学部商学科 3 年
- ②2003/01/18
- ③山梨県富士吉田市・県立吉田高等学校
- ④132 期会計局長/会計監査
- ⑤Spotify
- ⑥不毛の実質をその細い先端にて超える
- ⑦「見えないところ」
- ⑧東北バス旅
- ⑨図書カードなどが欲しい
- ⑩深根固柢
- ⑪吸収合併
- ⑫書くことがないので、最近良いと思った本を数冊挙げておきます。大西巨人『神聖喜劇』（光文社文庫）、加藤周一『羊の歌』（岩波新書）、佐藤卓己『『キング』の時代』（岩波現代文庫）。

133 期

石井 深優

- ①政治経済学部経済学科 2 年
②200×/09/29
③東京都渋谷区生まれ目黒区育ち足立区在

住←ナゼ

- ④会計監査
- ⑤猫を愛でる、テトリス
自室に引きこもる
- ⑥捲土重来を期す
- ⑦肱元さん「共に生きる」玉田さん「言えない」内藤くん「隠された強迫」久保田さん「あなたのそばに」
- ⑧瀬川くんに招いていただいて部員みんなで観に行った花火大会
- ⑨単位をください
- ⑩一暴十寒
- ⑪外患誘致を企て公安が部員として入ってくるようになった
- ⑫雄辯部に多くのものを貰ったというのに、何も還元できず日々無力さを感じています。美しく消える方法を模索中です
チビチビ ♪チャパ°チャパ° ♪トウビ°トウビ° ♪ダバダバ° ♪ハッピ°ーハッピ°ーハッピ° ~~~♪

植田 陸

- ①文学部 2 年
- ②2003/06/28
- ③東京都八王子市出身・桜美林高校
- ④なし
- ⑤映画鑑賞(ヤクザ、マフィアもの)
- ⑥京王線永山駅の特急剥奪
- ⑦古都、再考
- ⑧同期、先輩方と行った下田旅行
- ⑨Wi-Fi を強くしてくれ！
- ⑩元気潑刺
- ⑪横浜流星主演の月 9 ドラマ、「弁士演台
を降りろ！」が大ヒット
- ⑫あなたがこれまで犯してきた罪は「機動
戦士ガンダム SEED FREEDOM」を見
ることで赦されます

大河原 優人

①政治経済学部政治学科 2年

②2004/03/18

③東京都豊島区(東京10区)、私立成城高校

④駿台雄弁担当・前和泉支部長・マッスル研究会会長

⑤主に三つある。

(1)旅行

大学2年生になって旅行の範囲と行動力がレベルアップした。

鈍行のみで東北一周、四国&九州上陸、雄辯部大阪合宿後に夜行バスで広島観光&中国地方進出をした。

大学1年生終了時は最北端福島県二本松市、最西端兵庫県姫路市(沖縄県を除く)までだったけど今は最北端青森県青森市、最西端福岡県北九州市(沖縄県那覇市)となった。

最小コストで最大限の体験をできる旅をするのって楽しい。鈍行って新幹線や特急より移動に時間かかるけど、鈍行でしか見られない景色もあるし、なにせ乗り換えと乗り換えのあの時間が最高。乗り換えの合間が1時間もあれば駅前の地元の食堂に行って美味しいご飯を食べてお土産買って現地でしか味わえない味をたくさん味わえる。

鈍行旅行の乗車時間も伸びた。今まではたいてい1日Max9時間とかだったけど今年になって12時間近く乗ったりもした。

(2)音楽

音楽の中でも洋楽、洋楽の中でもさらに細かく言うとEDMをよく聞く。

好きなアーティストはダントツのThe Chainsmokers。最近になってKygo、Gryffin、Vicetone、Beachcrimes、DEAMNの良さに気付いてきた。

Zedd、Porter Robinson、David Guettaは相変わらず聞いている。

EDM以外の洋楽で言ったらCharlie PuthやColdplay、Owl City、5 Seconds of Summer、Imagine Dragons、ONE OK ROCKとか？

UltraJapan2023とGMO

SONIC2024、激アツすぎたね。

(3)ラーメン

家系ラーメンと二郎系ラーメンをたくさん食べた。なんか顔がアブラでテカってるって言われたことあるけど絶対使ってる保湿剤のせい。いい加減別のやつに買い替えなきゃ。

1.家系ラーメン

明大前武蔵家、吉祥寺武蔵家、見田家、山本家、おうじ家、生田に最近できた明豊家、池袋商店、魂心家、ひじり家、横浜家系ラーメン孝太郎、皇綱家、ラーメン春樹、武将家とかとか。

2.二郎系ラーメン

本家二郎でいったら、5月に開店した生田二郎に加えて湘南二郎、新宿小滝橋、池袋二郎…あんな本家は食べなかったな。

インスパイアで言ったら鷹の目、もみじ屋、らーめん大、らーめんPit、豚星、豚山、豚島、野郎ラーメン、盛太郎とかとか。

⑥出自に囚われない機会の平等

⑦2022 國學院杯 生方遥斗『不適合家であるために』

2024 紫紺杯 川嶋健吾『吾、継承者たらん』

⑧この一年間で数え切れない程の楽しい思い出とどうしようもないくらいの辛い思い出をした。ほんとにジェットコースターに乗ってるみたい。強いて挙げるなら何だろう…無事に成人式を迎えられたことかな。(おばあちゃん泣いてくれた…)

⑨春にスペイン語の再履修を落とししました。政治経済学部では2年生から3年生に進級するにあたって英語3単位&第二外国語4単位&総合36単位が必要とのこと。政治経済を修めるために進学したにも関わらず、進級要件に政治経済学問単位が含まれていない上になんで第二外国語4単位も必要なの??これで進級出来なかったらどうするんだ!…なんて言えるのは落単したことがない人なんです。自分がこんなこと言ってもただの言い訳になっちゃうから…。なので文句は控えて頑張ります(無事進級できました)。でも法学部政治学科じゃなくてあえて政治経済学部政治学科を設置した理由のように政治経済双方が影響し合うからこその政治経済学部じゃないの??経済の授業も必修化しないと自分みたいに一個も経済の授業を取らずに半分学生生活が過ぎちゃう人出ちゃうよね。あ、学部へ物申しちゃった。大学に物申したいこと!男子トイレの個室少なすぎ!特に和泉図書館!あと全体的に事務室対応遅いことある(政経のゼミ資料公開するの遅すぎた、勘弁して)。あとあと和泉キャンパスの教室、コンセント使えないところ多すぎ!メディア棟のほんの一部の教室しか使えないよね??直しな

い!!あと古いものどんどん壊しすぎ!登戸研究所時代から残ってる杉並木(たしか研究所時代の唯一の遺構とか?違ってたらゴメンビ)を伐採したり和泉キャンパスの校舎壊したり(第4校舎は1955年からあるってどっかに書いてあった)!あと最後に!めいじろうかわいい!!

⑩人事天命

⑪悠仁親王が明治大学雄辯部を卒部して、その後天皇になって雄辯部が天皇を輩出したサークルになったから??

⑫ここ最近「日常」を強く意識するようになった。自分は実はまだ20歳になっていないのだけれど、1月の成人式に行った際に今日まで無事に約20年生きてこられたことを改めて感じた。年明けの能登地震、海の向こう側で突如始まる紛争。昨日まで当たり前だった「日常」がそうではなくなってしまう感覚。確約された未来なんてものはなくて気付いたら壊れてしまう当たり前の日々。この一年間を見てもそうだった。気付いたら祖父のボケが進んでいて、気付いたら高校の同期が亡くなっていて、気付いたら小さい頃から馴染みのある大事な場所が消えてしまっていた。もっとあの時のあの人と話したかった。もっと一緒にいたかった。もっとあの場所のあの空気を吸っていたかった。手を伸ばしてもあの当たり前はもう戻ってこない。そんなことを意識するようになって一日一日を大事に生きるようにしてる。その日その日に意義を見出すため(?)日記もやりたいけど始めるタイミングを見失ってしまった。だから4月からのタイミングで始めようか

第7章 部員紹介

な、なんて思ってる。もう大学生活も折り返し地点だし、あとちょっとで20代になって年齢もランクアップ。いつまでも10代のガキンチョムーブはだめだから卒業しなきゃね。さようなら

Teenager !

大木 僚介

- ①理工学部(情報科学科)2年
- ②? (秘密でお願いします)
- ③福岡県
- ④一般部員
- ⑤麻雀
- ⑥守破離
- ⑦「不適合家であるために」
- ⑧同窓会
- ⑨事務室仕事増やせ
- ⑩大言壮語
- ⑪詭弁ブームが起きた
- ⑫来年度はもっと参加します…

奥野 皓大

- ①商学部商学科 2年生
- ②2003/11/03
- ③埼玉県戸田市出身
さいたま市立浦和南高校出身
- ④企画局員
- ⑤ウォーキング
- ⑥明日やれることは今日やるな
- ⑦『冤枉』
- ⑧ゼミの1日バスツアー
- ⑨卒業必要単位数減らせ!
- ⑩優柔不断
- ⑪政治オタが増えたからとか…?
- ⑫昨年よりは自信持てるようになりました。

加藤 正宗

- ①法学部(法律学科)2年
- ②2001/06/22
- ③愛知県名古屋市中・愛知工業大学附属名電
高等学校
- ④副代表・元渉外局長
- ⑤読書
- ⑥知識は人を自由にする
- ⑦新しいドキュメント(1)
- ⑧新歓活動
- ⑨駿河台の記念館を再建しろ!
- ⑩喧々諤々
- ⑪悠仁様が入部された
- ⑫最近は何論の技術研究にばかりいそしみ、「雄弁」でなくなってきたなあと思える加藤です。学生生活の折り返しに至り、就職活動も始まり戦々恐々としておりますが、二浪で培った楽天主義で何とか乗り切っていこうと思います。

河路 健吾

都合により不掲載

川名 慶征

- ①理工学部(情報科学科)2年
- ②2003/04/07
- ③東京 本郷
- ④凡人
- ⑤本屋巡り 読書 海外旅行 プログラミング
- ⑥死ぬまでの暇つぶし
- ⑦なし
- ⑧なし
- ⑨いつもありがとうございます
- ⑩不羈奔放

⑪みんな病んでる

⑫特になし

佐藤 結衣

都合により不掲載

重城 見空

都合により不掲載

十二 建太

①政治経済学部経済学科2年

②2003/12/??

③東京

④無職

⑤ゲーム、旅行、映画鑑賞

⑥当たり前を疑う

⑦命の水

⑧今

⑨キャンパスが駿河台にあるのはすき

⑩十把一絡

⑪雌鞭部になった

⑫任天堂から発売されているRPG、ゼノブレイドシリーズ、おすすめです

新開 千紘

①農学部(農芸化学科)2年

②2002/09/06

③藤沢・函嶺白百合学園高校

④133期企画局長

⑤博物館巡り、神話

⑥多数派と少数派の壁をなくす/研究者の待遇改善

⑦・自分の弁論と自分がメンターした弁論は多かれ少なかれ思いいれがあります。

・「地球の円は一つだろ！」

・あと、全く関わったことない先輩ですけど天野先輩の「新しいドキュメント1」が好きですね。

⑧イタリア旅行

⑨死にゆく先輩、同期たちの断末魔みたいなのを忘れないでください。

⑩多情多恨

⑪第三次学ランブーム

⑫学期中はいいたいこともいっぱいあったはずなのに、いざ春休みになると全て忘れ、気づけばこのように締め切り直前になってあわてて書いております…。

今年の所感と来年の目標と卒業する推し(=かこ先輩への)メッセージ

雄辯部では企画局長として目立ってはいませんがまあまあ活躍したし、コミットしたなと思います。新歓も頑張ったし、弁論メンターもやったしね！ただ、私生活が忙しかったこともあって、あまり雄辯部とはなんなのか、とか将来の夢とかについてゆっくり話せなかったし、私も語れなかったのが反省点です。

それも踏まえて来年はやっと実務的なものから解放されるので時たま部に顔だけ出して同期や後輩と話しつつ、ゆっくり語り合いたいですね。あと、積ん読を消費したい。積ん読。宗教現象学の本とか読みたい。

あと将来について考えたいですね。もちろん院進についてもそうですが、「自分が何に重きをおいて生きているのか」とか「他人からみた自分はどのような人間なのか」とかもっと自己理解を深めたいです。あと、英語とかフランス語、イタリア語、ラテン語に興味があるので語学を頑張りたい。(こんなにできるかしら

第7章 部員紹介

…。)

最後に卒業しちゃうか先輩へ
地元に戻られるということで悲しみがと
まりません…。私に財力と力さえあれ
ば、執筆生活に専念させてあげられるの
に！去年はただの一ファンでしたが、今
年はラインや対面で話したり、メンター
やつてもらえたりなど先輩と仲良くなれ
た(と私は思ってる)一年でした。「何年
後かにみんなで一緒にシェアハウスでき
たらいいね」とかも話しましたが、私
は割と本気で機会さえあれば叶えたいと
思ってて、でも叶わないんだろうなあと
少し悲しく思ってて、でもそれはファンの
時には知れなかった解像度の高い記憶
と感情だなと、本当に仲良くなれてよか
ったなと思います。

これからも仲良くしてください！

高屋 晃佑

- ①政治経済学部政治学科 2年
- ②2002/10/15
- ③出身地:東京都三鷹市
出身校:都立調布北高校
- ④代表・前総務局長
- ⑤飲酒、喫煙、ファッション
- ⑥自己実現と社会貢献
- ⑦ホンチェフン「保守革命」
- ⑧田中耕太郎先輩の選挙応援
- ⑨和泉キャンパスにコンセントを増や
せ！！
- ⑩暴飲暴煙
- ⑪雄辯部明治大学構想が実現して全国の受
験生が雄辯部を目指すようになったから
(一般入試 100%)
- ⑫

田口 瑛舜

- ①理工学部(機械工学科) 2年
- ②????/08/04
- ③東京都狛江市・國學院大學久我山中学高
等学校
- ④なし
- ⑤山歩き、宇宙関係のいろいろ
- ⑥和而不同
好きな言葉の一つです。昔の雄辯部の標
語だったんだっけ？
- ⑦今年度はちゃんと聞けてないので去年の
をば…
入部してすぐに聴いた「なんとかやって
いくためのコーヒーアンダーザベッド」
がずっと印象に残っています
- ⑧理工学部主催のタイへの短期留学プログ
ラムに参加したことです。海外に行って
自主的に行動できたのは初めてで、想像
よりも日本に近いことや実際なんとでも
なることを学べました。
- ⑨福利厚生の改善を！
某 Oh-o! Meiji システムや教室申請、
Wifi 環境などなど学生が大学というシス
テムを活用しやすくするよう改善してほ
しい！
具体的には試験期間・教室申請・天候に
よる休講情報などをオー明治に集約し、
他サイト(明治大学公式サイト)へ飛ばな
くとも確認できるようにすべきだろう。
そのようなアップデート実施するため学
生アルバイトを動員するのも手段だと考
えます。
- ⑩幽弁部員(?)
- ⑪新歓に貢献した皆さんの魅力の伝え方が
上手かったからじゃないでしょうか…？

あとはいろんなサークルを見てるんですが、今年は総じて意欲のある学生が多いように思います。年度の色って違いますね

⑫今年ほぼ全く参加できなくてすみません…

弁明をいたしますと某英語サークルの幹事長と体同連の理系バージョンこと理科連の副委員長を兼任しているため大変に忙しくなっているんです。今書いてるこれも理科連の合宿中なのでいろんなサークルのメンツがごった返してます(笑)

それでも駿台雄弁の催促を頂けるほど良い同期・良いサークルと出会えたと思っています。

少なからずズレた考えかもしれないのですが、友達付き合いの一つの目標(?)に(結婚しそうな人かはさておき)「結婚式に呼ぶ/呼ばれる」というのがあります。要するにそれくらい関係を続けていきたいなってことなんです、属してる場所が多いと難しいですね… 来年度は時間とってちゃんと活動できたらなんて思ってます

田中 達博

①国際日本学部 2 年

②2003/12/26

③福岡県福岡市出身、千葉英和高校卒業

④選挙管理人

⑤将棋、ポケモンユナイト

⑥来世で(そのまた来世かもしれないけど)神様(自分)に褒められたい。煙になりたい。

⑦「変わる為に」長谷川佑紀、「ずるい」野村百花、「未来のクリエイターたち

へ」富田翔太、「隠された強迫」内藤修平、「あなたのそばに」久保田夏由

⑧秋新弁と桜弁でメンターをやったこと。

どちらの大会でも私は余り貢献できなかったけど、見ていた人間が演台に立って堂々と話しているのを見ると目頭が熱くなる。自分だけのことではこんなに感動できない、いい思い出。

⑨国日は中野キャンパスのままにしてほしかった。中野は学食おいしいし、キャンパス前がきれい。できるだけ国日を、後輩に誇れるものにしたい。

⑩苟且偷安(大器晩成だと信じてる)

⑪昔からなのかは知らないけど、哲学対話やってるからかな。経験で話せるから、雄辯部のエリート主義におられそうな人を拾える。

⑫私は家に帰るとポケユナ廃人になり、それで課題提出に遅れまくってる。局長杯の弁論で、精神科のハードルが下がったし、4月までに克服できなかったら、精神科行きます。

玉田 百々子

①商学部 2 年

②2003/01/04

③徳島県 徳島県立城南高等学校

④なし

⑤映画鑑賞 美術館巡り

⑥思いやりを忘れない

⑦

⑧アルバイトを始めたこと(お金稼ぐの大変…)

⑨もうちょっと休暇中の図書館の開館時間を伸ばしてほしい

⑩外柔内剛

第7章 部員紹介

⑪雄辯部から新たに総理大臣が輩出されたから

⑫うちのわんこは目に入れても痛くない

西川 昌嘉

都合により不掲載

橋爪 美真

都合により不掲載

原田 進之介

①商学部2年

②2003/01/23

③川崎市宮前区

④平部員

⑤家系巡り、バド

⑥全力で楽しむ

⑦「〇〇の本質について」

⑧サークルのスキー合宿

⑨いつになったら和泉図書館のカフェ開くんだよ。もう3年経ったぞ。事務室サボんな。

⑩完璧主義

⑪新歓担当が優秀だから

⑫よろしくね～

山下 琢磨

①政治経済学部経済学科2年

②2003/11/22

③東京出身 巣鴨高校

④総務局長代理

⑤ゲーム、サイクリング、野球観戦

⑥伝統維持・義理と人情と痩せ我慢

⑦2023 農水杯 法政大学弁論部 山田将貴先輩「農『林』水産」

⑧大隈杯出場！

⑨4年間駿河台に通わせてくれ！！

⑩前途洋々

⑪3人目の総理大臣が輩出された

⑫お世話になってます。学識が高い同期や先輩を見上げるばかりだからもっと本を読みたい。勉強したい。

山下 玲奈

①文学部文学科日本文学専攻2年

②2004/02/24

③東京都(転勤族)、聖徳学園中高

④133期広報局長

⑤洋楽、映画、読書(最近は忙しくてあまり…)

⑥三島由紀夫の美を追求すること

⑦今年なら『ぎょうこう』、いじめに関する弁論は過去にたくさんあっただろうが、そこに挑戦したのが印象的であった。声調も良かった。

⑧五月杯、萩生田光一講演会

⑨三田会みたいな強力な派閥が明治にもあったら面白くない？

⑩前程万里、だったらいいな！

⑪新歓に関わった部員達が頑張ったから

⑫広報局長の任期も終わりやっと思息。

134期のみんなが優秀なのでこれからの雄辯部がどうなるのか楽しみです。私の活動への参加頻度は減ると思いますが、暇なときはご飯にでも行きましょう！
今はいかにして支払う社会保険料を減らすか考えています笑

山本 蒼太郎

- ①農学部(農芸化学科)2 学年
- ②生年月日(2003/08/20)
- ③神奈川県・湯河原町 私立相洋高等学校
- ④元生田支部長
- ⑤・入浴(特にサウナが好き。)
- ・読書
- ・執筆(最近ブ●キュアの同人小説を書き始めた。)
- ・カラオケ(最近行けてないなあ。)
- ⑥上善如水(1 年前にも同じことを書いたが、その意味が定まってきた。私は人生を賭けて高潔な人間になりたいのだとわかった。)
- ⑦『古都再考』
- ⑧・代表選挙に立候補したこと。
- ・友人と京都の美術館に行ったこと。
- ⑨理系の学費高い。下げて～。
- ⑩朝生暮死
- ⑪広報局長にゲッベルズを抜擢したから。
- ⑫雄辯部でやりたいことは全てできた1 年でした。もう悔いはないですね。これからは自分のやりたいことを進めていきたいです。
- 追伸:三月に開催した『研究発表会』が雄辯部にさらなる躍進をもたらすことを祈っています。

渡邊 小太郎

- ①政治経済学部(政治学科)2 年
- ②2003/10/28
- ③北海道苫小牧市・北海道立苫小牧東高等学校
- ④133 期弁論局長・第 27 回紫紺杯実行委員長

- ⑤旅行、温泉、友人との飲み会、ドライブ
- ⑥意志あるところに道は開ける
- ⑦大屋敷輝喜先輩の「雄辯道」
- ⑧成人式
- ⑨24 時間あけろ！
- ⑩一期一会
- ⑪学ランを着なくなったから
- ⑫和して同ぜず

134 期

天野 咲妃

- ①政治経済学部地域行政学科 1 年
- ②2004/06/17
- ③東京・都立三田高校
- ④なし
- ⑤ダンス
- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨学校に行きたくないです
- ⑩三日坊主
- ⑪
- ⑫

井川 誠之

- ①文学部フランス文学科 1 年
- ②2004/12/17
- ③茨城県・巢鴨高
- ④なし
- ⑤テニス
- ⑥独立自尊
- 天は人の上に人を作らず
- ⑦12 月開催、東大総長杯、上智大学、「回収しなきゃ！」
- ⑧ベトナム遠征

第7章 部員紹介

⑨このままガンバレ

⑩雲外蒼天

⑪最近明治大学の人気が上がったから？

⑫倫理を主張の根拠にする弁論は強い

稲葉 友春

①法学部法律学科 1 年

②2005/02/14

③大阪市中央区 / 京都市下京区、追手門学院大手前中学校 / 桃山学院高校

④渉外局長、134 期カス筆頭

⑤[自主規制]

⑥「揺蕩えども沈まぬ」これはパリ市の市標だが、ある意味俺の理念を表した言葉でもある。揺蕩わずに沈んだ者があった、揺蕩って沈んだ者もあった。水流に抗えば傷つき、溶けて無くなれば私は私でなくなる。踏まれても踏まれても強くなる麦になろう。風に靡いても、根は地におろしている稲になろう。大事なのは風に飛ばされていかないこと、揺蕩えども沈まないこと。色々生きていく上での理念なり何なりはあるが、これが今の私の雄辯部員としての行動理念である。

⑦弁論、なにそれ美味しいの。

⑧玉木雄一郎講演会をやったこと。

⑨マジでキャンパス内の建物どれもこれも欠陥建築で草。

⑩失敗小僧

⑪「雄辯部員を論破したら 10 万円！！※ただし勝利した場合は入部を条件とする」という企画をやったところ、ほぼ全ての現役部員が論破されまくったため。

⑫働きたくない。

岩本 光太郎

①政治経済学部 1 年

②2004/11/23

③新潟県立新潟江南高校

④正部員

⑤オタク研究

⑥行動しなければ始まらない。

⑦価値弁

⑧拓総杯

⑨学内規制が厳しすぎる！

⑩大器晩成

⑪新歓での取っ付きやすさ。

⑫今年は結果を出せる年にしたいです。

上田 智瑛

都合により不掲載

浦谷 友貴人

①文学部 2 年

②2003/05/12

③愛知県・高蔵寺高校

④なし

⑤ファッションの模索 街歩き ウィンド
ウショッピング 読書 ドラマ鑑賞

⑥ゆるふわ

⑦

⑧初海外で出発前からホームシック

⑨もう少しキャンパスの雰囲気が出たりすればなあ……

⑩生々流転

⑪動乱の世だから

⑫預金残高は心の余裕のバロメーター

江口 輝

- ①文学部史学地理学科考古学専攻1年
- ②2004/4/6
- ③東京生まれ 明大付属中野高校出身
- ④無し
- ⑤ウマ娘 ラブライブ！ 自転車
- ⑥遊ぶ合間に生きる
- ⑦
- ⑧気の合う仲間と会えたこと
- ⑨室内で騒げる場所を！！
- ⑩自由奔放
- ⑪部室の居心地が良すぎる
- ⑫まだまだペーパーの部員です！

太田 康志朗

- ①政治経済学部1年
- ②2005/01/20
- ③東京都 明大中野
- ④常人 ワールドエンペラー覇者絶対強者
ぶんにゃん
- ⑤
- ⑥
- ⑦オヌヌメの弁論は清水丈
- ⑧明治大学1年生として暮らしたこと
- ⑨個室が欲しい
- ⑩唯一無二
- ⑪ワシがいるから。
冗談です。先輩方の尽力です。
- ⑫謙虚
ニューヨークで入浴！

大村 皐

- ①政経学部経済学科1年
- ②20??/8/18
- ③神奈川県川崎市 百合丘高校
- ④無職
- ⑤酒
- ⑥百折不撓の精神
- ⑦亀山先輩、石井先輩の全日杯弁論
- ⑧中央新弁
- ⑨学食なんとかしてください
- ⑩堅忍不拔
- ⑪加藤先輩が学ランを着なくなった
- ⑫頑張ります

片貝 千里

- ①政治経済学部政治学科1年
- ②2005/01/10
- ③豊洲
- ④役職なし
- ⑤漫画、HIPHOP
- ⑥為しうる者が為すべきを為す
- ⑦局長杯河合舞音「うむを言わせず」
- ⑧みんなとの日常の日々が一番の思い出で
す。
- ⑨学食が高い！！
- ⑩器用貧乏
- ⑪スタンド使いとスタンド使いは惹かれ合
うから。
- ⑫日本一のラッパーになります。

第7章 部員紹介

勝又 滉太

- ①商学部 2 年
- ②2004/02/09
- ③東京都・東京都立立川高校
- ④一般
- ⑤ドライブ、美術館巡り、料理
- ⑥自分も含めて幸せに
- ⑦思考実験の語り合い
- ⑧部活に入ったこと！（結構最近入ったから……）
- ⑨大学生活が 4 年だけだと、短すぎる！やりたいことが終わらないよ
- ⑩質実剛健
- ⑪世の中の人々に「雄弁」という言葉がしっかりと広まったから
- ⑫自分の持つ不思議、他人が持つ謎に対して興味を持つ準備運動をしましょう！なぜを大切に、答えを複数持った後、選択していくような自由な人生を送りたいものですね

金田 彩希

- ①法学部法律学科 1 年
- ②2002/06/07
- ③福岡県・福岡高校
- ④なし
- ⑤運動全般・アニメ/映画鑑賞
- ⑥多様な人と関わり合い、常に学び続ける姿勢で自己の価値観を広げていく。
いくつになっても何事も楽しむ。
- ⑦
- ⑧京都旅行
- ⑨立て看板などによる表現の自由を全面的に許可してほしい
- ⑩切込隊長

- ⑪バランスがとれていないけど、バランスがとれた部活だから(?)
- ⑫秋入部の新米部員ですが、気合いと誠意はしっかり持っている所存ですので是非ともよろしくお願いいたします

河合 舞音

- ①法学部法律学科 1 年
- ②2004/12/30
- ③茨城県つくば市 茨城県立並木中等教育学校
- ④広報局長
- ⑤旅行、写真
- ⑥事を成すために努力を惜しまない
- ⑦命の水
- ⑧秋新弁と花井杯。辛かったけど、準備期間も本番も本当に楽しかった！
- ⑨めいじろうかわいすぎる！
- ⑩冥冥之志
- ⑪何も思いつきません。
- ⑫今まで生きてきた 18 年間からは全く予想できなかった 1 年でした…。毎日美味しいものを食べて、毎日やりたい事を自分の心のままにできました！弁論やインターンなど、雄辯部がきっかけで少しずつ夢に近づいた気がします。来年度も全力で頑張ります！

北澤 岳之

都合により不掲載

木村 幹太

- ①農学部1年
- ②2004/6/4
- ③私立東京農業大学第二高等学校(群馬)
- ④生田支部長
- ⑤睡眠、美味しいものを食べる
- ⑥衰退する地方が100年後まで人が住める土地でいられるための一助になりたい。
- ⑦農水でやった自分のやつ。沢山の同期と先輩に助けて頂き製作したので、今でも愛着がある。初の外部大会で緊張して、成長から質疑まで「もっとこうすれば良かった」という点は非常に多いので、この反省を次回に活かしたい。
- ⑧一人で東北旅行に行ったこと
- ⑨せっかく金かけたんだから黒川農場もっと有効活用してほしい。あと、農場実習微妙ではないだろうか…
- ⑩光陰似箭
- ⑪雰囲気は昔と比べて柔らかくなったから？
- ⑫4月の新歓で雄辯部というサークルを知り、入部してからもう1年近く経過したことに驚いています。恐らく自分は大学院には進学せず学部卒で就職するので、学生という身分でいられるのもあと3年位しかないことに不安しかない…。もうすぐ後輩が入ってきますが、生田にも10人位入部してもらえるように新歓頑張りたいです。能力面で下級生から頼りにされるような人間ではないと自覚しているので、せめて人間的には尊敬される良き先輩として振る舞えるように努力したいです。

倉岡 佑成

- ①商学部1年
- ②2004/07/17
- ③埼玉県上尾市 川越東高校
- ④なし
- ⑤サバゲー 海外旅行
- ⑥個々人が自分の無力さに謙虚になって、できることをする。
- ⑦『吾、先導者ならん』
- ⑧ベトナム旅行、雄弁合宿、でもやっぱり大学の合格発表
- ⑨ウォーターサーバーを増やしてほしい。メイジロウがかわいい。
- ⑩優柔不断
- ⑪拡大政策、イメージ戦略おかげ。大河原先輩の人柄。
- ⑫

木下 陽太

- ①法学部(法律学科)1年
- ②2005/01/15
- ③大阪府履正社高校
- ④なし
- ⑤規則正しい生活を試みる(成功0回 失敗n回)
- ⑥全ての感情は脳機能の発露にすぎない
- ⑦2024 紫紺杯 藤川太暉「〇〇の本質について」
- ⑧秋学期試験で奮闘したこと
- ⑨一限必修をやめる
- ⑩運否天賦
- ⑪日本で弁論大会が野球と同じ位置付けになった
- ⑫宣伝です！当方法テラス東京で非常勤職員(土日祝のみ)を勤めているのですが、

第7章 部員紹介

人手が全く足りていません！興味のある方は是非私の SlackDM まで

久保田 夏由

- ①文学部心理社会学科 1 年
- ②2003/07/06
- ③東京都・私立洗足学園中学高等学校
- ④企画局長
- ⑤韓ドラ鑑賞
- ⑥自己実現と社会貢献
- ⑦川嶋健吾「吾、継承者たらん」
- ⑧日吉杯
1 年 3 人で演練したこと(焦ったけど、緊張が解けた笑)
先輩の土下座が二枚目だったこと
- ⑨「遊文」全然遊んでない！！ 第二外国語の苦悩が絶えない…
- ⑩戦闘民族
- ⑪学ランに耐性のある新入生が増えたから
- ⑫お酒、たばこはもとよりラーメンも大敵！
来年も体重が変わりませんように…

合田 有佑

- ①法学部 1 年
- ②2003/10/02
- ③東京都・西麻布 成城高校
- ④なし
- ⑤読書
- ⑥辛くても過去になる
- ⑦
- ⑧七尾城を観光したこと
- ⑨受験問題で「明治大学の教壇に～」を出すのをやめてほしい
- ⑩頑迷固陋
- ⑪永遠の謎

- ⑫ショートスリーパーになりたい

西郷 龍之介

- ①法学部 1 年
- ②2005 02/15
- ③大阪
- ④平部員
- ⑤旅行
- ⑥秘匿
- ⑦
- ⑧熱海の旅行
- ⑨なし！とても良い大学！
- ⑩八面玲瓏
- ⑪的確な広報活動の影響
- ⑫多様な部員が集まるので様々な人と関われる部活です！

柴田 哲汰

- ①農学部 1 年
- ②2004/12/01
- ③大阪
- ④無し
- ⑤映画
- ⑥山あり谷あり
- ⑦無し
- ⑧大学合格
- ⑨ありません。
- ⑩魑魅魍魎
- ⑪学生運動のたかまり
- ⑫お願いします。

清水 丈

- ①政治経済学部地域行政学科 1 年
- ②2004/06/04
- ③埼玉県戸田市・大宮開成高校出身
- ④会計局長
- ⑤他人の話を聞くこと
- ⑥他人との比較や他人が作った評価に呪縛
されない社会
- ⑦2023 年東大五月杯での松林大悟弁士の
弁論「故郷」
- ⑧会計局長不信任事件
- ⑨明治大学の授業は 8 割方消化試合みたい
な授業である！
- ⑩前途多難
- ⑪雄辯部税率が適用され特権階級になった
- ⑫この一年間、悪い意味で爪痕を残してし
まいました。能ある鷹は爪を隠す、です
ね…

瀬川 大地

- ①法学部法律学科 1 年
- ②2003/05/25
- ③東京都出身 東京都立両国高等学校
- ④現・研究局長
- ⑤人間観察、クイズ
- ⑥違いは個性
- ⑦《家族を超えていけ》
- ⑧研究局長への就任
- ⑨個性的すぎるサークルです笑
- ⑩容貌魁偉
- ⑪みんなが学ランを着出したから！
- ⑫私は車椅子を使って生活しているため、
たくさんの人の支えがあっいまの自分
が成り立っていることをだれよりも理解
している自負があります。多くの人へ感

謝しながら、日々の活動に参加してい
きたいです。

また私は側湾の手術をしたため、高校 3
年生を 2 回行っています。決して浪人生
ではないのでご理解ください！

よろしくお願いします！

高島 樹

都合により不掲載

高橋 孝輔

- ①法学部法律学科 1 年
- ②2004/08/24
- ③宮城県仙台市・宮城県仙台二華高等学校
- ④書記局長
- ⑤旅行
- ⑥和を以て貴しと為す
- ⑦地方に問題意識を向けたもの
- ⑧大学入学
- ⑨明治大学記念館は残して欲しかった…
- ⑩溫柔敦厚
- ⑪新歓が熱心だったから
- ⑫今年こそは海外旅行に行きたい！

田中 祐理

- ①情報コミュニケーション学部 1 年
- ②2004/08/17
- ③千葉県・市川学園市川高校
- ④なし
- ⑤ゲーム&旅行
- ⑥趣味の合間に人生
- ⑦「ゲートウェイ」
- ⑧メイキング・オブ・ハリー・ポッターに
行けたこと！
- ⑨学食種類ふやせふやせ～(๑・`o・´๑)♡
- ⑩謹厳実直

第7章 部員紹介

⑪時代の流れ

⑫やっぱり明治が No.1 !

瑤樹 陸

①政治経済学部(経済学科)1年

②2005/03/22

③埼玉県所沢市・錦城高等学校

④なし

⑤読書

⑥私がするすべての物事は私にとって面白いものであるべき

⑦

⑧雄辯部に入ったこと

⑨和泉図書館の蔵書を増やしてほしい

⑩閑雲野鶴

⑪新歓の担当者がしっかりとした人物であったから

⑫暇潰しに書店に入ると、手元のお金がいつの間にか書籍に変わっています。 月の半分を過ぎる頃にはすでに懐が寂しいです。

富田 翔太

①国際日本学部国際日本学科 1年

②2004/12/15

③千葉県・郁文館高校

④なし

⑤読書・ゲーム・カラオケ・一人旅

⑥みんなが幸せな社会

⑦拓総杯で、離島防衛について説いた弁論

⑧大阪の合宿 めっちゃ楽しかった！

⑨中野キャンパスに部室置けるようにして

⑩猪突猛進

⑪雌弁部に名称変更したことで、新規女子部員が増えたから。

⑫自分のやりたいことを受け入れてくれる仲間がたくさんいます！ぜひ雄辯部へ足を運んでみてください。

内藤 脩平

①総合数理学部先端メディアサイエンス学科 1年

②2002/08/22

③東京都小平市・都立小金井北高校

④なし

⑤クラシック音楽鑑賞、バイオリン演奏、読書、美術館・博物館・仏像めぐり

⑥「面白い！」という感覚が一番大事

⑦価値弁論的なもの

⑧「うつ」になったこと

⑨学生サポートの充実度には大変満足しております

⑩則天去私(を目指しています)

⑪雄辯部出身の人が総理大臣になった

⑫クレカの使用には要注意！

中村 陸

①文学部文学科 2年

②2004/01/12

③出身地 東京都

出身校 都立久留米西高校

④

⑤読書

⑥文化的民主国家

⑦

⑧国会見学

⑨文化国家における大学の重要な役割を自覚するとともに、広く学生の言論の自由を認め、表現と文化の場を提供し、もってそのパブリックフォーラム的側面を強化すべし

⑩ 穏健保守

⑪ 雄辯部がさまざまな価値観や主義、思想をもった人たちを受容することのできるような寛容さと気品をもっているからではないでしょうか。

⑫ 大学では、自分の専門分野だけにとどまらず、幅広く学んでいきたいと思っています。

野村 百花

① 文学部史学地理学科 1 年

② 2004/09/30

③ 東京都/目黒学院

④ なし

⑤ 自然

⑥ 自分のために生きる

⑦

⑧ 旅行

⑨ LS 遠い…

⑩ 独立不羈

⑪ 弁論に興味を持ったから？

長谷川 佑紀

① 政治経済学部政治学科 1 年

② 2004/12/16

③ 埼玉県越谷市・越ヶ谷高校

④ なし

⑤ 音楽

⑥

⑦

⑧ 国会議員のお手伝い

⑨ 一限必修減らして欲しい、授業のバリエーションを増やして欲しい

⑩ 大体不在

⑪ 政治に関心を持つ若い人が増えてるのではないのでしょうか

⑫ あまり部活にいませんが、いた時はよろしくをお願いします

坂東 健太郎

① 政治経済学部政治学科 1 年

② 2005/01/23

③ 出身地千葉県市川市 出身校明治大学付属中野高等学校

④

⑤ 自転車旅 登山 キャンプ PC ゲーム パソコンいじり

⑥ 辛いことの先には綺麗な何かが待っている

⑦ 社会問題系

⑧ 春学期スペイン語を落単したこと

⑨ 明治大学ではあまり自由を感じない学館での飲酒、喫煙を認めてほしい

⑩ 猪突猛進

⑪ おそらく自分の言葉を簡単に発信できる現代だからこそより確実に上手に発信し、受信したいと思う人が増えたのではないか

肱元 いろは

① 政治経済学部政治学科 1 年

② 2004/05/04

③ 鹿児島県 鹿児島県立甲南高等学校

④ 総務局長

⑤ 猫と遊ぶこと！

⑥ 自分に正直に

⑦ 特になし

⑧ 高校の友達と念願のディズニーランド！

⑨ 暖房の温度上げてください…

⑩ 直情径行

⑪ 入部費無料

⑫ 総務局長になりました！頑張ります！

第7章 部員紹介

平田 里颯

- ①文学部文学科フランス文学専攻1年
- ②2003/09/01
- ③広島県尾道市
埼玉県立与野高等学校
- ④無職
- ⑤楽器演奏・好きな文を書き写すこと
- ⑥弱者とされてしまっている人達を見放さない
- ⑦山下玲奈先輩の「狂」
- ⑧初めてブロードウェイ・ミュージカルを観に行ったこと。
- ⑨立て看板を立てさせろ。
- ⑩呵呵大笑
- ⑪大粛清
- ⑫満足な豚であるより、不満足な雄辯部員でありたい。

藤崎 泰成

- ①政治経済学部政治学科1年
- ②2004/06/04
- ③神奈川県横浜市・神奈川県立港北高校
- ④和泉支部長
- ⑤映画鑑賞(特に洋画)
- ⑥目立たずとも弛まぬ努力と貢献を。
- ⑦新規性のある政策弁論
- ⑧夏の大阪合宿
- ⑨ブランディングが微妙!!
- ⑩大器晩成
- ⑪新歓担当者の努力と、漠然とした将来への不安??
- ⑫ヨーロッパを巡りたいが円安はいつまで続くのでしょうか...

洪 彩熏

- ①商学部3年
- ②2002/12/02
- ③韓国・ソウル
- ④特になし
- ⑤空想、討論、散歩、サッカー観戦など
- ⑥社会的市場経済、社会コーポラティズムを基盤とした「保守革命主義」
- ⑦自分が行った「保守革命論」
- ⑧やはり、桜門杯優勝
- ⑨留学生授業減らしてくれ、頼む
- ⑩経國濟民
- ⑪本気で政治、社会などに関するテーマを言えるサークルはここしかないの
- ⑫三年生から雄辯部に入った韓国人留学生です。きちがいですがよろしくお願ひします。最近雄辯部の活動はあんまり活発に行っていません……

俣野 文義

- ①総数 FMS 院 2 年
- ②2001/01/25
- ③名古屋市・豊橋技科大
- ④幽霊部員
- ⑤ゲーム(最近は主に風のクロノア)
- ⑥臨機応変に首尾貫徹
- ⑦第 68 回文科杯 中高生の部 優良賞 藤野 桜菜「他人中毒」
- ⑧学会に出たこと(初めてだった)
- ⑨研究室に 24 時間滞在できるようにしてほしい
- ⑩暗中模索
- ⑪Twitter の宣伝効果
- ⑫学部時代の勢いでスケジュールを組もうとしたら予定表が大爆発しました。なの

で幽霊部員となってしまうのですが、Slack の通知は偶に見ています(いつも見ろという話ではあるが)。どうぞよろしく。

⑫来年度はもっと頑張りたいです。本当です。飲みだけに来る嫌なやつになっているので、どうにか来年は上手くやりたいです。

三浦 有穂

- ①経営学部会計学科 1 年
- ②2004/07/19
- ③山形県/山形市立商業高等学校
- ④広報局員
- ⑤サバゲー・タクトレ
- ⑥自由
- ⑦三年
- ⑧初めて弁論をやったこと
- ⑨コンビニ増やして
- ⑩利己主義
- ⑪お堅いイメージの緩和

水野 郁

都合により不掲載

宮本 光太郎

- ①文学部ドイツ文学科 1 年
- ②2001/04/16
- ③和歌山県・高卒認定
- ④なし
- ⑤日帰り旅行、温泉、格闘ゲーム、ジム
- ⑥まずは自分のことをやる。
- ⑦申し訳ないです…あまり顔を出してないので記憶が…。
- ⑧秋学期末が本当にグチャミソだったこと。
- ⑨もっと単位ください。
- ⑩鯨飲馬食
- ⑪早慶上智辺りが廃校になって明治に大学生が大量に流れてきたからとか？

第八章 卒部の辞

先日、耳鼻科で医者にも舌を掴まれた。手袋をはめた親指と人差し指が、まるでグリーンガムでも引くような調子で、私の舌を挟み、引っ張った——歯医者で口を開けられて歯をなでられたりするだけでも嫌な感覚に襲われるというのに、舌を掴まれるだなんて……朝には目玉焼きトーストを味わった、この食物を感じるための器官をおじさんに扱われるだなんて……私は花粉症の薬をもらうために毎年必ず通院しているが、こんな仕打ちを受けたのは初めてのことで、恐怖と困惑で頭の中がいっぱいだった。

しかし拒絶することはできなかった。自らの意思で病院に踏み入り、患者としてそこに座っている私には、何の抵抗権もないように感じられた。医者は喉の腫れが見たかったのか、あるいは舌の弾力を確かめたかったのか、なんだか分からないが質問することもできない。私はただ静かに舌を差し出していた。その時間は短いはずだけれど、私には走馬灯でも見えそうなくらいにゆっくりと感じられた——そのとき私は弁論詰めをしていたときのことを思い出した。ああ、これがあのとき不満げに黙りこくっていた弁士たちの気持ちなのか——。

……何をふざけているんだ、と思われるだろうし、実際、真面目に書いているわけじゃない。卒部の辞らしいメッセージを私から受け取りたい人は、2022年の副代表前期納会資料を読んでくれればいい。そこでは輝いていた頃の私が、雄辯部に対する想いを熱く語ってくれている。(そのスピーチ後にはある後輩が号泣していた……)

とはいえ、私は(すでに締切日を大きく過ぎてしまっている)今日この時まで、真剣に卒部の辞と向き合ってきたつもりだ。真面目に考えれば考えるほど何も言えなくなってしまう、陰鬱な思考の渦に巻き込まれながら、かろうじて書き始めたのが、今この文章なのである。

どうして、真面目に考えると何も言えなくなってしまうのか。それは、もはや私には、雄辯部に対して、何かを言い残すような資格が、あるようには思えないからだ。言いたいことがないわけではないが、ひとたび語り始めれば、すぐに自分が殺してしまった後輩を想起することになって、言葉は失われてしまう。もはや後悔以外には、言いたいことなどないのかもしれない。結局のところ私は自己実現も社会貢献も成しえなかったし、自分がしてきたことの全てが無意味に思えるのと同様に、何を書き残すことも無意味に思える。

最初は、この場を借りて、藤川への感謝と謝罪を述べようと考えていた。けれどそれも、無意味な自己満足でしかないように思えてしまった。そもそも、藤川に謝りたいという想いは、自分が部を離れたことで一人にしてしまったのではないかという勝手な負い目から生じている。しかし冷静に考えてみれば、藤川は後輩にも先輩にも恵まれていて、また同期には駿河台本部次長を担う川嶋がいたのだから、決して孤独なんかではなかったはずなのだ。要するに、私が藤川の資料から読み取った寂しさというのは、私自身の寂しさだったのだろう。そう思うと、何を謝ればいいのかさえ分からない。今ぱっと浮かぶことで

言えば、紫紺杯のレセプションに行かなかったことは、謝らないといけなければ……。 (藤川が様々な角度から試みてきた国防弁論がほとんど評価されてこなかったのを見てきた同期として、今回の優勝は心の底から嬉しかった。出来ることなら無邪気に一緒に祝いたかった。本当に申し訳ない)

ここまでお読みになった方にはすでに明白だと思うが、私は極めて悲観的で、めんどくさい人間なのである。しかし、最後に誤解なきようはっきり言っておかねばならないが、実のところ、雄辯部で過ごした時間は、私にとってとても楽しいものだった。自分が大学というものに求めていた、レベルの高い議論をたっぷり享受することができた。自分を受け入れてくれて、(少なくとも2年間くらいは)楽しい大学生活を送らせてくれた雄辯部には、素直に感謝の気持ちが大きい。そういう大切な場所だったからこそ、そこで起きた悲しい出来事を上手く受け止めることができなかったのだろうが……。

自分でも誰に向けているのかよく分からない、要領を得ない駄文になってしまった。けれど、良くも悪くも、これが現実、という気もする。卒部するからといって全てが上手く片付くわけじゃないし、だからといって虚飾で繕って美しく終わらせるような欺瞞は許せない。ある意味で記憶というのは呪いだ。

思えば私は、多くの後輩たちの舌を掴み、その舌に呪印を刻み込んできた。それは卒部と同時に消えるようなものではない。そんなことをしてきた私が、すっきりと卒部していきけるわけがないのかもしれない。去年、卒部していく先輩たちへ送った最後のメッセージの中にも、自分自身に返ってくる呪いのような箇所があった。

「皆さんは一体なんのために弁論なんてしてきたんですか？ 社会も現実も甘くない。たかだか数百人の大学生に気持ちを訴えても何も変わらない。そんなことは十分に知っていて、それでも声を上げることがやめなかったんじゃないんですか？ 雄辯部での日々は美しい青春の一ページとしてアルバムに収めておいて、ときどき引っ張り出して感傷に浸ればそれで満足なんですか？」

雄辯部での日々を美しい青春の一ページにすらできなかった私には、より重たい。私は一体、なんのために弁論なんてしてきたのだろうか……？

ΘΩΘΥΞΡΞΨ

ΞΥΞΠΗΘΞΥΞΥΞΥΞ, ΘΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ.
ΥΞΥΞΘΩ. ΘΩΞΘΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ. ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ.
ΥΞΥΞΥΞΥΞ, ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ.

ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ. ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ.
ΘΥΞΠΗΥΞΥΞΥΞΥΞ: “ΘΩΥΞΥΞΥΞΥΞ, ΞΥΞΥΞΥΞΥΞ. ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ, ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ”.
ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ, ΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ.
ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ.
ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ. ΞΥΞΥΞΥΞΥΞ. ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ.
ΥΞ, ΥΞ, ΥΞΥΞΥΞ, ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ.
ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ. ΘΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ!

ΥΞΥΞΥΞ, ΥΞΥΞΥΞΥΞ.
ΥΞΥΞΥΞΥΞ, ΥΞΥΞΥΞΥΞ, ΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ.
ΥΞ, ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ.
ΘΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ. ΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ.
ΠΗ? ΥΞΥΞΥΞ. ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ? ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ.
ΘΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ. ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ.

ΘΩΥΞΥΞ! ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ.
ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ. ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ!
ΞΥΞΥΞ! ΞΥΞΥΞ!
ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ!

ΘΩΥΞΥΞ! ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ.
ΥΞΥΞΥΞΥΞ, ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ!
ΞΥΞΥΞ! ΞΥΞΥΞ!
ΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞΥΞ!

【卒部の辞】

変な話、私は雄辯部じゃなかったと思う。組織の一員になっているという感覚がなく、油の中に落ちた水一滴然として底の方で丸まっていた。火に当てられ油が熱くなると、私は水蒸気になってぷくぷく逃げ出したくなった。みんなが活動で盛り上がっているとき、弁舌を競うとき、和気あいあいと話すとき、飲み会でお酒を酌み交わすとき、怖いのだ。私は冷や水だからです。

部への帰属意識が薄いから、どうも卒部の辞なんて書く気が起きない。部という大きな主語が邪魔。恨めしい。掘り返す記憶がない。恩知らずだ。記憶記憶。好き好き好き好き好き好き好き好き好き。あはは。嫌い嫌い嫌い嫌い。あはははは。

……そう、これはもう、属人的に感謝だね。社会性がないから、一対一で私に接してくれた人に感謝だ。先輩後輩同期のみんな、アリガトウ。辞めてったみんなアリガトウ。飴色玉ねぎみたいな甘さとコクをアリガトウ。

このあと追いコンがあって、そこでも私は一人窓の外を見たり、木の洞を覗いたり、机に耳をつけて固体を伝導する重音を聞いたり、物思いに耽っていることでしょう。そんな時はまた、一滴の水と油で一緒にいられたら、嬉しい。

はあ。本当にやめてね。大学とか雄辯部とかなんか知らんもんが終わって私たちの関係もどっかで終わりみたいなそういう連環が気色悪い。雄辯部の仲間？大学の同朋？あなたが誰かなんて知らん。社会性がない私は、そういう気持ちになってます。卒部なんて、知らん。

商学部商学科4年 上林未侑

都合により不掲載

はじめに

隙あらば自分語りしてしまうことを自覚しているので、日常ではそうしないように気を付けている。だが、後輩目線で自分が過去の駿台雄弁に書かれた卒部の辞を読むと結構面白いなあと感じたので今回は雄辯部・内・存在としての自分語りに意味があると思いよう…。

本文

死を常に渴望しなくなったのはいつからだろう？多方面から圧力を受け、ほとんど味方のいない自分は、死んでいないだけで生きていなかった。小学一年生から大学一年生までくらはまさに **living dead** だった。

雄辯部が、私を人にしてくれたのだ。

大学に入るまで、雄辯部の存在はおろか大学弁論部というものを知らなかった。しかし、私はずっと、雄辯部のような場を待望していたのかもしれない。

私は高校の頃までずっと、真面目な話ができる人間が欲しかった。自己研鑽に関心がある人間と関わりたかった。周りにそういう人間がいなくて、探してもいなくて、ずっとストレスのミルフィーユをもう一枚重ねていくだけだった。雄弁には聞いてくれる人が必要だ。負荷に対する反動精神と向上精神を持ちながらも孤独な人間は、内なる傲慢に黙って如雨露で水をあげるだけの生活をするようになる。

よくよく考えれば雄辯部は自分にぴったりだったにも関わらず同期の中では入部とコミットが遅れたのは、親から「大学まで我慢しろ」と言われ続けてきたものを全て回収しようとして奔走していたからだ。一番多い時は7つのサークル(非公認含む)、三つの社会人コミュニティに所属していた。ああ大変！それなのに失敗ばかりで大した成果は見られなかったようです…

今まで育てていたのは蓬萊の玉の木などではなく、ただの中身のない傲慢であることに気づくのにそこまで時間はかからなかった。一番打ちのめされたのは自分が一年生の時の雄辯部員があまりにも優秀だったことで、しばらくは劣等感でいっぱいだった。(勿論部内新弁はボロ負けであった)

そんな時最初に声をかけてくださったのは倉持先輩だったが、特になんの貢献もせずただ絶望していただけた自分を気にかけてくださったこと自体がすごく嬉しかった。

それからは雄辯部に顔を出すようになり、高野先輩から半ばパワハラめいた感じで局長杯に出場を誘われた結果紆余曲折経て(演練で刺されすぎて絶食したりしたが、そこまで書いている紙面がない)花井杯で準優勝までしてしまった。自分にとって、「何かを得た」経験は人生において初めてのことであった。これには多くの先輩方と同期による演練減多刺しが大きく影響した。ここから自分は雄辯部における居場所ができた気がしたし、雄辯部という「場」そのものに深く感謝し還元しようとするきっかけになった。(そして政経学部

佐久間先生の影響もあって『負債論』『贈与論』に行き着く)

先輩からの恩恵を受けて自分も先輩として後輩に恩恵を与えんとする系譜に拘っているのは、まさに自分が先輩から良くしてもらっていたからである。そういう贈与の継承こそが雄辯部が至高の場であるための条件であると思う。

自分が十全に先輩としての仕事をできているかという点と全然できていないし、自分は他人と関わるのが苦手なタイプなので可能なことは限られている。しかし、自分が大した人間ではないことを自覚しているからこそ、せめて自分ができることだけはやっていこうとしてきた。かつての先輩方ほど自分が後輩にしてあげられることはほんの僅かなことに過ぎなかったけれど、どうか許して欲しい。

後輩に関わり過ぎないことも重要だ。後輩が雄辯部という場で自らの道を歩もうとすることに対して、むやみに先輩が干渉してはならない。この卒部の辞と、紫紺杯弁論をもって遺言としよう。今はただ、過去・現在・未来の雄辯部員たちに感謝を。

「風蕭蕭として易水寒く、壮士一たび去りて復た還らず。」

—司馬遷『史記』荆軻

ラストワード

「何のために雄辯部に入ったのか」

これを考えたことのある部員はそれなりにいるものと思う。わざわざ高い金と膨大な時間をかけるサークルに対して、私は何を為せるのか、どんな意味があるのか。これは、唯一解が存在しない問いである。同じ雄辯部員でも様々であって然るべきだろう。

私はどうだったかと言うと、実は考えるほどでもなかった。ほとんどすべての部員が新歓等を通じて“主体的に”道を選んだのに対して、ただただ一斉送信された(と思われる)メッセージ一つで“なんとなく”門を叩いてしまったからである。何かしたいことがあって、勇気を振り絞って……そんな感動エピソードは皆無であり、当時の私は送り主たる某先輩の「雄辯部では歴史研究もできる」「だけど人がいないから来ないか」という都合の良い謳い文句に脳死で「あ～、いきます」と返したに過ぎない。確固たる“雄辯部でなければならない理由”もなく、とりあえず入ってみただけ。これが雄辯部ではなく、マルチや宗教団体だったとしたら、今よりも更に狂った人生になっていたのは間違いない。

そういう変な経緯があるため、私は雄辯部に何か理由や意義を見出そうという気にはならない。聞いてもなかった弁論をやらされ、歴史になんて触れる暇もほとんどないままに企画や研究にも足を突っ込み、周回遅れで執行部にも飛び込んで……色々やってきた自負はあるし、それらは(苦労したが!)楽しいものばかりだった。かと言って、やはりルーツとして“雄辯部で成し遂げたい何か”が欠落していたのが私であるため、実態としては手当たり次第に人が足りていない領域に就いていただけである。主体的に何にでも挑戦していたわけではなかった私には「雄辯部にはこんな意味がある! 君たちも続け!」みたいなメッセージを打ち出すには不適だろう。

雄辯部ではかけがえのない経験を積むことができた。だが、それらには決して挑むべき理由も成し遂げる意義があったわけではない……私の回想はこのあたりで十分か。

では、雄辯部は楽しいだけの空虚に過ぎなかったかと言えば、それは明確に否定しておきたい。誰が最初に言ったのかは忘れてしまったが、雄辯部には頑張れる環境があるためだ。入部すれば誰もが弁論の試練に放り込まれる現状を鑑みれば、とにかく全力で頑張らないといけないときが確実にやってくる、とまで言えるのではないかと思う。時には理不尽を端に頑張りを求められることもあって正直なところ大変なのだが、それでも努力が肯定される環境であることに変わりはない(理不尽をかけないと人が確保できないような頑張りであれば、尚更周りからはありがたがられる)。一步間違えばブラック企業の体質は、現状の雄辯部では概ね上手く機能している。試練を超えた先には、何かしら得るものがある。これを読んでいる貴殿が迷いの森にいるのなら、一度頭を止めてみてはどうだろう。

先に「意味なんてなかった」みたいなことを述べていながらも、結局それっぽいことを提示している矛盾のように映るかもしれないが、肝要なのはこの話が私の教訓だということである。入って間もなくからリアルタイムで“到達点”を見据えていたわけではない。せいぜい折り返し地点を過ぎてから実感できるようになっただけで、現役の頃というのは無為そのものであった。あったように映る意味は、後付けでしかなかったのである。

「やる意味があるのか否か、意味を見出せないことは一切手を出さない」

もし雄辯部という場に愛着を持っているのなら、そんな思考は雄辯部では捨ててみてほしい。確かに、社会に出てからは必ずしも努力が評価されるわけでもなければ、応援してくれる誰かがいるかも怪しい。自分の糧にならなさそうな事象を切り捨てるのは、いずれは必要になることなのは間違いない。だが、社会に出る前に、失敗や損失が大したことにならないうちには、そこまで徹底することもない。とりあえずやってみて、自身の好き嫌い得意不得意を知る。悪い話ではないはずだ。私は旅行趣味なもので、国内各地色んな土地を訪れてきたのだが、旅先では想定外の発見が多くあった。行って初めてわかることは山の如く、その上当てになるものばかり。自由意志というのは、決して万能ではないのである。これは学生旅行からの教訓だが、もし良かったら参考にしてみしてほしい。情けなくて申し訳ないが、私だからこその遺言はこれくらいしか思い浮かばなかった。

そもそも、先ほど後付けと書いたように、生ける個人の有する意味なんて結局はこれではないだろうか。生まれた時から、門を潜った時から、何かしらの意味や使命を持っているほうが圧倒的にレアケースである。しかも、それが明確であればあるほど、分岐点は見つからない。今日中に東京から大阪に行かねばならないときに、札幌や福岡に行くのは困難である。家電であれば固より期待される役割を全うするばかりだが、人がそうなることに対して良い印象を抱く者はそう多くないだろう。初めから何らかの意味を前提として物事に取り組むばかりでは、空虚である。私も一応 Z 世代だが、所謂コスパ・タイパを第一とする価値観は回り回って自分の首を締めるだけではないだろうか。意味なんて後付けで十分である。やってみればわかんない。何にせよ、必死になって取り組んで、終わってから後付けされる。とりわけ様々なチャンスに巡り会える雄辯部であれば、こうした姿勢のほうが色々と(苦労はするが!)楽しい思いをしやすいものである。何のための雄辯部、という問いかけは、卒部まで取っておくほうが味わい深い(と今しみじみ実感している)。

雄辯部ならではの利点を最大限活かしてみてもしくて執筆した次第だが、そうは言っても私はもう去る者であることを忘れないでほしい。これからの雄辯部は、これからの部員に委ねられるべきである。この駄文を参考にしなくたって OK である。ただ、強いて言えば、先輩の卒部の辞としてではなく、一人の小言として何か響くものを届けられたのなら、わざわざ最後の旅行中にキーボードを叩いた甲斐があるというものである。

ありがとう、雄辯部。さようなら、全ての雄辯部員。これからの弁士に期待する。

3月某日 三陸鉄道リアス線宮古行の車内にて

卒部の辞

時間が経つのは本当に早いもので、愛おしい大学生活にもう終止符が打たれてしまうのか...というやるせない気持ちが日々募っていく。そんな中、卒部の辞を書くことで卒業する実感がはっきりとしていくことが嫌だなあと考えていたら、締切を過ぎてしまった。この先延ばしする悪癖は早くどうにかしなければ...

さて、私は後輩に向けて何か立派な話や偉そうな説教をするような立場でも性分でもないの、雄辯部との運命的な出会いを振り返りつつ、感謝を述べて締めようと思う。期待に胸を膨らませて明治大学に入学した2020年、自分が夢見た輝かしいキャンパスライフは当時全盛期だったコロナによって儚くも崩れ去ってしまった。入学式も新歓も中止になり5月からようやくオンライン授業がスタートするという始末だった。しかし、zoomを使ったオンライン授業だけでは交友関係が築けるはずもなく、一人パソコンに向き合ってレポート課題を消化するだけの日々が続いた。また、遊びに行くことができず金も必要ないので、アルバイトをする気も起きなかった。そんな調子でついに一度もキャンパスに通うことなく春学期が終了してしまい、オンライン授業をゲームしながら適当に聞き流していた結果、大量に落単した私は流石にこのままではヤバいかもしれないと思い始めた。そこでとりあえず課題を協力する仲間を見つけるためTwitterを始めたところ、雄辯部という何やら怪しい団体から新歓講演会のDMが届いたのである。これが私と雄辯部の出会いであり、コロナ禍でなかったら絶対にあり得なかったと思うと今でも感慨深い。

そして、何もしないよりはマシという軽い気持ちで入部した私は、弁論大会やら飲み会やらを通じていつの間にか雄辯部にのめり込み、企画局長として部の運営に携わるようになっていた。その過程では多くの学びがあったし、基本的に受け身な私が主体的に物事に取り組む経験を積めたことは大きいと感じている。結局、人生を充実させ自己実現をするためには、自ら選び取った道に対して主体的に行動するより他はないのであり、大学生活という自由な場(何もしなければ何も起こらない環境)でそのことに身をもって気づかせてくれた雄辯部には本当に感謝している。部外に目を向けると、主体性のない無責任な学生の多さに驚くことがある。雄辯部に入れば弁論や企画、運営など自ら行動を起こせる機会が山ほど転がっており、そうした人間に対して主体性や当事者意識を持たせやすいところも、雄辯部の良さだと思っている。これからの雄辯部が果たしてどのような路線を辿るのかは分からないが、こうした良いところが残っている組織であってほしいと願う。

最後になるが、お世話になった素晴らしい先輩方、同期、後輩に心の底から感謝したいと思います。雄辯部を通じて皆に出会えて本当に良かった。今後の雄辯部と後輩達の活躍を応援しています。

文学部文学科英米文学専攻 4年 武知璃々花

4年間はあっという間でした。気弱で世間知らずだった私はもう社会人になろうとしています。一瞬で過ぎ去りましたが、とても濃密で沢山の経験が出来ました。4年間で、精神年齢は10歳以上大人になった気分です。その私の大学生活の中に、雄辯部は存在しました。私の雄辯部への思いなどを、昔話と共に語らせていただきます。

世間がコロナ色に染まり、渋谷のスクランブル交差点から人が消えた2020年4月、私は明大前に一人家を構えました。友人は居らず、新宿駅の乗り換えなど分かる訳もない当時の私が家で暇を持て余している間に見つけたのが、雄辯部の投稿、新歓案内でした。よく分かりもしないままオンラインでの新歓に参加し、その場に居た大屋敷先輩(130期卒業生)に、「明日、結団式があるから軽い気持ちでも大丈夫、取り敢えずおいで。」とそのまま結団式への参加を決意。こうして1年次に私が入ったサークル9つのうちのひとつとして、私の雄辯部での4年間が始まりました。

雄辯部での記憶、私が特に覚えているのは結団式の後の懇親会です。当時興味を抱いていた哲学分野や私の地元、愛媛の政治情勢、学部の特攻など、各々の分野に精通した先輩方が、朝まで話をしてくださったことを覚えています。受験勉強しかしてこなかった私はそれらの議論に加わるといふよりかは、聞いていたに近いです。それでも、自分の興味のあることに対して自由に学べ、楽しむことが出来る大学での学問の素晴らしさを教えてくださった大きな出来事でありました。雄辯部に居るだけで多様な知識や価値観を知ることが出来る、そのような議論空間として雄辯部が成り立っているのだと感じられた、印象的な経験でした。

次に覚えている記憶は、私の新人弁論大会です。後輩の中には、私が弁論を書き、大勢の前で発言する姿に想像がつかない者も多いでしょう。私は人前に出て話すことが大の苦手でした。大勢の前で自分の意見を述べる事は、異なる立場と戦う事であり、その中には築き上げた人間関係さえ崩壊しかねない、という肥大したイメージが私の中にありました。何となく雄辯部に飛び込んだだけの私には、弁論大会とはその苦手と戦う場でありました。弁論作成時での理念詰めや添削でも都度凹み、作り上げた弁論も当日の大会では更なる鋭い質問が相次ぎました。弁論も心もボロボロです。もう嫌だと思いながら大会を終えましたが、その翌週、私に質問を浴びせた先輩が食事の場を作ってくださいました。そして、あの弁論にはこんな問題がある、こんな解決策も見えてくると弁論を更に発展させる意見を投じてくれたのです。私も、そんな先輩の意見に対し、少しずつ、率直な意見を述べることができました。(その後先輩は馬場ロータリーで明大校歌を熱唱し、早大生に喧嘩を売られていました。)あの日は今振り返ってみると、立場関係なく、素直に自分の意見を述べた初めての機会かもしれません。私の中での議論の考え方と雄辯部は、自身の弁論を経たところから、少しずつ変化しました。

私が4年間、雄辯部員であることが出来たのは、これらの記憶をはじめとした、雄辯部を通じて得た沢山の人間関係や知識のお陰です。沢山入ったサークルも、今では雄辯部一つとなりました。雄辯部には先輩方にも、同期にも、後輩にも、志を持つ人が多く存在します。私には何か成し遂げたいという同志のような強い動機や意志はありませんでしたが、雄辯部の4年間は、私の中の世界を広げてくれました。これから成し遂げたい事象が生まれた時に、この環境に居られたことは、大きな財産となるでしょう。少し後悔が残るとすれば、もう一度弁論をすることと、このような議論を後輩とも重ねることです。損得や立場から離れ、率直に意見を述べ合いながら発展させられる場はとても貴重であり、もっと語り合えることも多かったのではと思うばかりです。私は後輩との関わり方が下手でした、後輩の皆さんは、何でも気軽にメッセージを送ってください。

雄辯部での出会いにとっても感謝しています。そして、雄辯部員であったことを誇りに思います。雄辯部を通して出会った仲間の様に、志と信念を持ちながら、私も社会に出ます。

2024年2月某日

法学部法律学科4年 白君義秀

都合により不掲載

政治経済学部政治学科4年 平田理恵

部内新弁、企画発表、選挙管理人など、色々経験させてもらいました。難しさや大変さもたくさん感じましたが、終わってみればどれも良い経験だったなと思っています。

お世話になりました。ありがとうございました！

詩仙・李白の著した『春夜宴桃李園序』には「夫天地者万物之逆旅、光陰者百代之過客。而浮生若夢、為歡幾何。」という一節がある。「そもそも天地は万物の旅宿のようなもので、時の流れは永劫の旅人のようなものである。そして、儂くも短い人生は夢のように過ぎ去り、歡樂の時は長く続かない。」という意味である。自らの雄辯部における足跡を顧みるとき、前掲の一節に況して符合する詞はあるまい。

思えば、大陸から暗雲立ち込む中で始まった大学生活において、大学の授業も気心知れた友人も進むべき目標もないまま漂流しかけていた私の旅宿となったのがこの雄辯部であった。志高い先輩と同期に囲まれ、昼夜を問わず Zoom に集まって夢や野望を語り合っていたあの瞬間は何にも代えがたいひと時だった。先輩方が示してくださった「自己実現と社会貢献のプラットフォーム」という Vision に魅せられ、雄辯部が時代遅れの単なる

「弁論部」でなく存在するためには何を為すべきなのか、そもそも弁論にはどれだけの意味があるのか考え続けたことには意味があったと思う。

そして矢の如く過ぎ去った1年を終えて、我々は主として運営を担う立場になった。偉大な先輩の影を追い掛け、何が自分に出来ることなのか見当もつかないまま代表となり、後輩たちを導かなければならなくなった。理想とする姿は確かにあった。文化部連合会(文連)を再興し、権利自由・獨立自治を體現する当局との対話の空間を、雄辯部1年目の時に感じたあの感動を全学に共有できる場を生み出したかったのだ。しかし、一度ついた部勢拡大の大きな流れに舵を取られ、部内政の安定のほか余力も少なに、これを実現するに足る牽引力を失った。部員数が100人を超える団体に再び出来たことは後世に「偉業」と言われることもあるのかもしれないが、代表職にあった「夢を魅せる力」を、つまり「掲げた理想は当代で実現できる」という一つの流れを潰してしまったことについては、後輩達に申し訳のないことをしてしまったと思うと共に今でも心残りだ。

また、あれだけ1年生の時には「弁論に最早価値はなく、学生相手に政策の話などしたところで微塵も意味はないのだ。」と断じていたにもかかわらず、恐らく同期中で一番弁論を書きまくっていたようにも思う。部内新弁、第1回局長杯、五月祭選考会、130周年式典弁論、春秋杯、尾崎杯、そして紫紺杯。「弁論狂い」であると評されても仕方が無いくらい書いている。「雄辯部は「弁論部」ではない。」と言っていた私が一番、雄辯部を「弁論部」にしてしまったのだろうと今となっては思う。全く、言行の不一致も甚だしい奴であるし、傍から見ていたならば十分に輕蔑に値するとも思う。大きな物語を提示し、そのすべての実現に限りなく近づいていた先代が終盤、部の有様に幾分の絶望を覚えたというのも要因の一つは私にあらう。これも無念極まりない。

しかし、いくら懺悔しようとも慙愧の念に堪えずとも、月日の流れは待たずして過ぎ去っていく。自身の負の足跡をこれだけ厚く述べてはきたが、そうできるくらいには部にのめり込んでいたし、本気で活動していた。そんな部で過ごした夢のような時を想うのがあ

まりにも名残惜しい。

雄辯部には使命がある。志溢れる若人を導き、研ぎ澄まされた理想の実現に心血を注ぎ、誰一人として置き去りとせず包摂する社会の構築、良化に寄与し続けるという使命が。故に我々は全ての不条理と戦い続けなければならない。後にくる者達に進むべき道を示し、啓蒙を施さなければならない。先輩としての私は正直なところ、そのように、理想的に在れたとは思っていない。現にこうして卒部の辞の提出期限を幾度となく破り、迷惑をかけているのだから。だがもし、そんな私を手本に取って歩まんとする後輩が居るのであれば、私にはその後輩に万難を排して背中を見せ続ける責任があるだろう。雄辯部とは人生そのものであり、その人の生き様にこそ雄辯部員としての在り方が表出するからである。後輩諸君にとり、雄辯部がそんな「在るべき生き様」を模索できる空間であり続けることを祈っている。

末筆ながら、こんな私に目を掛け、振り回されてくれた諸先輩や同期、後輩諸君に心からの無上の感謝を。来たるべき日にまた夢と理想を語り合える時を楽しみにしている。

*May the YUBEN be with you.
May God be with YUBEN.*

紫紺杯弁論で文章力が出涸らしになってしまった 131 期代表 藤川太暉

経営学部会計学科 4年 吉田健太郎

卒業予定の吉田です。諸事情で雄辯部活動は部分的となってしまいました。私が主体的にしたことと言えば、新弁(都市緑化構想)と企画発表(大麻)くらいです。本当はもっと企画も弁論もやりたかったのですが、卒業には抗えないので、三木会とかでナニカすることになります。そのときはよろしく。

また、個人的なことで恐縮なんですが、一昨年あたりから聖書にはまっていて、それこそ毎週教会にも行ったりしていました。最近はまだ行けてないのだけれど。聖書にはまっていると書いたのは、クリスチャンになりたいというよりはむしろ、聖書の内容を知っていると、好都合だからです。ただそれだけ。あるとき牧師との会話の中で、キリスト教は『まあいっか』の宗教なんだよ、と言われました。どういうことか。それは、人生は良い時ばかりじゃないのは誰もが自ずと知るところですが、その悪い時も『まあいっか』で済ませられるというのです。その根拠はどんなに悪いことがあっても、その先に必ず神様が用いてくださるはずだからです。もちろん、『まあいっか』で済ませられない問題も実際あると思うし、その根拠だって、キリスト教に馴染みのない人からすれば、納得し難いと言うことは十分承知しています。

しかし、ここで言いたいのは、どんな時でも楽観的でいようと言うことです。ぼんやりと不安定な状況であったとしても、全てを分からなくても良いから、分からないなりにその不安定さを受け入れること。自分の能力だって未来進行形で考えれば、今できなくとも、どうにかなると思って前に進んでいくこと。こうした楽観姿勢を持っていれば、対処できないことなんてそうはないと思いませんか？ペシミストよりは良いはずです。きっとね。

かく言う私が卒後は一時不安定な状況に置かれますが、同じ資格を目指す仲間がいたり、その先の未来は明るいはずとしたりして、今の時期を過ごしています。

恐らく、卒部の辞では他の人が雄弁を奮っているはずなので、私はこのくらいで。さようなら。そしてありがとう。

特別コラム ～故郷宮古 1 号店へ～

2024 年 3 月 2 日(土)、和泉キャンパス傍の沖縄料理店宮古 1 号店が閉店しました。何十年にも亘って我ら雄辯部員がお世話になった故郷の閉店という雄辯部史上特筆すべき大きな事件に直面したことを踏まえ、部員の追悼と感謝の寄せ書きコラムを設けさせていただきました。宮古 1 号店様、本当にお世話になりました。



- ・一つずつ消える名残というか歴史というか、不意に悲しくなりました。宮古で仲間と酌み交わした杯を忘れません。
- ・宮古も 24 卒だったんやな
お疲れ様でした
- ・僕の大学生活の始まりは、宮古からでした。
ありがとうございました。
- ・ずっとそこに在るものだと思ってた。
ただただ悲しい
- ・部の名前を出すとか々と優遇してくれるという経験はしたことなくて感動しました。今までありがとう
- ・2 階でたくさんお騒がせしました みんなで突いた宮古焼きが本当に美味しかったです
- ・昔の空気をそのまま残していた様な宮古の雰囲気が好きでした。1 年間ありがとうございました。
- ・美味しくたくさん食べられた！ソーキそばと宮古焼き(卵トロトロ)が特に好きでした！
- ・今までありがとうございました！ご飯も美味しかったし、お酒も冷えてて美味しかったです！僕が初めてお酒の味を知ったのもここでした笑。これからも頑張ってください！
- ・30 以上も年が違う OB の先輩も使っていたと聞いております…。たくさんの酩酊者と怪事件を発生させた雄辯部の故郷として心に残り続けます...ありがとうございました！
- ・いつもいつもどんちゃん騒ぎさせてもらいありがとうございました！宮古焼き美味しかったです！！どうかお元気でいてください！！
- ・タコライスの取り分けが大変だったけど、今となっては良い思い出...泣
- ・「あれ、雄辯部のしわざなんですよ」と他サーの一の人に過去の先輩の罪(落書きと天井の穴)について言及され、肩身の狭い思いしなくなると思うと少し寂しいような、よかったような。お疲れ様でした。
- ・貴店には散々ご迷惑をおかけしました。ごめんなさい。雄辯部との思い出がたくさん詰まった宮古がなくなっちゃうのは悲しいですが、これもまた諸行無常の理なのでしょう。でも思い出はきっとなくなりません。いままでありがとうございました。

編集後記 ～駿台雄弁の編集を終えて～

弁論を書く時、新規性溢れる活動内容を考えた時、部員としての在り方に迷いが生じた時、部の未来を本気で描いた時、私は駿台雄弁をよく手に取った。駿台雄弁、これは顔も名も知らない先輩方が引き継いで来てくれた雄辯部の歴史書だ。130余年の長い時の流れの間に数え切れぬほどの弁論原稿作成、部の方針対立、運命の出会い、理念の確立が展開されてきたのだろう。時の流れを生きてきた名もなき雄辯部員の記録の裏には、幾千もの自己研鑽、懐古、悲傷、怒り、ありとあらゆるものが詰まっている。

記録によると、駿台雄弁は今からちょうど60年前の1964年に創刊号が発刊されたようであるが(『雄辯部名鑑』の発行は1957年、『明大雄辯』の創刊は1958年)、残念ながら図書館に残っている最古の駿台雄弁は第3号であり、記念すべき創刊号を確認することが出来ない(もし残っていたら私の確認不足なのでかなりまずい…)。掲載内容も年によって異なっており、60年間掲載内容が変わらなかったわけではない。

駿台雄弁作成は広報局(2004年まで機関紙局)からも書記局からも分離して駿台雄弁担当として独立しているのだけれどこれまた不人気の役職…。2024年現在はパソコンを使って作成するのだけれどWordでの編集がこれまた大変。実際作成に長く携わる木村荘太先輩には何度迷惑をかけたことか…。その上今や130名を超す勢力となってそれだけ多くの原稿も自己紹介も集めなきゃいけない。今年は遂に200ページを超える分量となった。期限を破る人は平然として迷惑被っても平気な顔をしないとイケない。16万字もの誤字脱字確認、フォント調整、何度も原稿を読み返して読み返して読み返して…。現に追いコン当日までの製本が間に合わず、追いコン当日までの入稿を目指すスケジュールとなってしまった。卒部しいざ社会に歩まんとされている131期の先輩方には何とお詫びしたら良いか…。申し訳ございません…。さて、こんな労力を割いてまで駿台雄弁作成に携わろうと思う猛者は今後現れ続けるのだろうか…作成は続けられるのだろうか…歴史書は未来に引き継がれるのだろうか…。

今この2024年度駿台雄弁を手にとってくれている君は過去の駿台雄弁を読んだことがあるだろうか。もし読んだことがなかったら何年度の駿台雄弁でも構わない。是非とも手に取ってみて欲しい。そこには今では行われていない魅力的な活動やその当時の社会情勢を反映した部員の問題意識が記録されている。もちろん、歌舞伎町に響き渡る雄叫びの記録や波が打ち寄せる海岸で筋トレに励む写真といった不可思議な記録も数多刻まれてはいるが、社会変革の志を常に胸に抱き、国政政党代表との政治討論会や全国遊説といったサークルの枠を飛び出し自己研鑽に励んできた齡20前後の若き学徒の記録が記されている。過去の活動内容を今後のアイデアの種とするだけでなく、今も昔も良くも悪くも雄辯部員は変わらないのだなと感じるだけでも十分駿台雄弁は価値があるように思える。願わくは雄辯部が存続する限り作成され続けて欲しい。

さて、今年は2024年、雄辯部OBの三木武夫先輩が組閣してから50年目の節目、村山富市先輩(?)が組閣して30年目の節目。そろそろ雄辯部から3人目の総理大臣が出てきてもいいのでは…?2年秋学期に人生初のフル単を達成し、無事留年回避&脱和泉を果たした駿台雄弁担当の自分もついに20歳になる節目の年(明後日誕生日…!)。民進党を率いる頼清徳氏が当選した1月の台湾総統選挙、3月のロシア大統領選挙(明日…!)、11月にはアメリカで大統領選挙、日本国内でもそろそろ衆議院総選挙が行われるとかどうとか…?民主主義の根幹が問われる選挙だらけで社会情勢に目が離せなくなりそう。今年はどんな1年になるのやら…。

そんなあらゆるもののターニングポイントになりそうな2024年現在、過去の駿台雄弁は駿河台キャンパス中央図書館の地下3階にひっそりと眠っています。いつか名も顔も知らぬ後輩がこの2024年度駿台雄弁を手に取り、過去の雄辯部に思いを馳せ、悠久の時の流れを感じ、明治大学雄辯部の存在意義を再確認してくれたらこれほど嬉しいことはない。

最後に、駿台雄弁作成に携わってくださった131期木村荘太先輩、132期手崎信吾先輩、133期十二建太氏、134期岩本光太郎氏、平田里颯氏、そして今年度の全雄辯部員にこの場を借りて感謝を述べたく思う。追いコンまでの製本は間に合いませんでしたが、駿台雄弁の編纂に携われて光栄でした。ありがとうございました。

そして今、この駿台雄弁を手にとってくれている未来の君へも。手に取ってくれてありがとう。

3月16日 15:29

131期最終弁論&追いコン直前の駿河台キャンパスにて

2024年度駿台雄弁担当 大河原優人